



396

45

大正九年版  
筑豊石炭鑛業要覽

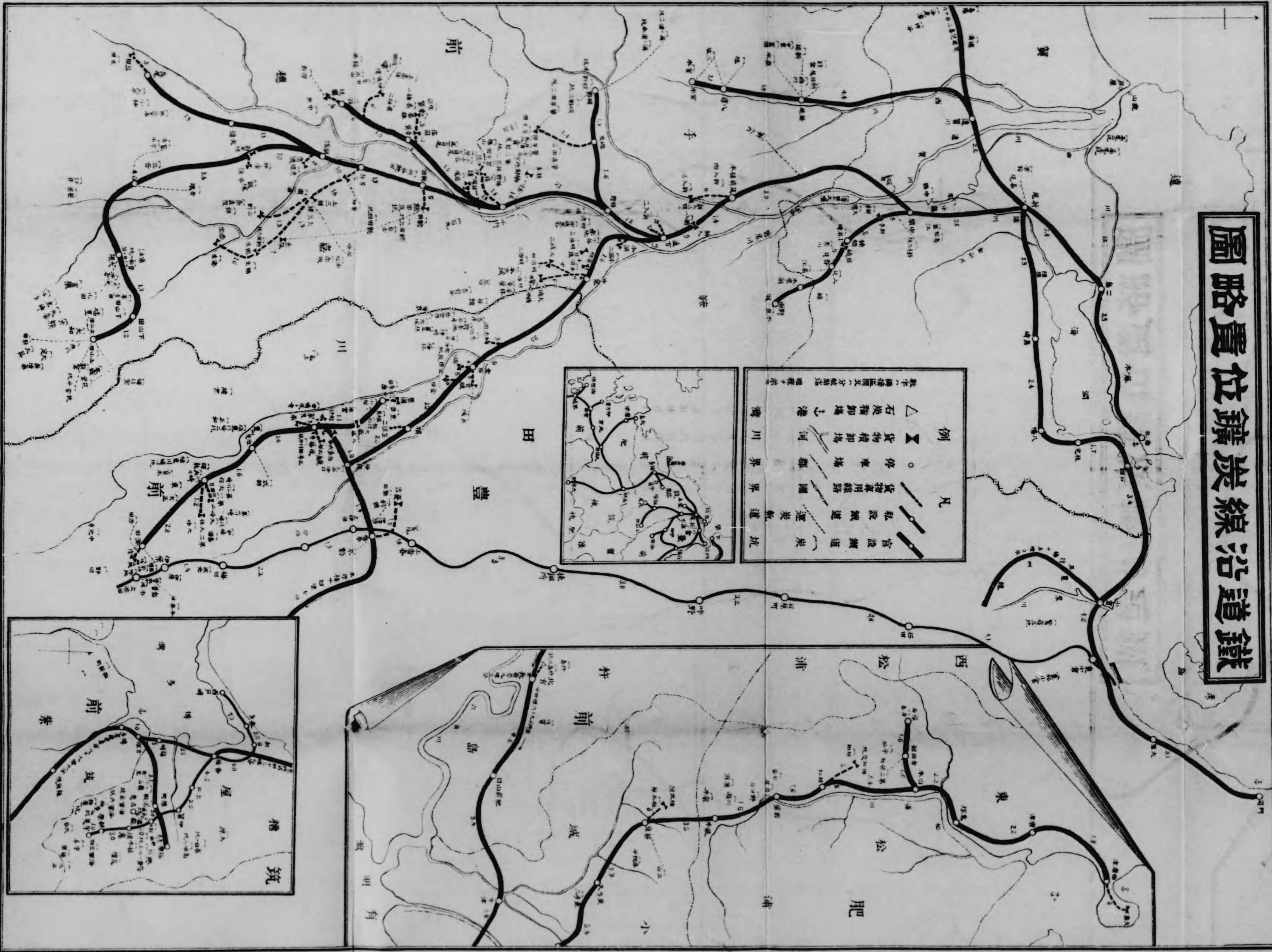
始







# 鐵道沿線炭鑛位置略圖



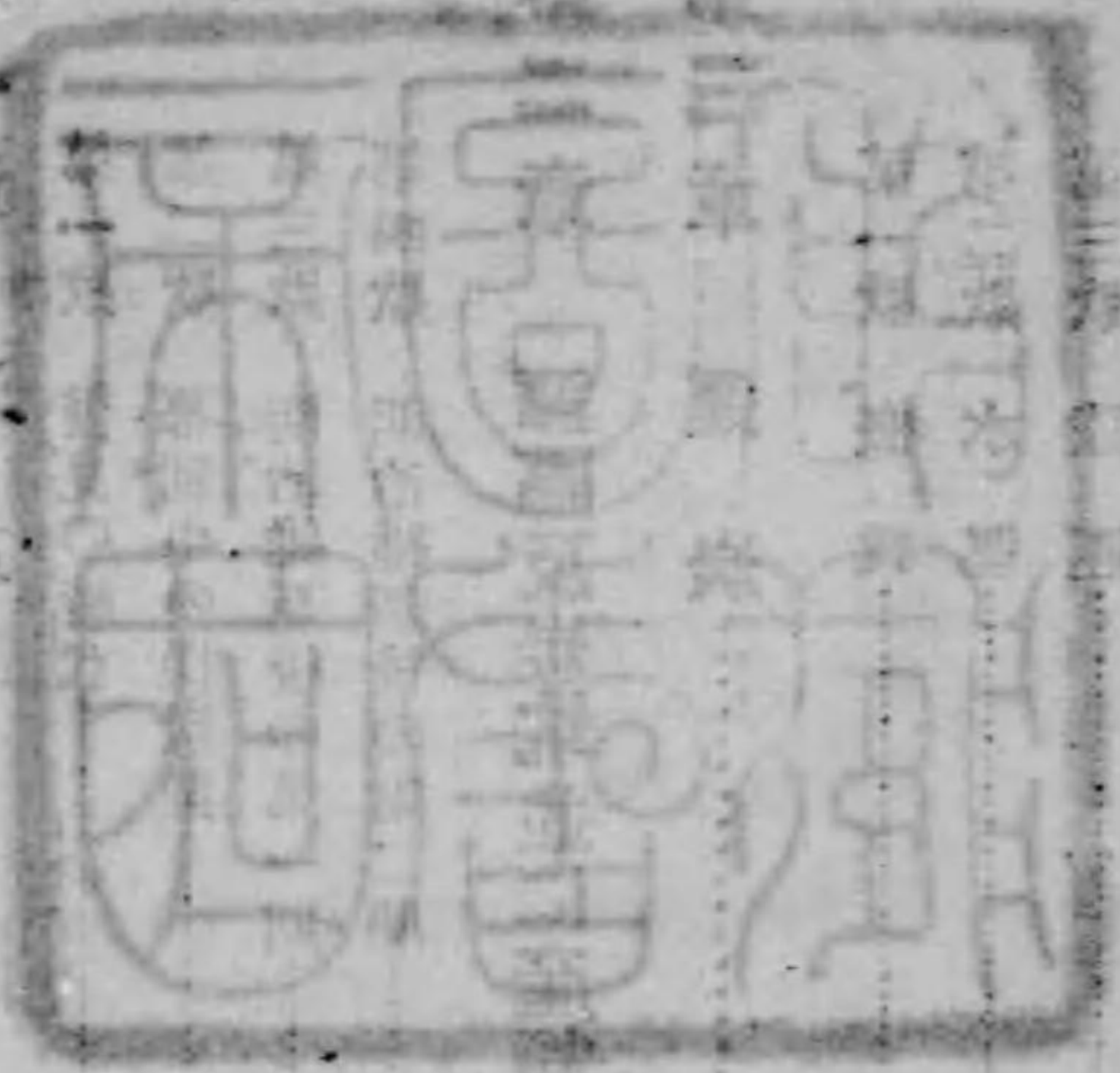
大正九年版 筑豊石炭鑛業要覽目次

396-45

第一章 沿革	一
第一款 發見の時代	一
第二款 幕制中の採炭業	四
第三款 明治維新後の第一期	六
第四款 明治維新後の第二期	一一
第二章 鑛區及炭坑並に産額	一九
第三章 運炭	五八
第一款 概説	五八
第二款 水運	六一
第三款 陸運	六三
第四款 總送出高内譯類別	九二
第五款 炭坑別總送出高	一〇〇
第四章 貯炭、船積及販賣店	一一一
第一款 貯炭	一一一
第二款 貯炭場の面積及使用料	一二四
第三款 船積設備及手数料	一二七
第四款 販賣店	一三三
第五章 内外仕向	一四一
第一款 内地輸送高	一四一
第二款 海外輸出高	一五五
第三款 内外仕向高總額	一六三
第六章 筑豊石炭鑛業組合	一六六
第一款 組合事業の成績	一六六
第二款 組合規約及役員	一七三

大内

大正九版 筑豊石炭鑛業要覽



第一章	發見の時代	一〇〇
第二章	發見の經過	一〇二
第三章	發見の地質	一〇三
第四章	發見の地層	一〇四
第五章	發見の地質	一〇五
第六章	發見の地層	一〇六
第七章	發見の地質	一〇七
第八章	發見の地層	一〇八
第九章	發見の地質	一〇九
第十章	發見の地層	一一〇

大正九版 筑豊石炭鑛業要覽

第一章 沿革

第一款 發見の時代

筑豊石炭發見の時代は特に文書の徴すべきものなしと雖、其の探掘が既に二百年以前に於て稍見る可きものありしことは、左の文書及事蹟、口碑等により疑ふ可からざるもの、如し。

筑前續風土紀中の一節

に曰く「遠賀、鞍手、嘉麻、穂波の中、諸所の山野に燃石なるものあり、村民之を掘り採りて薪に代用せり、遠賀、鞍手には特に多し、頃年船屋の山にても掘れり、煙多く臭惡しと雖、燃てて火久しく、水風呂の釜に焚くに適し、民用に最も便なり。云々」是に由りて之を觀れば、貝原益軒が筑前續風土紀の脱稿せし元祿十五年以前に於て、既に以上各郡と船屋郡との民用として、之を採掘しつゝありしを知るを得べし。因に記す、元祿十五年は今大正九年を去ること實に二百十九年なり。

嘉穂郡山野炭鑛の舊碑

明治三十一年中、筑前嘉穂郡稻築村三井山野炭鑛第一坑開鑿の際、三角形の石塊五六寸許り地表に露出するを發見し、試に土壤を掃ふて其の石塊を檢せしに、幅一尺二寸高さ二尺五六寸の石碑にして、表面の上額に梵字を刻し、中央に「爲供養」の三字を大書し、向つて

第一章 沿革 第一款 發見の時代

右に「享保十八天」、左に「雪月日」と細書し、其の下に「奎平、左市、中七、徳平、地七妻、三介妻」と連名し、左側に「施主古江地平」と刻しありしかば、同炭礦事務所にては、兎も角も一の紀念として地表に掘出し、今尙現に保存しあり。右に付同地父老の語る處によれば、「石碑の施主古江地平は代々大庄屋の家格ある永富某の祖先にして、右の外同人の名を以て、近郷の神社佛閣に、碑石を建立寄進せしこと多ければ、此の碑も亦變死者供養の爲めに建立せしものなるべし、而して其の位置在來の墓地にあらず又寺院の遺跡にもあらず、無数の採炭舊坑散在せる林藪中なりしによりて察すれば、此の變死者なるもの此の地に於て採炭中天井盤の墜落により、一時に壓死せしものならんか、云々」と云へり。此の説にして誤りなくんば、其の建立の當年即ち享保十八年なる、今大正九年を去ること一百八十八年前に於て、既に六名の坑夫が同時に入坑稼業すべき規模を以て、採炭に従事せしものありしを推知すべし。之を前記筑前續風土紀の記事に参照すれば、當時斯業の大様髣髴として察すべきものあるを覺ゆべし。

**口碑の一** (堀川運河開鑿中の發見) 寶曆年中、筑前の國主黒田光之祖先長政の遺志を繼ぎ、遠賀川より、洞の海に通ずる堀川運河開鑿中、楠橋村字壽命より同陣原瀉までの間、吉田村の地内にて、人夫等火を焚て茶を沸かせしに、忽ち黒色の石塊に焚へ付きしを見て、始めて焚料に適するを知りたるもの、即ち同地方石炭發見の端緒なりと云ふ説あり、思ふに寶曆元年は今を去ること百六十六年前にあり、前記山野炭坑舊碑建立の年より十八年以後のことなれば、數里を隔てたる嘉穂郡の一部にて、既に六人の坑夫が一時に採炭に従事せし頃に於て、遠賀郡の一部に尙石炭の焚料に適するさへ知らざるものありとは、今日に於て聊怪しむべきが如しと雖、交通の不便なりし往時に於ては、尙此の如き迂遠な

免れざりしものならんか、記して後日の參考に供するのみ。

**口碑の二** (豊前赤池の坊主ヶ谷) 豊前田川郡赤池炭坑附近に、坊主ヶ谷と稱する處あり、約二百年前行脚の一僧山中に露宿し、火を焚て暖を取りしに、黒色の石塊異臭を放ちて焚け上りしかば、始めて燃料に適するを知り、山を下りて之を里人に告げたるもの、即ち同地方石炭發見の嚆矢にして、坊主ヶ谷の名亦因りて起る所以なりといへり。以上の如く、漠然として其の年代を詳にせざる傳説は、尙之を聞くことなきにあらざれども、今一々茲に採録せす。只參考として三池、高嶋、唐津等の各方面に於ける發見の傳説を左に掲げ、期せずして何れも偶然の發見なりしを証據立つること、すべし。

### 參考 三方面の傳説

**三池炭** の發見は文明己丑の年、三池郡トウカ稻荷村の農傳治左衛門なるもの、稻荷山に構して焚火の黒石に點するを見たるに始まるといふ。今を去ること實に四百七十年前にして傳説中最古のものなり。

**高嶋炭** は寶永年中(二百年前)肥前平戸の領民五平太なるものによりて發見され、之を附近の鹽田に供したりとの傳説あり、果して事實なりとすれば、鹽田使用の嚆矢なるべきが如し。

**唐津炭** は享保年間(百七十餘年前)今の芳谷炭坑區内、北波多村大字岸山にて、一農夫に發見されたりと傳ふ。

## 第二款 幕制中の採炭業

二百年前燃石なる名稱を以て、貝原益軒の手に紹介されたる筑豊炭は、三池、高嶋、唐津等の石炭と共に、僅に民家の燃料として採掘さるゝこと數十年にして、漸く製鹽用に供せらるゝことなれり。

**筑豊炭製鹽用の嚆矢** (和田佐平) 今を去ること約百四十餘年前、即ち明和年間(於て、筑前遠賀郡若松の庄屋に和田佐平なる人あり、百方石炭の用途を研究せし末、始めて製鹽用に適するを知り販路を中國四國に開らし、採炭事業の擴張を試みしも、當時藩廳の忌諱に觸れ、一朝投獄の厄に遭ふて、其事業の大頓挫を來したり、佐平が投獄の大厄は斯業の發達を妨けたること勿論なれども、其の製鹽用に適することを紹介したる功勞は、永く没すべからざるものあるべし。

**筑前の仕組法** (松本平内) 佐平投獄の後約八九十年にして、筑前の人松本平内(今の松本健次郎氏の祖父)なる人あり、藩廳に獻策して始めて仕組法なるものを定め、明治維新の頃迄實行せり。是れ實に組織たつたる鑛業法令の嚆矢也。

**仕組法**は石炭、鶏卵、生蠟の三物産を一括し、共同販賣を目的とするものにして、其の取締所を遠賀郡蘆屋に置き、若松港に焚石會所の出張所を設け、年々各郡の採炭額を豫定して、之を當時の鑛業人に請負はしめ、其の分課額の多少により、坑夫の賃錢糧米等を前貸し、採炭の全部を焚石會所に上納せしめ、之を會所指定の石炭問屋に拂ひ下げ、代金の内より前貸金を控除して、殘餘を鑛業人に下附すること、なしたれば、採炭、販賣、共に家附の株となり、互に其の權利を賣買し、或は之を抵當として一時

の金融を計ることあり、且つ他より石炭買入れに來たる船舶あれば、問屋を経て其の旨を會所に届出で再び問屋を経由して所要の數量を買ひ取らしめ、入港當時の順序により、其の出港を許すを例とし、若し賣れ残りの石炭あれば、之を割り込みと唱へて、強て碇泊中の船舶に配當じ、義務買入れを嚴命し、若し其の命に應せざれば、出港順を繰り下けて、最後に出港せしめたりといふ。多少の弊害は此の間に行はれしやに傳ふれども、散漫にして統一せざりし石炭鑛業を一括し、規律的ならしむること共に、藩廳に於ける收入の一財源たらしめしは、斯業に一步を進めたる時勢相應の良法なりしもの、如し。

**小倉藩の赤池會所** 筑前に仕組法の行はれし頃は、豊前に屬する田川郡にも稍同一の方法行はれ、赤池川の沿岸に赤池會所なるものあり、一般の採炭事業を總括し(豊前の採炭業は一般民業の外、藩業として坊主ヶ谷、林ヶ谷の二ヶ所に營まれ、前者は町方役所の支配とし、後者は郡方役所の支配に屬したり)、採掘業者は年々若干金を前借して、其採炭を赤池會所に上納し、會所は之を相當代價に拂ひ下げ、貸金以上の賣上代は之を本人に下渡すこと、猶ほ筑前の仕組法の如くなりといふ。而して其拂下げを受けたる仲買人は、赤池川より遠賀川を下りて之を若松に送出し、福岡藩の焚石會所に販賣を依頼し、或は小倉に回漕して、同地の會所に依託販賣せしことあり、納税に就ては小倉藩の御用石と稱し採掘者一戸に付約千斤の石炭を上納する外、別に負擔する處なく、只川船を以て積み下すき、筑前豊前の境界にて若干の通行料を收むるのみなりこと云ふ。前記小倉藩の事業として、坊主ヶ谷及林ヶ谷より採掘せし石炭は主として藩廳の公用に供せられ、内若干を藩士の用料に頒ちることありしも、安政の頃より漸く流船燃料の需用あり、赤池會所又鶏卵の大きさを度とし、其の以下の小塊及粉炭は一切買上げ

ざること、なりし爲め、郡内の採炭業者始めて直接に若松に送り、吏員の手を借らすして、同地の川口屋、及小倉の中原屋某等に依託し、之を販賣せしことあり、蓋し鶏卵大以上の塊炭を藩廳に買ひ上げしは、筑、豊共に同一にして、筑前にては常に之を俵裝し、若松港口中の島に貯藏し置き、年々時を期して幕府に献納したりと云ふ。彼の川歸の船頭等が、今尙塊炭を呼ひて、單に御用と稱ふるは、即ち當時の御用炭を意味する也。

附記 燧石の發見

筑豊の間に採掘する燧石の發見は、明治以前幕制の末年にあり、發見者名を田島屋久兵衛と稱し、後、村上久三郎と改む。筑後久留米の人、曾て肥後天草に遊びて燧石を發見し其の用法を研究して石灰製造用の燃料に適するを知り、後筑前嘉穂郡上三緒、鞍手郡勝野、田川郡後藤寺附近にて燧石を採掘し、漸次販路を擴張したりといふ。

### 第三款 明治維新後の第一期

概況 (初年より日本坑法實施期迄)

明治維新後始めて斯業に關する法令の沿革の見る可きものあり、二年二月二十日行政官布告第七十七號を以て「鐵山開拓の儀は其地居住の者共故障無之候は、其の支配の府藩縣へ願の上掘出不苦候、府藩縣に於ても舊習に不泥速に差免し可申事、云々」と達せられしは、政府が鐵山開放の方針を示せし者にして、斯業に關する第一回の法令なりとも、藩制中は筑豊の間尙舊慣を脱せずして、毫も見ざる可き進歩の實なく、只高嶋に於て器械的設備を見たるを、明治六年七月より三池炭山を買収して、政府の手に採

掘業を起せしとありしに過ぎず、明治五年三月廿七日付太政官第百號布告を以て、鐵山心得を發表し、始めて斯業に關する根本的の方針と其大義を明にし、明治六年七月廿日に至りては、更に太政官布告第二百五十九號を以て、日本坑法を發布し、其年九月より實行して、全國の鐵業を統一し、始めて成文法を見るに至りたり、是れ實に明治廿五年六月一日、鐵業條例の實施に至るまで、最も長き期間に於て、我が鐵業界を支配せし法文なり。

此の二十五年間に於ける筑豊の石炭鐵業は大に録すべきものありと雖、多くは後半の十二年間に發達し、其の前半、就中明治七八年頃迄は、之を混沌時代とも稱すべく、特に録するに足るものなし。明治八年片山逸太氏によりて、豊前田川郡糸田村に、始めて蒸氣機關應用の鐵結を開きしは、必しも氏の成功にあらずと雖、斯業の發達に貢獻せしこと少なからず、後貝鳴太助、帆足義方の二氏何れも片山氏の志を襲て失敗し、十四年杉山徳三郎氏に依りて、嘉穂郡尾炭坑に据付けられしもの、始めて完全に成功し、爾後各所の炭山に應用するに至り、漸次有力なる事業家の奮起を促し、明治十八年今の筑豊石炭鐵業組合(當初の筑豊坑業組合)組織以後、時勢の進運に伴ふて、海軍豫備炭田の指定あり、日本郵船會社、三菱會社を始め、東京大阪等の豪商、亦會社組織を以て指を筑豊の採炭業に染め、一方に於ては、久しく發企計畫中なりし九州鐵道の、愈廿一年を以て成立するあり、若松築港會社及び門司築港會社等亦同年を以て起り、廿二年には門司の特別輸出港に編入せらるゝあり、筑豊興業鐵道亦同年を以て發企され、二十三年に至りては別に豊州鐵道の發企あり、何れも筑豊の石炭を中心とし、其の大發展を促すべき機關として、俄に長足の進歩を示し、廿四年に至りては、九州鐵道の門司久留米間、及筑豊興



業、鐵道の若松直方間開通し、從來堀川運河の一線に據りし筑豊石炭の輸送をして、愈一大革新の機運に達せしめたり。明治八年の産額約九萬噸（一億五千萬斤）に過ぎざりしもの、明治廿四年に於て九十萬噸、大正二年に於て一千萬噸に達せしは、亦以て其の大勢の進歩を窺ふべし。尙本期間の重要事項を年別に表示し、讀者の參看に供すれば左の如し。

重要事項年表（自明治元年至明治二十五年）

參考 ◎明治元年鍋島家の家臣松林源藏、英人「アラバー」を、高島炭坑を共同稼業す ◎明治二年二月二十日行政官布告第七十七號を以て鑛山開放を公布す。◎明治三年十月民政部にて石炭に關する調査を試む ◎明治四年四月五日鑛山出願者身元調べに關する達あり。◎明治五年三月鑛山心得書を發布す ◎明治六年七月太政官布告第二百五十九號を以て日本坑法を發布し、同年九月一日より實施す。◎同年七月より三池炭坑を官業す。◎同年十二月後藤象次郎高島炭坑を引受く。◎明治七年 鑛物稅取纏めの爲め蘆屋若松に福岡縣の出張所を設け、兼れて採炭及び賣炭を監督す、蓋し維新後炭山開放の結果、濫掘濫賣の弊に懲り、當業者より懇請せしに由る。◎同八年 片山逸太、田川郡糸田村の炭坑に蒸氣機關を据付け、始めて濠力應用を試みしも成功せず。◎同九年 貝島太助鞍手郡直方炭坑に蒸氣機械を据付けしも亦好果を見る能はず。◎同十年 西南の戰役に依り勞銀暴騰して斯業沈衰す。◎同十一年 帆足義方遠賀郡香月炭坑に蒸氣機械を据付けしも、亦好果を奏するこ能はず ◎山

本貴三郎、始めて糸田鑛區を出願し、翌年許可せらる。即ち今の豊國炭坑の始めなり。◎同十三年 各炭山の採掘炭依託販賣を目的とし、若松商會を起せしものありしも、事業大に振ふに及ばずして廢業す ◎此の年冬より翌年にかけて、四十七日間の強風により、蘆屋、若松より大阪送炭の帆船航海を杜絶し、大阪の石炭相場、一萬斤に付百貳拾圓を唱へしも、航通復舊して此の報の蘆屋若松に達せし頃は、既に暴落して四拾圓となり、蘆屋若松にては參拾七圓を最高値とし、最低拾貳圓に低落せり。◎松本潜、高雄炭坑第一坑を開く、即ち今の製鐵所二瀨出張所の始めなり ◎麻生太吉亦餘田炭坑を開く、今三菱會社に屬するものは是れなり。◎同十四年 杉山徳三郎筑前穂波郡（今の嘉穂郡）目尾炭坑に蒸氣機械を据付け、始めて好果を得たり今古河鑛業株式會社に屬するものは是れなり、筑豊の炭山争ふて之に倣ふもの多し ◎直方町外十ヶ村の各鑛區を一括して藤田傳三郎に許可せらる、地方の人々其の解放を懇請し、翌年始めて目的を達す。

參考 此の年三菱會社高島炭坑を引受く。◎同十五年 許斐鷹助、本洞炭坑を開く、今の三井本洞炭坑の一部即ち是れなり ◎伊藤絢索、第二新手段炭坑を開らく。◎同十六年 斯波義兼新入炭坑第一坑を開らく、後近藤廉平の名義となり、今現に三菱會社に屬するものは是れなり。◎同十七年 貝島太助鞍手郡宮田村に大の浦炭坑を開らく ◎山本貴三郎豊國炭坑第一坑を開らく、

廿三年海軍豫備炭田の開放により更に其の事業を擴張す。

▲同十八年 田川郡に海軍豫備炭田を指定す ◎筑豊坑業組合を組織し、福岡縣屬石野寛平官を辭して其の總長に就任す ◎白土某穂波郡穎田村に明治炭坑第一坑を開く、明治二十年松本潜、安川敬一郎之を讓受け漸次事業を擴張し、今明治礦業株式會社に屬するもの是れ也。

▲同廿一年 海軍豫備炭田を鞍手郡御徳方面及嘉麻郡熊田村に撰定す ◎若松築港會社を創立し筑豊坑業組合總長石野寛平を社長とし、稻垣徹之進組合總長を襲く ◎九州鐵道株式會社成立す ◎門司築港會社亦起る。

▲同廿二年 門司港を特別輸出港に編入す ◎筑豊興業鐵道株式會社を創立す ◎田川嘉穂の海軍豫備炭田一部解放さる ◎田川探炭株式會社起る ◎郵船會社勝野炭坑を買入れ、三菱會社亦田新入の各炭山を購ふ ◎安川敬一郎、平岡浩太郎の二人赤池炭坑を開く ◎船田炭坑に始めて長壁式採炭法を行ふ、爾後之に倣ふもの多し。

参考 三池炭坑公賣入札を以て佐々木八郎に拂上げ、翌年三井家の名義となる。

▲同廿三年 撰定坑區を公示す ◎豐州鐵道株式會社を創立す ◎船田炭坑第一坑より嘉麻川沿岸に運炭用「エンドレスロープ」を用ふ、爾後之に倣ふもの多し。

▲同廿四年 筑豊興業鐵道若松直方間開通し、是れより順次延長す、鐵道工事の進行は別款に錄するを以て一々年別に掲出せず、蓋し本鐵道の開通迄、各炭山の運炭は本川及び堀川運河の水運に據りしもの、此に至りて始めて鐵道運搬を見るに至りしなり ◎柏木勘八郎等金田炭坑を開く後名義人の變更ありて毛利公爵家の有に歸し更に三菱合資會社に買收せしものは是也。

### 第四款 明治維新後の第二期

概況 (自明治二十五年至大正九年)

明治十八年筑豊石炭礦業組合成立の後、時勢の推移に隨て漸次大資本家の注意を惹き、筑豊煤田の開発に一大發展を促すべき機運は到來せり、就中九州鐵道の幹線と筑豊鐵道とが、折尾驛にて接續するもさなり、且筑豊鐵道の線路が漸次延長するに隨ひ、門司若松に搬出すべき石炭に、運搬上の一大改革を與へしと、門司の特別輸出港に編入せられしと、若松門司の築港會社を創立せしとは其の最も著しきものなりき、而して此等外部の施設に努むる頃は、内、各炭坑の事業に於ても著々改良の方針を取り、比較的大規模を以て經營され、漸く面目を一新せしとき、偶二十七八年戰役の起るに會ひしも、斯業の大勢は毫も挫折することなく、殊に二十八年には豐州鐵道の小倉伊田間開通して、田川炭の門司搬出に一步を進め、二十九年より三十年、三十一年の頃にかけては、炭況大に振ふて斯業の隆盛前古に比なく、門司、若松の二港亦此の間に於て著しく發達し、且つ三十年中遠賀郡八幡村に製鐵所を創立して、更に斯業界の活氣を添へ、三十一年には三井礦山會社亦始めて筑豊炭田に其の業を起すべく、先づ山野炭坑を開き、尋て三十三年田川探炭坑を購入して大に業務を擴張し、其の他大資本の炭山皆争ふて擴張せしも戰後好況の反動は三十四五年の頃より現はれ、三十六年の不況に續きて三十七八年の戦役となり、一時市場の不振に従つて各炭坑皆消極的の方針を採り、何れも事業整理の時機として、採炭費を節約し、又其の事務を改善して、炭坑經營上一歩を進めたるの傾きあり、三十八年より三十九年に入りては、所謂

戦後の好況に依り、炭價騰貴して其全盛を極め、四十年より四十一年の前半期にかけては、尙其の精力を感じしも、四十一年の後半期より、一般經濟界の不振と、戦後好況の反動により、漸く市場の不振を感じ各炭坑とも採炭緊縮の結果、前年に比し其の送出高を減ぜり、其後兩三年間は炭況著しき變動を見ざりしも、撫順、開平、山東等支那炭田の採掘増加、支那革命の餘波、其他の事情等は、東洋市場の供給炭、漸次需用に超過するの傾向を示し、需給調節の計を講ずる必要に迫り、爰に採炭制限の實行を見たるも、歐洲の戦亂は大正三年八月我が帝國又同盟の誼により、之れに参加するに至り、事業界漸く不振を來たし、加ふるに外船の往來殆んど皆無の姿にして、需要は益減少し二星霜の久しき制限を繼續するに至りしが、大正五年初春以來各種工業の勃興等により、需要の増大を現出せしかば五年十一月制限を撤廢せり。

爾て炭坑の設備を見れば、明治三十五六年より四十年前後に至る六七十年の間に於ては、從來斜坑の時代なりしもの、一進して將に豎坑の時代に入らんとし、所謂過渡の時代にして、三十六年一月中方城炭坑(三菱)の約一千尺に達すべき大豎坑を起工するあり、次で三十八年六月には、伊田豎坑(三井)の約一千二百尺の見込を以て、其の工事を始むるあり、製鐵所亦三十九年を以て、約一千三百尺に達すべき中央豎坑の工事を起し、其の前者は内外の設備既に竣工して斯業界の模範と仰かれ、中者は四十二年を以て着炭し、今方に一日二千噸を出しつゝあり、後者亦其設備完成を告げたり、斯業の前途は其の規模を大にし、其事業を安全ならしむべく、隆々として改善の機運に向ひつゝあり。殊に此の間數年に於て、礦夫の待遇上次第に改善する處あり、法令規定の外、労働者保護の目的を以て、日用品の供給を便に

し、衛生及風紀上の取締を勵行し、共濟義會を設立し、業務の勤勉を懸賞的に獎勵し、又は貯金方法を設くる等、各炭坑概ね同一の歩調を採り、且つ各種専門學校の出身者續々斯業に従事するに至り、技術及び庶務に關する炭坑經營上、其の面目を一新せしは、斯業進歩の一徴として、特に一言せざるを得ざる也。

尙前例により、毎年別に重要事項を列記すれば左の如し。若し夫れ事業の進捗を見るべき數字的資料に至りては、以下各章に列記する統計に據り、讀者の熟覽を請はんのみ。

重要事項年表 (自明治二十六年至大正九年)

- ▲明治廿六年 筑豊興業鐵道直方飯塚間、及直方金田間開通す ◎総田炭坑に扇風機及正式の撰炭機を附へ付け、安全燈を使用す、何れも筑豊地方に於ける嚆矢也。
- ▲同廿七年 古河市兵衛嘉穂郡下山田鑛區を購ふ ◎住友吉左衛門忠隈炭坑を購ふ ◎安達仁造筑豊石炭鑛業組合(元坑業組合)總長に就任す。

参考 廿七八年戰役開始

- ▲同廿八年 廣岡信五郎潤野炭坑を開く、今製鐵所に屬するものは也 ◎長谷川芳之助新手炭坑を引受く ◎豐州炭坑株式會社成立して豐州炭坑を開らく ◎豐州鐵道小倉伊田間開通す、(是より漸次延長せしも今一々之れを記さす。別項鐵道の記事參看を要す) ◎原六郎平恒炭坑を經營し、後他人に譲る、今の飯塚炭坑是れなり。

参考 廿七八年戰役終了、日清講和條約成る。

第一章 沿革 第四款 明治維新後の第二期

▲同廿九年 新入炭坑に深さ七百尺の堅坑開鑿工場を起し、後三十三年竣工す ◎古河市兵衛勝野  
 目尾二炭坑を購ふ ◎貝島太助大辻炭坑を購ふ ◎岩崎久米吉岩崎炭坑を開らく。  
 ▲同三十年 松本潜、中野徳次郎、伊藤傳六等相田炭坑を起す ◎八月筑豊興業鐵道株式會社を九  
 州鐵道株式會社に合併す。

参考 製鐵所を遠賀郡八幡村(現在八幡市)に設置す。

▲同卅一年 山野炭坑(三井)を開らく ◎上山田炭坑(三菱)を開らく ◎田川採炭坑構内に電  
 話機を私設す、是より各坑共に設置するもの多し。

▲同卅二年 高雄、潤野二炭坑を製鐵所に買収す ◎六月豊國炭坑々内に瓦斯爆發し、二百餘名の  
 變死者を生じ、御救恤金の下賜あり、且侍従日根野要吉郎を差遣せらる ◎麻生大吉豆田炭坑を譲り受  
 く ◎田川採炭坑を田川採炭組に譲渡す。

▲同卅三年 三井礦山會社田川採炭組の事業を譲り受く。

▲同卅四年 赤池炭坑安川敬一郎一人の有きなり、豊國炭坑平岡浩太郎の専有きなる ◎九月豊州  
 鐵道株式會社を九州鐵道株式會社に合併す ◎筑豊石炭礦業組合より福岡縣工業學校採礦科新設費とし  
 て、金參萬壹千圓を寄附す。

▲同卅五年 藏内次郎作等第二峰地炭坑を開らく ◎麻生大吉藤棚炭坑を譲受く ◎巖に株式組織  
 を以て經營せし明治炭坑、安川敬一郎の専有きなる ◎赤池炭坑に鑛山學校を起し、豫定の人員を養成  
 するこゝに二十九年にして廢校す。

▲同卅六年 方城炭坑(三菱)堅坑開鑿工事を起す ◎宮崎儀一豊州炭坑を譲り受け、豊州炭坑株式  
 會社解散す ◎三好徳松頃末炭坑の跡を譲受け三好炭坑を起す。

▲同卅七年 若松港特別輸出港に編入す。

参考 三十七八年戰役開始。

▲同卅八年 勝野炭坑(古河)を廢す ◎三井田川炭礦伊田堅坑開鑿工事を起す ◎八月方城炭坑着  
 炭す。

参考 三十七八年戰役終了。

▲同卅九年 製鐵所中央堅坑起工 ◎三井山野炭礦鴨生、漆生兩坑を開く ◎豊州採炭株式會社、  
 大任、仲津原の兩炭坑を經營す ◎若松港戸畑沿岸の石炭積込機械運轉を行ふ ◎筑豊石炭礦業組合よ  
 り遠賀川改修工事費として金貳拾五萬八千貳百圓を寄附す。

参考 高島炭坑瓦斯爆發し、三百七人の變死者を生ず。

▲同四十年 三井鑛山會社本洞炭坑を購ふ ◎七月豊國炭坑瓦斯爆發の爲め三百三十六人の變死者  
 を生じ、御救恤金の下賜あり、侍従日根野要吉郎を差遣せらる ◎安川敬一郎豊國炭坑を譲受く ◎七  
 月一日九州鐵道を官有とす。

参考 撫順炭坑大擴張の企あり、三菱給田炭坑長工學博士松田武一郎を技師長として聘用す ◎  
 足尾別子の銅山に鑛夫の暴舉あり、兵力を以て之を鎮む、此他生野鑛山及幌内、第二夕張等の

炭山、亦不穩の兆ありしも、大事に至らずして止む。

●同四十年 安川敬一郎等明治炭業株式合資會社を組織し、明治、赤池、豊國の三炭坑を經營す

●鐵道室木線開通す ○四月廿六日遠賀川改修工事起行式を行ふ ○日本礦業會講話會を福岡市に開く。

●四月一日より三池港を開く ○四月門司石炭仲仕同盟罷工、一日にして復業す ○七月高

●嶗炭坑礦夫不稼の兆ありしも數日にして復業す。

●同四十二年 三井伊田堅坑着炭 ○豊國炭坑第二坑閉鑿起工 ○三菱船田炭坑專用運炭電車を運

●同四十二年 三井伊田堅坑着炭 ○十一月大之浦炭坑桐野第二坑瓦斯爆發の爲め二百五十六人

●轉す ○貝島礦業合名、株式組織に改む ○十一月大之浦炭坑桐野第二坑瓦斯爆發の爲め二百五十六人

●の變死者を生じ、御救恤金の下賜あり、侍従日根野要吉郎を差遣せらる。

●安川敬一郎、松本健次郎の兩名寄附行爲を以て金參百參拾萬圓を投じ、遠賀郡戸畑町に明

●治専門學校を起し、四月一日より開校す ○十一月より濠洲炭坑に礦夫の同盟罷工あり ○十

●二月撫順炭坑大山坑着炭す ○二月袖之原炭坑休業す。

●同四十三年 七月英國倫敦に開催せし日英博覽會に對し、筑豊石炭礦業組合より出品せし、煤田

●地圖に對して名譽大賞牌を受領す ○十月三菱合資會社金田炭坑を買收す ○十二月三好徳松高炭坑

●を買收す。

●同四十四年 三月安川敬一郎、筑豊石炭礦業組合總長を辭任し、後任として麻生太吉就任す ○四

●月藏内保房添田炭坑の一部を買收す ○六月忠隈炭坑瓦斯爆發の爲め、七十三名の變死者を出す ○九

●月堀三太郎平山炭坑を買收し、三井礦山株式會社香春炭坑を買收す ○當組合直方會議所新築落成す

●米國礦業會員ハント外七十餘名の觀光團來朝、筑豊石炭礦業組合にて歡迎會を門司俱樂部に開く。

●同四十五年、大正元年 五月、戸畑海岸に「ホイスト、クレーン」二臺を増設し運轉を開始す ○

●七月十五日、筑豊石炭礦業組合にて買ひ入れたる救助器使用の第一回練習會を開く、以來毎月四回開催

●續行す ○九月堀三太郎御徳海軍炭山の拂下を受く ○同月堀三太郎堀礦業株式會社を組織す ○九月

●小松炭坑々々内浸水し二十四名の變死者を生ず。

●同二年 二月製鐵所二瀬出張所中央堅坑、瓦斯爆發の爲め、一百一名の變死者を生ず。

●同三年 五月伊藤傳右衛門其所有各炭坑を提供し、古河虎之助と大正礦業株式會社を組織す ○

●六月金谷炭坑々々外より浸水し、死者六十三名を生ず ○十二月方城炭坑瓦斯爆發の爲め、六百六十八名

●の變死者を生じ、御救恤金の下賜あり、侍従日根野要吉郎を差遣せらる。

●同四年 五月六日の頃より各地採炭制限實施せらる、組合炭山亦五月より制限を實施す。○八月日獨

●國交斷絶青島攻圍開始せらる ○十一月若鍋炭坑瓦斯爆發の爲め、四百二十三名の變死者を生

●す ○若松築港株式會社、瀛船及帆船の碇泊場擴張を企畫し、工事に着手す ○若松驛新棧橋

●千二百餘呎の延長工事に着手す。

●同四年 四月新入炭坑に於て落磐の爲め、變死者十名を生ず ○十月神代炭坑水災あり ○一月

●以來起工中の安全燈試験場、初夏の候に至り竣成す。

●同四年 二月山東炭坑瓦斯爆發し、坑夫八百餘名慘死す ○三月三井伊田炭坑發電所燒失す ○

●四月東見初炭坑浸水の爲め、變死者二百三十六名を生ず ○六月礦業諸問會開催 ○十一月石

●炭坑爆發取締規則發布せらる。

▲同五年 五月本組合より選賀川改修工事費へ更に金貳萬千八百圓を寄付す。◎七月本添田炭坑  
濠雨の爲め浸水す。◎十一月一日より組合炭山の採炭制限を撤廢す。◎十二月筑豊石炭鑛業組合に於  
ける炭坑保安に関する研究及施設の事項發表せらる。

参考

四月撫順炭坑大山、東郷、兩坑發火す。●五月沖山炭坑漏水の爲め中止す。●七月高島炭  
坑漏電の爲め發火す。●九月以來虎疫流行、船舶の入津減少し、運炭の困難を來せり。●八月

鑛夫勞役扶助規則の發布、鑛業警察規則其他の改正あり。

▲同六年 二月本組合と福岡鑛務署との共同經營に係る在直方町安全燈試驗場を石炭坑爆發豫防調  
査所と改稱し爆發試驗をも行ふことす。◎三月佐藤慶太郎株式會社佐藤商店を組織す。◎十二月本組

合は創設費概算參拾貳萬圓を投じ鞍手郡頓野村西尾(直方町の東方半里)に地を下して私立筑豊鑛山學  
校の設立を決議す、詳細は組合事業成績中に在り。桐野炭坑瓦斯爆發の爲め三百六十九名の變死者を出

し、御救恤金の下賜あり、侍従日根野要吉郎を差遣せらる。

▲同七年 三月本組合より田川郡立中學校へ金參萬圓を寄附す。◎四月中鶴炭坑瓦斯爆發の爲め三  
十名の變死者を出す。◎五月遠賀川改修工事竣成式舉行さる。◎五月本組合及び若松石炭商同業組合は

其共有金中より建築費金拾六萬圓を投じて公會堂を建築し九年十一月竣工若松市へ寄附す。◎六月麻生  
太吉株式會社麻生商店を組織す。鷲嶺炭坑浸水し變死者十名を出す。◎八月中島徳松中島鑛業株式會社

を組織す、米價暴騰の爲め全国各地に暴動勃發し延いて組合炭山中二三不穩の兆候ありしも日ならずし  
て鎮靜す。◎十月本組合と若松石炭商組合とは其共有金中より壹萬五千圓を支出して第十二師團出征軍

人に慰問袋を寄贈す。◎十二月警察電話架設費として金壹萬貳千餘圓を寄附す。

▲同八年 二月本組合と若松石炭商組合とは其共有金中より六萬圓を市立若松中學校に寄附す。◎  
五月炭券(採炭切符)使用を禁止すへき旨福岡鑛務署より各坑へ達あり。◎七月大正九年度に於て鞍手

中學校に金壹萬貳千圓を寄附するに決す。◎十月米國華盛頓府に於て第一回國際勞動會議開催され本  
邦選出委員も列席す。

▲同九年 一月福岡工業博覽會に金壹萬圓を寄附す。若松石炭商組合の建設に係る石炭仲仕住宅建  
築費に若松石炭商組合と本組合の共有金より繼續事業として金貳拾萬圓を支出するに決す。◎四月本

組合主催にて日本鑛業會講演會を福岡市に於て開催す。◎十月英國炭坑夫同盟罷業を企て形勢不穩なり  
しも間も無く鎮靜す。

### 第二章 鑛區及炭坑並に産額

▲鑛區 筑豊石炭鑛業組合に屬する石炭鑛區は筑前國遠賀、鞍手、嘉穂の三郡、豊前國田川、企救の  
二郡にて、大正九年七月一日現在の鑛區番號、位置、面積、炭坑名稱、大正八年中採炭高、採掘營業者  
及鑛業代理人は左の如し。

#### 第二章 鑛區及炭坑並に産額

筑豊五郡石炭採掘鑛區一覽

二〇

遠賀郡

登錄番號	町村名	坪數	坑名	大正八年產額	採掘權者	採掘營業者
登 九六〇	長津外五	三、二七、二五五	盃	三、一、五七	大正鑛業株式會社	◎大正鑛業株式會社
同 四九九	香月外一	一、〇八七、六四三	大 辻	三、九、二七	貝島合名會社	増田福三郎
同 七〇八	同 外一	一〇三、四〇一	高 江	二〇六、六八	佐藤慶太郎	岸田牛五郎
同 九四五	同 外一	四三、八七〇	高尾二鑛	一八六、九五	三好鑛業株式會社	久野松次郎
同 四五六	同 外一	一七二、六二九	大 限	一三、三八	弘益殖産株式會社外一名	佐藤卯佐治
同 七二一	同 外一	二七、七三	岩 崎	一〇、三三	岩崎久米吉	◎岩崎久米吉
同 八四六	同 外一	二七、七三	海老津	八、四三	海老津炭鑛株式會社	谷口源吉
同 一、〇四一	芦屋外一	四六〇、八五七	高 尾	三、六八	廣海二三郎	柳川精四郎
同 九二	底井野外二	一三三、一五	大 限	一三、三八	弘益殖産株式會社外一名	佐藤卯佐治
同 一九二	長津外二	二七、五三	岩 崎	一〇、三三	岩崎久米吉	◎岩崎久米吉
同 二八八	同 外一	一五九、五五五	海老津	八、四三	海老津炭鑛株式會社	谷口源吉
同 九六六	同 外一	三六四、三〇三	海老津	八、四三	海老津炭鑛株式會社	谷口源吉
同 九四七	同 外一	五五八、六〇〇	海老津	八、四三	海老津炭鑛株式會社	谷口源吉

同 五八〇	折尾外二	一、〇五四、五四	高 尾	七、四九一	三好鑛業株式會社	三好大藏
同 一、〇二二	水卷外二	九七三、七九〇	高 松	五、〇三八	同 社	大塲安太郎
同 四七〇	同 外一	六〇九、三三	若 松	四七、一四	若松炭鑛株式會社	藏内久隆
同 五五二	同 外一	一四〇、九九五	鳳	三、七三	山本豐吉	山本彌平
同 五五三	同 外一	八二、七六九	鳳	三、七三	山本豐吉	山本彌平
同 一、〇五五	岡 垣	七九、五六五	高 陽	三、五六	廣海二三郎	柳川精四郎
同 一四〇	底井野	一八、二五	高橋垣生	二、三三	高橋恒太郎	船津初太郎
同 六三	水卷外一	三九、五五一	鯉 口	八、〇七	三好鑛業株式會社	三好大藏
同 二〇二	底井野	九三、〇七	上大隈	四、七五	清田房次郎	清田政吉
同 七三	岡 垣	八五、三五〇	柳 谷	四、六八	大東物産株式會社	太田金七
同 一、〇一八	島門外一	五五、五九六	德 滿	四、三二	村田脩時	◎村田脩時
同 九三〇	水卷外二	五五、〇五〇	大 平	三、四七	三好鑛業株式會社	三好大藏
同 一九	淺 木	四〇、八〇〇	淺 木	一、四九	株式會社杷木銀行	◎株式會社杷木銀行
同 三六	香月外一	六二、五五〇			安田森吉	兼松百崎
同 一七〇	岡 垣	二〇、〇八六			吉田磯吉	許斐直太郎
同 一五六	香 月	二五八、〇八			三菱鑛業株式會社	松限三郎
同 一八七	底井野	二〇八、四三			同 社	全 人

第二章 鑛區及炭坑並に産額

二一

同	三九	岡垣	三三、六七	野村中三郎	朝尾直一
同	四〇	上津役外一	一一、一〇〇	大正鑛業株式會社	伊藤芳三郎
同	四四	芦屋	一八二、三七	若松炭礦株式會社	松隈三郎
同	四五	香月	二六、九八二	三菱鑛業株式會社	
同	五五	上津役外一	七三、五五	大正鑛業株式會社	朝尾直一
同	五七	岡垣	一八四、六七	野村半三郎	
同	六七	水卷	一一四、〇〇〇	佐藤慶太郎	
同	七六	底井野	三七、〇三八	小川右作	
同	七三	淺木外一	八六、五〇〇	山崎耕次	
同	七二	香月	九〇、〇〇〇	桑原傳次郎	
同	八一	水卷	一一、五五五	佐藤慶太郎	
同	八〇	岡垣	三三、六三	樋口彌十郎	
同	八三	淺木外二	七五、八二六	堀鑛業株式會社	
同	八六	淺木	二八五、一五	株式會社麻生商店	
同	八七	島郷外一	五〇、五四六	若松炭礦株式會社	
同	九四	折尾	九三、〇〇〇	貝島合名會社	
同	九二	香月外一	五八、〇〇〇	同	

同	九三	芦屋	二四、六七	株式會社麻生商店	伊藤民治
同	九三	淺木	一一、九二九	南川マスヨ	
同	九五	岡垣	三八、〇二二	株式會社麻生商店	
同	九五	同	四六、八五二	高木政次郎	
同	九九	淺木	一〇一、九三五	海老津炭礦株式會社	
同	一〇一	岡垣	三五、六五八	株式會社麻生商店	
同	一〇三	同	三七、五〇〇	岩崎壽喜藏	
同	一〇四	全	七九、〇〇〇	中島鑛業株式會社	
同	一〇四	同	六五、七六	有川貞清外四名	
同	一〇七	島門外一	六一〇、〇〇〇	株式會社麻生商店	
同	一〇八	戸畑外一	四〇〇、〇〇〇	秋吉徳三郎外一名	
特	六〇元	島門	八六、五六一	三好徳松	
計			二〇、七八〇、七六四		

登錄番號 町村名 坪數 坑名 大正八年 探掘權者 採掘營業者  
 特許番號 町村名 坪數 坑名 大正八年 探掘權者 採掘營業者  
 登 一〇二 香井田外四五、二四、二〇〇 大之浦 九三、六七一 貝島合名會社 高島京江  
 第二章 鑛區及炭坑並に産額

採掘營業者  
 採掘權者  
 高島京江



同	一四九	新入外八	五三、四四一	新入	三九七、〇四六	三菱鑛業株式會社	松	限	三	耶
同	四九〇		二九、〇一一							
同	五九六		一七〇、三六二							
同	六四七		七一、七五一							
同	一〇〇四		三、三〇、一二三							
同	一〇三八		四八二、四〇〇							
同	六三三	勝野外四	三、一〇九、七一	三井本洞	一五七、四九五	三井鑛山株式會社	不	破	熊	雄
同	六九六		八七、〇五〇							
同	一〇六八	木屋瀬外二	一、一五七、六六二	木屋瀬	一七四、九四九	福岡鑛業株式會社	◎	福岡鑛業株式會社		
同	一〇四二	西川外一	七六三、七二三	新目尾	一二、五三三	古河鑛業株式會社	◎	長谷川	恭	平
同	六三九	同外一	二九七、九〇〇	旭水	九五、四三〇	井上鑛業合資會社	◎	白川	藏	六
同	四三三	四川	三〇六、九五五	御德	八九、七二九	大正鑛業株式會社	◎	大正鑛業株式會社		
同	一〇〇六	勝野外二	四九七、一八九	三笠	八七、五二八	堀鑛業株式會社	◎	高橋	千	太郎
同	三八一	同外一	四一七、三〇六		五八、七九六	株式會社三笠商會	◎	平	位	知彦
同	三六二		四四、〇〇〇							
同	二〇四	同外一	一三、九八八	室木	五四、八三二	室木鑛業株式會社	◎	松本	嘉	三郎
同	二二六		一三、四六九							
同	四二一		七七、〇四〇							
同	五九四		六五、〇九二							
同	一二五	勝野外一	二四、八七五	繁半田	五、一七六	内藤清太郎	◎	岡本	實	人

第二章 鑛區及炭坑並に産額

同	八〇五	勝野	三五、三六三	鴻之巢	四六、一五一	楠林徳次郎	小	林	壽	
同	八〇八		三六、〇一五							
同	一〇五	四川	三〇、九五四	新延	三四、九四六	播州鐵道株式會社	◎	島本	利	吉郎
同	八三六	勝野	四一、五五九	勝山	八、三〇九	立石徳次	◎	大庭	佐	八郎
同	五八八	頓野	一六、〇〇〇	新高江	二、六三三	島田吉郎	◎	木本	萬	太郎
同	一〇一	笠松外一	二六、七二二	富國	二、四五九	宮川謙一	◎	宮川	謙	一
同	一〇一	笠松	九七、六〇〇	四ツ町	一、八〇七	井上鑛業合資會社外一名	◎	白川	藏	六
同	八九〇	勝野	一三九、〇〇〇	本入	一、四〇五	北原秀次郎外一名	◎	北原秀次郎	外	一名
同	六七八	同外一	三五、三四四	長生	九一	人外一名	◎	木谷	源	治
同	三七	四川	四八、八三二	大高石	五九〇	大木熊太郎	◎	高津	市	治
同	一〇三	勝野外一	一五、三三九	小畑	三四	小畑秀吉	◎	兼松	百	馬
同	二	劍	三九、三六〇							
同	四	木屋瀬外一	六七、三二〇							
同	四	頓野外一	一八、一九一							
同	一〇三	宮田	一三、八二七							
同	二四	頓野	一六四、五〇〇							
同	二九	同外一	九、六四〇							

同	登	三一	木屋ノ瀬	一一、〇三五
同	同	三三	直方	二九、七二六
同	同	三七	木屋瀬	一七、二一八
同	同	三九	勝野	一五、八八八
同	同	四一	勝野	一五、七七七
同	同	四三	古月外一	四三、七九八
同	同	四五	古月外一	一一、九二四
同	同	四七	宮田	二六、四六〇
同	同	四九	西川外一	四八、五四九
同	同	五一	西川外一	一〇七、八九九
同	同	五三	植木外二	一九四、四四二
同	同	五五	直方	一〇〇、二五七
同	同	五七	西川外一	二五、一五六
同	同	五九	笠松	九三、六〇〇
同	同	六一	西川外一	一五二、二四九
同	同	六三	植木	五五七、三四四
同	同	六五	植木	九三、八〇〇

中野昇	二六
三菱礦業株式會社	松隈三郎
中野昇	松隈三郎
小原茂三郎外一名	
大重シッ	松隈三郎
三菱礦業株式會社	松隈三人
同	
芦立文助社	同
井上博之	松隈三人
三菱礦業株式會社	松隈三人
同	
林田タツ社	同
井上博之	白川藏六
井上礦業合資會社	不破熊雄
林修一郎	三井礦業株式會社
三井礦業株式會社	松隈三人
三菱礦業株式會社	松隈三人

同	同	六九	宮田	二〇四、九七九
同	同	七一	直方	六四、四八〇
同	同	七三	古月外一	一三、一五〇
同	同	七五	勝野	三七一、八七五
同	同	七七	勝野	一三六、八〇〇
同	同	七九	古月外一	四三、八三二
同	同	八一	勝野	一一八、三三二
同	同	八三	宮田外一	一九二、五六六
同	同	八五	宮田	五七、三四三
同	同	八七	西川外二	一〇四、二九〇
同	同	八九	宮田	六八、三三〇
同	同	九一	頓野外一	一〇三、一八〇
同	同	九三	西川	二四、二五〇
同	同	九五	勝野	一八、五四〇
同	同	九七	古月外一	三四七、〇四九
同	同	九九	香井田	六〇、二四一
同	同	一一〇	勝野	三四、三〇〇

仰木七太郎	松隈三郎
青木慶太郎	松隈三郎
三菱礦業株式會社	河村靜衛
中野昇	同
山田留次郎	松隈三人
三菱礦業株式會社	同
同	
田中慎吉	同
同	
宮川謙一郎	
和野田繁	
今里泰五郎外一名	
古田與曾三郎	白川藏六
河野英良	
井上博之	
大橋庄一	
河野英良	

第二章 鐵區及炭坑並に産額

登 九五 勝野	三五、七八四	大重	シッ	原田雄門外一名	原田芳則
同 一〇二 宮田	一七〇、五〇〇	中村熊太郎	三菱鑛業株式會社	松限三郎	
同 一〇三四 同	二五二、二〇六	田中 新外一名	三菱鑛業株式會社	松限三郎	
同 一〇五〇 木屋ノ瀬外一	一三〇、〇〇〇	同	三菱鑛業株式會社	松限三郎	
同 一〇五七 福地	八一、三六〇	井上 靜雄	社	全 限 三 郎	
同 一〇六六 古月外三	五〇八、九〇〇	同	同	白川藏六	
同 一〇六九 木屋ノ瀬外一	一六〇、八三三	同	同	同	
特 四四九四 西川	一四、三五九	同	同	同	
計	三六、八七五、四五五				
	二、二八一、八〇九				

嘉穂郡

登 特許番號	町村名	坪數	坑名	大正八年產額	探掘權者	探掘營業者
登 一	大隈外一	三八四、四七四	製鐵所	四〇〇	農商 務省	林 嘉雄
同 一〇七三	幸袋外四	三、二九六、五八三	製鐵所	六八、〇九九	同	同

同 九九九	穗波外二	三七九、二〇〇	飯塚	五五三、七〇四	中島鑛業株式會社	岸田政太
同 一〇〇八	同	四六五、八三四	同	同	同	同
同 一〇一三	同	一〇〇、七七八	同	同	同	同
同 九五五	穎田外六	四、九九九、一九五	明治 (赤池合併)	四八一、一〇三	明治鑛業株式會社	石渡信太郎
同 七六五	幸袋外四	六六三、一八〇	目尾	四六五、六〇三	古河鑛業株式會社	長谷川恭平
同 七九〇	飯塚外三	九〇三、九五六	鮎田	四六一、九三九	三菱鑛業株式會社	松限三郎
同 二二五	稻築外三	二、二九七、三一九	三井山野	三九六、六九九	三井鑛山株式會社	富田太郎
同 二九六	桂川外一	一、三九五、二五九	平山	三八四、一〇九	中島鑛業株式會社	福岡勝次郎
同 七七八	穗波外二	一、四二八、七五五	忠隈	二九四、四五五	住友 吉左衛門	吉田良春
同 九八七	飯塚外二	二、一〇〇、四四〇	芳雄	二五〇、九七〇	株式會社麻生商店	山崎誠八
同 三四一	熊田外二	三九三、五三〇	上山田	一九九、三八八	三菱鑛業株式會社	稻村萬太
同 九三二	同	二、〇六九、一四六	同	同	同	同
同 二五七	上穗波外一	九二七、七六二	豆田	一五一、六六五	株式會社麻生商店	山崎誠八
同 一〇四七	熊田外一	六七〇、七〇二	下山田	一四七、三六五	古河鑛業株式會社	長谷川恭平
同 一〇七二	庄内	一、〇六七、五二〇	綱分	一三七、八三二	株式會社麻生商店	山崎誠八
同 一〇四四	穗波外四	一、六六七、二四五	吉隈	一二三、七〇〇	同	同

第二章 鑛區及炭坑並に産額

同	九二〇	穂波外一	五八五、七四七	神ノ浦	一三、三九八	帝國炭業株式會社	大瀨 義重
同	三六三	大隈外一	三〇三、五三六	漆生	六七、八七七	久恒續業株式會社	◎久恒續業株式會社
同	六九七	二瀬	二九八、〇〇〇	相田	六三、八〇九	中野昇	高松 常吉
同	八六四	飯塚	五五、八三五	榎谷鮎田	五八、二二五	榎谷平三郎	水科 猶人
同	七〇	熊田外二	二九四、七二四	貴船	四七、〇七八	久恒續業株式會社	◎久恒續業株式會社
同	一〇八	熊田	二〇八、五二二	大定	四六、六八〇	友枝續業株式會社	◎同
同	七三	熊田	一九六、三五五	西	四四、三八	友枝續業株式會社	友枝只四郎
同	八七八	熊田外一	二九九、五九六	熊田	四一、八〇二	中野昇	田中 政市
同	一一六	熊田	五四五、五二六	上目尾	二九、六三九	東邦炭礦株式會社	平野 幸平
同	三三六	幸袋	二六六、五三七	笹原	二九、一七五	佐藤 滿	高田小三郎
同	一〇二四	唯井外一	一四七、九六〇	錦原	二七、六六七	小倉續業株式會社	龜石伊三郎
同	五五三	稻築外一	七七、〇〇〇	赤松	二七、四〇九	松風工業株式會社	多賀谷 秀平
同	五八	庄内	二九、三〇〇	上幸田	二五、〇一九	大阪窯業株式會社	佐々木正一郎
同	七〇	鎮西外一	一〇八、四〇一	額田	二四、二七八	野村半三郎	朝尾 直一
同	八七九	額田	二二、八三九	庄司	二〇、一七三	安高松次郎外一名	◎安高松次郎
同	六三	額田	二二、八三九	福豐	一九、八八八	福豐炭礦株式會社	佐藤 和吉

同	一六九	幸袋外一	一四三、三六七	庄司	二〇、一七三	安高松次郎外一名	◎安高松次郎
同	四四二	熊田	二二八、〇六〇	筑紫	一七、七〇五	篠崎壽三郎	◎篠崎壽三郎
同	八四一	同	四〇六、四〇一	奈瓦阪	一六、七〇〇	中西貞太郎	花村 久助
同	三三〇	同	一七八、一五二	上高雄	一三、八三三	上高雄炭礦株式會社	小田 豐太郎
同	八三〇	稻築	七四、八七四	第二寶滿	一三、三九八	貝島合名會社	◎貝島合名會社
同	一〇三	幸袋外一	六三、六〇一	岡之浦	一一、二〇四	松本作次外一名	◎松本作次
同	一〇八〇	桂川外一	九三、九七〇	本大城	八、八五一	藤波 重雄	阿部 瀧次郎
同	一〇八一	飯塚	五、七〇〇	朝倉	八、二七七	時津竹次郎	◎時津竹次郎
同	一八四	額田	一〇二、九七〇	白井	六、八四九	橋本講爾外一名	◎橋本講爾外一名
同	二九三	熊田	四二、〇一九	幸袋	五、六一一	合名會社成東商會	正田 音彦
同	四八四	確井	三三、四八五	第一上目尾	五、三三九	本田一郎祐外一名	吉村 義祐
同	七四	幸袋	一〇三、四〇五	小富士	五、〇七一	藤井 高文	船津 宇太郎
同	七〇	同	六一、一六〇	額田二坑	五、〇四四	尼田合名會社外二名	◎尼田 德造
同	一五	額田	四二、九九六	小島	四、三三三	前田 釜一郎	◎宮野 文次郎
同	六八〇	宮野外一	一九、九〇〇	小島	四、三六五	小島 治平	◎小島 治平
同	九八四	額田外一	一一、〇五七	額田二坑	四、三三三	前田 釜一郎	◎宮野 文次郎
同	一〇〇	上穂波外一	一一、四二〇	小島	四、三六五	小島 治平	◎小島 治平

第二章 續區及炭坑並に産額

登	八四	額田外一	五九、八九〇	吉野谷	四、七三	森本常太郎	井上喜三郎
同	一九〇	額田	三三、八六七	吉野	三、七九〇	井上松市外一名	◎井上松市外一名
同	三五六	上穂波	七六、五三〇	大平	三、五〇九	浪速礦業株式會社	◎浪速礦業株式會社
同	六七三	大隈外二	一四、八六〇	山田	三、四八四	若松炭礦株式會社	◎高塚啓造
同	一〇四	同外一	二四、五八五	大喜	三、四四	馬場義勝	吉岡重毅
同	六五	桂川	一三、一五四	中屋	三、三五	中山貞雄	東鹿之助
同	九六六	飯塚外一	五〇、〇七三	白土	二、八八〇	白土清四郎	◎白土清四郎
同	八八	大分	六五、九九五	大分	一、八三	貝島合名會社	◎小川右作
同	九	千手外一	一四六、二〇〇	千手	一、五五	小川右作	◎小川右作
同	五〇九	額田	八六、〇〇八	佐與	一、〇〇〇	米田貞明外二名	松榮茂
同	六二四	大隈	一三、六二五	大熊	一、三三八	筑豐炭礦株式會社	平名雅平
同	八八三	同	二六、二六五	生神	一、三三八	西野友太郎外一名	◎西野友太郎外一名
同	八五五	額田	一〇八、四七二	鹿毛馬	一、〇七三	森本常太郎	井上喜三郎
同	七九二	幸袋	二六、三九〇	宮ノ上	一、〇四八	寺島一郎	田島義雄
同	五七五	確井	一五九、〇四二	大久茂	八四四	日米信託株式會社	坪田十郎
同	六五〇	鎮西	八三、六五〇	城山	七九一	筑豐炭礦株式會社	平名雅平
同	六五五	大隈外一	六三、五〇〇	牛隈	三五五	株式會社麻生商店	山崎誠八

同	五	穂波	六二、九三三	同	同
同	元	大分	一四一、六六八	同	同
同	六四	熊田	一〇五、八三三	同	同
同	六五	幸袋	六五、九四四	同	同
同	七	飯塚外一	一五、五九七	同	同
同	八〇	桂川	三三八、五九九	同	同
同	八六	上穂波	六四〇、二七七	同	同
同	八九	同外一	七四八、〇九九	同	同
同	九	幸袋	三九、一三二	同	同
同	一二	熊田外一	一二六、一九七	同	同
同	一二	額田外一	三九二、二六五	同	同
同	二七	穂波外一	二〇一、五九九	同	同
同	二六	穂波	一三、〇〇〇	同	同
同	三八	熊田	一一、一六〇	同	同
同	三六	確井	三三八、二八三	同	同
同	三三	桂川	一五七、五〇〇	同	同
同	四〇〇	飯塚	一六、八三〇	同	同

第二章 鑛區及炭坑並に産額

同	中野昇外一名	石川和三郎外一名	武谷元享
同	石川和三郎外一名	本田一耶祐外一名	吉村義祐
同	松本作次	松本兔三郎	
同	貝島合名會社		
同	松本作次外一名		
同	株式會社麻生商店		
同	三好徳松		
同	中野昇		
同	寺田敏子	石川和三郎	
同	株式會社麻生商店		
同	株式會社佐藤商店		
同	株式會社麻生商店		

登	四九	大	限	八二、七九
同	四九	桂	川	三六、二七
同	四九	大	限	四三、三七
同	四八	同		一六四、〇五
同	五五	上	穂波	三三、三〇
同	六九	碓	井外一	一九六、九元
同	六三	上	穂波	八一、五八
同	六四	大	限	八一、五〇
同	六七	飯	塚	一七、九七
同	六八	同		五〇、三六
同	七〇	大	分	五一、二五
同	七三	同		三三、〇五
同	七三	同	外一	二四五、八六一
同	七四	同	外一	一、〇八二、六九三
同	七六	穂	波	一八八、五〇〇
同	七五	大	分	六四、二〇〇
同	七九	熊	田外二	一三、七七

上	村	幸	次	郎	三四						
榊	谷	平	三	郎							
日	米	信	託	株	式	會	社	坪	田	十	郎
長	谷	川	榮	太	郎	谷	川	定	藏		
貝	島	合	名	會	社						
株	式	會	社	麻	生	商	店				
貝	島	合	名	會	社						
木	下	德	次	郎	外	一	名	上	崎	志	郎
株	式	會	社	麻	生	商	店				
同											
中	野	昇	外	一	名						
同		人	外	一	名						
同		人	外	一	名						
同		人	外	一	名						
高	津	龜	太	郎							
貝	島	合	名	會	社						
三	井	鑛	山	株	式	會	社	富	田	太	郎

同	八五	桂	川	外一	一三、五四〇
同	八五	大	限	外一	一九、八一四
同	八二	大	限		一一、三五〇
同	八八	内	野		三三、五八九
同	九二	碓	井外一		二二、三八〇
同	九三	熊	田外一		五二、〇〇〇
同	九七	上	穂波		三八三、五九四
同	九七	内	野		二六、三五
同	九三	上	穂波		五〇七、八五四
同	九八	大	限	外一	一一、〇〇〇
同	九八	穂	波		一五〇、三六一
同	一〇二	大	限	外一	一八七、八〇〇
同	一〇九	大	分		一八、六四四
同	一〇七	桂	川		九九、四三七
同	一〇八	同	外一		二五、〇五三
同	一〇五	二	瀬		三三、〇〇〇
同	一〇九	庄	内		三三、七〇〇

野	見	山	廣	吉	小	林	善	八				
中	尾	又	助									
池	口	莊	次	郎								
吉	成	實	太	郎								
日	米	信	託	株	式	會	社	坪	田	十	郎	
今	泉	淺	次	郎	外	一	名					
貝	島	合	名	會	社							
同												
同												
中	尾	又	助					小	林	善	八	
株	式	會	社	麻	生	商	店					
中	島	鑛	業	株	式	會	社					
中	野	昇	外	一	名							
株	式	會	社	麻	生	商	店					
同												
寺	島	一	郎	外	一	名						
松	風	工	業	株	式	會	社	多	賀	谷	秀	平

第二章 鑛區及炭坑並に産額

登 一〇三 穂波外一 五〇六、五〇〇  
 特 六七七 桂川 三四九、〇八三  
 計 四九、四七一、九八四

淺野同族株式會社  
 榎谷平三郎

田川郡

登錄特許番號	町村名	坪數	坑名	大正八年產額	探掘權者	探掘營業者
登 一〇六五	大任外六	八、五六一、〇二一	三井田川	九七、八一九	三井礦山株式會社	不破熊雄
同 一〇六〇	添田外一	一、三〇一、一三四	峰地 (岩瀨合併)	六五、五五五	藏內礦業株式會社	藏內礦業株式會社
同 三六三	添田外二	五七七、九九七	大峰	四五、九四五	藏內礦業株式會社	藏內礦業株式會社
同 七五九	添田外二	五六三、七六四	豐國	四二六、四七四	明治礦業株式會社	堀內敏堯
同 二五一	金川外四	八九七、一五〇	方城	二四三、四九三	三菱礦業株式會社	杉浦久三郎
同 一〇七二	方城外二	二、三三三、五五六	金城	一九六、五七六	同	同
同 二七〇	金田外三	六六五、八四二	宮尾仲津原	一三三、三四	山下礦業株式會社	神田敏
同 一〇四六	勾金外一	六三九、七六七	大峰分坑	一三三、八三三	藏內礦業株式會社	藏內礦業株式會社
同 九五五	添田外一	一四三、三三四				

同 四九	後藤寺外一	二六六、四〇〇	起行小松	一四、五七六	帝國炭業株式會社	萩野休次郎
同 五〇一	後藤寺外二	一七〇、三三七	第二旭	七三、九二五	井上礦業合資會社	白川藏六
同 五二	川崎外二	五二、一四二	川崎	四四、四六	城島敬五郎	城島敬五郎
同 二四八	川崎外二	三五四、七三八	橫島	三六、七九〇	明治礦業株式會社	堀內敏堯
同 二六二	後藤寺外一	六九、一五二	中島副田	三四、〇三六	極東礦業株式會社	久保長次郎
同 八七三	後藤寺外一	一七、八五五	中島川崎	三三、八二〇	同	同
同 八三〇	猪位金外一	七三、〇三三	本添田	三〇、〇七四	秀村得一	秀村得一
同 一〇六三	川崎	七三、〇三三	平和	二九、七四六	福田定次外三名	福田定次
同 二二三	添田外一	三三、九四七	緒方	二七、八二九	緒方半治	緒方半治
同 九七	猪位金外一	一八三、四四〇	豐州	一七、三三一	福田定次外一名	福田定次
同 二七五	猪位金	四七、六八〇	猪位金	一五、九三〇	帝國炭業株式會社	村上福次郎
同 八七五	猪位金	七九、〇〇〇	谷	一四、六七一	好六助	好六助
同 四三八	川崎	四七六、四〇〇				
同 三六	猪位金	五七、九九九				
同 三三七	猪位金	一〇、四三六				
同 三六七	猪位金	三〇、六六〇				
同 一〇七〇	金田外一	六三九、四〇四				

第二章 鐵區及炭坑並に産額

同	九四	添田	四八〇、七三	野田	八、七四	宮城盛三郎	◎宮城盛三郎
同	五〇	同外三	三〇一、三〇	眞木	七、六一	住友吉左衛門	吉田良春
同	六一	金川外一	一三三、〇四〇	勝田	七、五九	前田秀實	吉田三郎
同	八〇	大任	一四四、八九一	不動	七、〇九	林眞一	◎林眞一
同	一〇五	同	一四九、九五二	今任	六、三八	藏内礦業株式會社	◎藏内礦業株式會社
同	九三	同	一一一、九二	成光	五、四九四	植田與六	◎植田與六
同	七五	添田	二七六、五〇〇	中元寺	五、四三三	株式會社三笠商會	友井利一
同	八八	金田	五九、〇〇〇	大城	四、七六六	森本常太郎	井上喜三郎
同	五五	安眞木	二六三、五五	眞崎	三、七三〇	身吉勝次郎外一名	◎身吉勝次郎外一名
同	一四	川崎	二九五、八四〇	輝龍	三、五八	尼崎炭礦株式會社	弘中信一
同	八七	後藤寺	八一、五六一	第二橫島	二、九四〇	明治礦業株式會社	堀内敏堯
同	九六	添田外一	二四八、〇〇〇	天城	二、六一	住友吉左衛門	吉田良春
同	四三	金田	五〇、〇〇〇	福智山	二、三四	中山甚吉外一名	平井武夫
同	六三	同	三七、八四	平床	一、二四三	平井萬次郎外一名	小島伊之助
同	九三	上野	二五、三五〇	高尾	七四	日露實業株式會社	藤尾敏郁

同	一三	川崎	三四、四六七	式部	四六四	橋上保	◎橋上保
同	八六	後藤寺	一五、七六八	木村	三〇九	木村補一	◎藏内礦業株式會社
同	一〇四	大任	六六、七八	大峰三坑	一一	日東探炭株式會社	◎藏内礦業株式會社
同	六〇	金田	九九、四六七			株式會社麻生商店	
同	一一	安眞木	三四二、一八二			三菱礦業株式會社	稻村篤太
同	二五	猪位金外一	八七、六五			伊藤英十郎外三名	
同	二四	後藤寺外一	三三、五三七			岩崎壽喜藏	
同	三七	猪位金外一	一四九、五二二			住友吉左衛門	吉田良春
同	三五	添田外一	一九一、一六四			三菱礦業株式會社	杉浦久三郎
同	三四	金田外一	二〇四、五〇八			平名雅平外一名	正田喜重
同	四九	上野外一	二七八、二九五			下澤善右衛門外一名	
同	四七	方城	九三、三五〇			平名雅平外一名	
同	四三	上野	五五〇、二二三			藤井高文外一名	
同	五〇	勾金	六二、八八七			三菱礦業株式會社	杉浦久三郎
同	五八	方城外一	九九、〇三五			住友吉左衛門	吉田良春
同	五三	安眞木	一四四、九四〇			神林虎雄外二名	
同	六二	川崎外一	七三、七六〇				

第二章一續區及炭坑並に産額



登	六三	金田	二七、三三	平井萬次郎外一名	四〇	小島伊之助
同	七三	添田	四八五、二四八	住友吉左衛門		吉田良春
同	七六	米田	八八、六七〇	武田虎次郎		栗井敏樹
同	七三	添田	三一、六九八	宮田寅之輔		植木淺太郎
同	六三	彦山外一	一三五、二四六	榎藤峯二郎		
同	八二	猪位金	一九〇、八八	安部熊之輔外一名		
同	九四	添田	一七一、九一五	榎見茂平		
同	一〇〇	川崎	六九、八〇〇	蘇我健次郎外一名		
同	一〇三	勾金	一三、八七七	神澤又市郎		
同	一〇三	金田外一	五七、八七七	森本常太郎		井上喜三郎
同	一〇三	方城外一	一八三、七〇〇	平名雅平外一名		松本杉藏
同	一〇六	大任外一	六八、九四〇	三井鑛山株式會社		不被熊雄
同	一〇六	添田外一	一三六、〇八〇	住友吉左衛門		吉田良春
特	七四六	添田	一六、六八八	境六郎		
計			三、三八八、九九九			

企救郡

登錄番號	町村名	坪數	坑名	大正八年產額	探掘者	鑛業代理人
登 七四〇	足立外一	二二、三七	神代	三元、一五	東邦炭礦株式會社	笹田一尙
同 二二三	同 外一	四九、二七	鷲嶺	三、三四二	友枝鑛業株式會社	畑六郎
同 三七	同 外一	一〇三、五九二	熊嶺	九、九七七	小村德治	崎田德治
同 三六	同 外一	二五七、七九〇	吉熊	九、九七七	本郷松太郎	進藤林
同 七四一	同 外一	七〇、〇〇〇	熊嶺	九、九七七	松川駒次郎	
同 一七五	同 外一	一一、九三七			同 人	
同 三三	足立	二七五、七〇六			杉原榮三	
同 四七七	同 板櫃	九八、〇七〇			同 人	
同 五八	同 板櫃	五八、八七三			同 人	
同 五九	同	四四、四四〇			同 人	
計		一、二八〇、九四一		六〇、四〇六		

五郡總計 一元、七九八、一三三  
 (備考) 坑名及產額ハ鑛業明細表ニ依ル  
 一三、四六八、四五〇

第二章 鑛區及炭坑並ニ產額

▲八年中の組合炭坑々別産出額は前掲鑛區一覽中に掲載せるが、今参考の爲め全國各坑の産出額を鑛務署別に列記すれば如左。

福岡鑛務署管内 (組合炭山の分は別に掲載す)

縣名	郡名	坑名	八年中 産出額
福岡	大牟田市	三池	一、九七〇、二六六
同	粕屋	大平	五、〇三三
同	同	高田	七、六九三
同	同	植木第五坑	四、〇八五
同	同	新原海軍	三、三九二
同	同	長禮二坑	二、二四
同	同	大谷	一、五〇、二二〇
同	同	長禮	八、九四九
同	同	高宮	一、六六八
同	同	篠栗	五、七五五
福岡	粕屋	篠栗、中西	二、八九五
同	同	朝日	八、二九〇
同	同	南里	四、七三三
同	同	久原	二、四、九七五
同	同	宇美	四、〇三三
同	同	野中	一、三、九七五
同	同	子安	六、八二六
同	同	龜山	八、〇二六
同	同	勝田	六、八二五
同	同	粕屋	三、四三八

縣名	郡名	坑名	八年中 産出額
福岡	早良	北谷	二、〇三九
同	同	北谷	二、五、九三三
同	同	天王山	七、八六一
同	同	重壽	二、七六九
同	同	寶珠山	八、七六四
同	同	朝倉	二、七六九
同	同	筑紫	七、八六一
同	同	月隈	二、五、九三三
同	同	北谷	二、〇三九
同	同	早良	三、三、二四八
同	同	福岡第一坑	八、九、五五三
同	同	福岡第二坑	一、九五、二二三
山口	厚狭	新浦	一、〇〇八
同	同	大八	六八
同	同	新田	八、〇二七
同	同	新田	五、〇四
同	同	香匠	三、三、〇〇三
同	同	起業	三、三、〇〇三
同	同	中ノ藏	三、三、〇〇三
山口	厚狭	國木山	八、七
同	同	日ノ出	九、〇三
同	同	大湯ヶ浴	五、五三
同	同	松原	一、四、六三
同	同	東見初	三、五、七二
同	同	妻崎	三、二八六
同	同	大和	一、七九
同	同	西沖ノ山	一、八、五二六
同	同	新長生	一、七五三
同	同	隆正	二、五、五五
同	同	第二沖ノ山	一、八、二四〇
同	同	大島	四、四、三三
同	同	松原	三、〇、四三
同	同	大原	四、〇六
同	同	萩森	三、三六
同	同	河原田	一、三、九八
同	同	長門	一、〇、九五〇

第二章 鑛區及炭坑並に産額









同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	福島
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	石城
寶山	常磐田	小成	大日本	東山	入山	内郷	福石	山崎	磐前	三寶	不動	朝鮮	宮島	本島	越賀	浪花	

第二章 鑛區及炭坑並に産額

三、八七一	九、一六八	六、〇〇三	八、二九九	五〇、一四七	一四、八五〇	七〇一	六、一二三	三、〇〇四	六、三四三	四六、八九二	三七、五七七	二五、四八六	二、五六一	三〇、二〇四	四二、四〇八	二七、五三七
-------	-------	-------	-------	--------	--------	-----	-------	-------	-------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

五三

品川赤井	大倉	東海	廣部	田村	王城第二	八幡	中野	勿來	常磐採炭經營	小野田	湯本	東城	黑田	富士	法田	喜久多
二七、二六三	三三、八一九	八三、六六六	三六、一四五	一、二〇七	二〇、二七四	一三、三三三	一三、一九五	二七、九八〇	二、八二三	二九、八六二	六〇、〇〇一	三、七五四	一、三四六	三、〇〇一	三、〇九八	四、六九六

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	山形	同	巖手	同	秋田	縣名
同	同	北村山	同	同	西田川	同	同	同	同	最上	下閉伊	九戸	北秋田	山本	郡名	
大石田	松浦	矢澤	油戸	羽越	溫海	日山	澤内	升形	三森	赤松	門松	久慈	扇田	岩館	坑名	

四、二一〇	一、五六六	一、四三六	一、九三八	七六五	五、九五六	六四六	一八二	三九九	一〇	一三七	八二	七、四三六	一、二五五	一、三三六	一、二三六
-------	-------	-------	-------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	----	-------	-------	-------	-------

八年中産出額

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

彌生三友	横武經營	平	好問	隅田川、津川	龍田	久之濱	雙葉	山田	高田	瑞穂	高倉	福野	廣野	上淺見川	淺見川	龜井田
一一、九二一	七五二	一〇〇、〇一八	五六四、七七	七九、六九二	一一、二四二	二〇	三、八九九	四、九〇一	三、七〇〇	五〇	四八	一七三	三五、七三五	三、三四五	二、七四九	六、七七五

五二

同	同	福島	三〇九
同	同	石城	三五七、八六八
同	同	磐越	一〇、八七

同	同	福島	五四	六、三二
同	同	西白河		四、三五八
同	同	東白河		二、九四〇、二九八
同	同	瀨野		
同	同	計		

札幌礦務署管内

國名	郡名	坑名	八年中 產出額 <small>得噸</small>
北海道	古	茶津	一、一〇四
同	同	發足	一七、八五三
同	同	茅沼	二五〇、六四三
同	同	奔別	一四〇、六三三
同	同	幾春	二六、一二三
同	同	幌內	二、六六一
同	同	市來	二、三六二
同	同	唐松	二五、六七二
同	同	彌生	一、二九〇
同	同	奔別	

國名	郡名	坑名	八年中 產出額 <small>得噸</small>
北海道	空	美唄	五九、五五五
同	同	歌志內	一〇一、二六〇
同	同	開北	四一、二四〇
同	同	上歌志內	五九、五四六
同	同	山下礦業經營	一、五二四
同	同	茂尻	六五、七五六
同	同	新歌志內	三一、四六〇
同	同	坂市太郎經營	五三七
同	同	空知	三六四、八六
同	同	文珠	八五、三六

同	同	鈴木國俊經營	三五七
同	同	三井鑛山經營	一六三、八四三
同	同	新美唄	八六、四三三
同	同	沼貝	五〇、一七八
同	同	増田増太郎經營	一、七〇五
同	同	錦旗	一〇、五一一
同	同	今西兼二經營	四、五九〇
同	同	奈井江	三三、〇三三
同	同	豐田	八〇
同	同	蘆別	五三、四七八
同	同	平岸	三〇、六八〇
同	同	蘆別炭礦經營	三〇七
同	同	邊溪	三、三〇三
同	同	三菱美流渡	三三、二〇六
同	同	美流渡	三五、〇三〇
同	同	幌向	七、一五二
同	同	夕張	二四、九一三

同	同	大夕張	九二、三〇九
同	同	夕張	一、一六六、〇九四
同	同	登川	一六一、三四
同	同	新夕張	四八五、三九九
同	同	大和田	四一、二三五
同	同	樽真富	一一二
同	同	留勝	二七、八五四
同	同	千歲	三五
同	同	千歲	一、五九七
同	同	大和礦業經營	四、〇〇〇
同	同	稚葉紮義經營	四、〇〇〇
同	同	昆布森	七、〇三七
同	同	尺別	一九五
同	同	春採	四五、六六二
同	同	別保	二〇、一七三
同	同	三井釧路	六五、一四六
同	同	桂戀	一、九五〇
同	同	富山炭礦經營	一、二九〇

第二章 鑛區及炭坑並に産額

五五



北海道 厚岸 八千代 五、二五〇  
 同 同 青葉 一、六八二  
 同 阿寒 大成 六、〇二七

▲産額 明治三十二年以後筑豊石炭鑛業組合炭坑の産額を列記し、尙全國の産額に對する歩合を示せば左の如し。

全國産額

明治三十一年	六、七四九、六〇二	組合炭山産額	三、六三四、一六四	全國産額に對する	五、四〇
同 三十二年	六、七七五、五七一		三、四六〇、五五二	組合産額の歩合	五、一一
同 三十三年	七、四八八、八九一		四、〇一七、五二一		五、三六
同 三十四年	九、〇二七、三二五		四、八五五、二四七		五、三八
同 三十五年	九、七〇一、六八二		四、九三〇、四〇九		五、〇八
同 三十六年	一〇、〇八八、八四五		五、〇五六、三二五		五、〇一
同 三十七年	一〇、七二三、七九六		五、三八七、四七三		五、〇二
同 三十八年	一一、五四二、三九七		五、八〇四、〇九〇		五、〇三

全國石炭産額に對する組合炭山産出高累年比較

同 三十九年	一二、九八〇、一〇三	六、四四五、五五四	四、九七
同 四十年	一三、八〇三、九六九	六、九二九、一六六	五、〇二
同 四十一年	一四、八二五、三六三	七、四二四、一四六	五、〇一
同 四十二年	一五、〇四八、一一三	七、四七二、〇〇七	四、九六
同 四十三年	一五、六八一、三二四	七、八一〇、九八三	四、九八
同 四十四年	一七、六三二、七一〇	八、七一三、〇三八	四、九四
同 四十五年	一九、六三九、七五五	九、四九五、三八九	四、八四
大正元年	二一、三一五、九六二	一〇、五一七、〇七二	四、九三
同 二年	二二、二九三、四一九	一〇、三四一、四〇七	四、六四
同 三年	二〇、四九〇、七四七	八、七六九、五五八	四、二七
同 四年	二二、九〇一、五八〇	九、八四五、六七二	四、二九
同 五年	二六、三六一、四二〇	一一、二三一、九二二	四、二六
同 六年	二八、〇二九、四二五	一一、六三一、六八八	四、一五
同 七年	三一、一七三、六五八	一二、七九九、九五二	四、一一
同 八年			

# 第三章 運炭

## 第一款 概説

各炭山の石炭運搬に就ては、坑内より坑外迄は捲機械の力により、更に人力、馬力、又は電車等により、之を撰炭場、船船積場、又は瀧車積場等に送致し、船船若くは鐵道線によりて送出す。

▲水運 船船の水運に據るものは、遠賀川の本支流によりて若松港に出すを主とし、一小部分を蘆屋港に出すものあり、往時は筑豊炭の全部皆此の水運に據るを例せしむ、鐵道の開通によりて年々船船の数を減じ、明治四十一年一月の現在五千三百三十七隻なりしもの、四十三年一月に至りては三千三百六十一隻、大正五年一月は千八百三十八隻に減せしが、現在に於ては稍々増加して二千〇二十三隻を算するに至れり。

▲陸運 鐵道線路に據るものは、若松、門司を主とし、東小倉、宇嶋港及び門司鐵道局所屬各驛等に送出すものにして、年々著しき増額を示しつゝあり。鐵道運炭の沿革に就ては、既に其の概要を第一章に掲げしむ、尙其の發達の一斑を見んが爲め、之れを年別に表示すれば左の如し。

### 筑豊線

- 明治二十四年 八月若松直方間開業、九鐵本線亦本年より折尾にて接續す
- 同 二十五年 十月小竹驛開業
- 同 二十六年 二月金田驛及畑川貨物驛、七月鉢田、飯塚兩驛及鉢田芳雄貨物驛、十一月筑前植木の各驛開業す、十二月底井野、植木間複線開業
- 同 二十七年 十月新入第三、第四の貨物驛、十二月幸袋驛、及庄司高雄の貨物驛及折尾中間、直方植木間の複線開業す
- 同 二十八年 四月臼井驛開業
- 同 二十九年 四月若松折尾間複線開業
- 同 三十年 八月新入貨物驛開業、同月筑豊興業鐵道を九州鐵道に合併す
- 同 三十一年 二月大隈、下山田、中泉各驛、三月忠隈、平恒、藤棚、日燒の各貨物驛、十一月直方勝野間複線開業
- 同 三十二年 二月本洞貨物驛、八月二島驛開業
- 同 三十三年 一月伊岐須貨物驛、九月楠驛、大城第一、第二の貨物驛、十一月潤野貨物驛開業

第三章 運炭 第一款 概説

### 豊州線

- .....
- .....
- .....
- .....
- 四月小倉伊田間開通、伊田、香春兩驛開業
- 二月後藤寺驛、西身内谷貨物驛開業
- 九月宇の島驛開業、十一月宮床驛、大蔵、豊國、起行の各貨物驛開業
- 十二月南身内谷貨物驛開業
- 一月夏吉、七月後藤寺原、池尻、川崎、第一大任の各貨物驛開業
- 四月東身内谷貨物驛開業

明治三十四年

六月上山田驛、十一月大辻貨物驛、十二月

同 三十五年

二月勝野、桐野の兩驛、六月磯頭、上三緒

同 三十六年

四月豆田、十一月目尾、赤池金田各炭坑の

同 三十七年

十一月菅平田貨物驛、勝野小竹間複線開

同 三十八年

業

同 三十九年

四月方城貨物驛開業

同 四十年

業

同 四十一年

二月枝國貨物驛、五月中間底井野間複線、

同 四十二年

七月岩崎、香月各貨物驛開業

同 四十三年

十月第二菅平田貨物驛開業

同 四十四年

十月中間香月間旅客取扱開業、關門間貨車

同 四十五年

航送開始

同 四十六年

一月新平貨物驛開業

同 四十七年

七月勝野磯光桐野驛旅客取扱開始

同 四十八年

業

同 四十九年

業

同 五十年

業

同 五十一年

業

同 五十二年

業

同 五十三年

業

同 五十四年

業

同 五十五年

業

同 五十六年

業

同 五十七年

業

同 五十八年

業

同 五十九年

業

同 六十年

業

同 六十一年

業

同 六十二年

業

九月豐州鐵道を九州鐵道に合併す

添田驛及庄貨物驛開業

一月第二大任貨物驛開業

大正二年 七月新多貨物驛開業、八月鴨生漆生貨物驛取扱を開始す

同 三年

同 四年

同 五年

同 六年

同 七年

同 八年

二月後藤寺原貨物驛廢止  
四月高城幸崎間旅客取扱開業  
九月東身内谷貨物驛廢止  
八月下ノ江白杵間旅客取扱開業  
十一月津久見佐伯間旅客取扱開業

附記

小倉鐵道は小倉鐵道株式會社の經營に係り、大正四年四月より旅客取扱を開始し石炭運搬は同年十一月より開始す、東小倉驛は同社に屬する一驛なり

第二款 水運

炭坑名稱及若松迄の運賃

▲炭坑名稱及若松迄の運賃 筑豊炭坑中、遠賀川の本支流によりて、水運を利用するもの、目下十

七坑あり、今其名稱並に運賃を示せば左の如し、但運賃は時によりて高低あり、今最近の協定にかゝる

大正九年十月現在の標準額を示す。

炭坑名	一萬斤に付運賃	炭坑名	一萬斤に付運賃
御徳	一、一四	若松	六、六二
小谷	一、一四	御徳武谷	一、一四
		中	七、二九
		鳳	七、一三

第三章 運炭 第二款 水運

若江 七、二八 額田 一一、二四 大隈 八、一一  
 綠 八、八二 高松 七、一八 赤地 一一、二四  
 高尾二坑 五、九〇 高尾三坑 五、八五 清田上大隈 八、一一  
 鴻之巢 一一、一四 垣生 八、三四

▲水運送出高累年比較 水運に據る送出高は、鐵道輸送の開始前、其全部を占めしが、鐵道開通後漸次總送出に對する歩合を減じ、大正五年に於ては僅に四分九厘に過ぎざるに至りたり、今其の水運送出高を、總送出高に對する歩合を表示すれば左の如し。

年	水運送出高	總送出高に對する歩合	年	水運送出高	總送出高に對する歩合
明治十九年	三〇九、八九九	一〇、〇〇	同廿七年	八七一、六三三	五、〇九
同二十年	四〇〇、〇八二	一〇、〇〇	同廿八年	九〇四、七九九	四、二三
同廿一年	五五一、六二七	一〇、〇〇	同廿九年	八三六、三九九	三、五七
同廿二年	六六九、九五六	一〇、〇〇	同三十年	八三五、二〇三	三、〇三
同廿三年	七八〇、八四八	一〇、〇〇	同卅一年	一、一三五、八四八	三、三四
同廿四年	八八五、五〇九	九、六五	同卅二年	一、〇八八、六三四	三、〇八
同廿五年	八七〇、五七一	八、三七	同卅三年	九八三、九七三	二、四一
同廿六年	八二五、六〇八	六、六九	同卅四年	一、〇六四、三二六	二、二四

年	陸運	年	陸運
同卅五年	一、〇八〇、〇九三	同四十四年	七五八、五五五
同卅六年	九三三、八一五	同四十五年	七〇五、三七四
同卅七年	七七六、九五五	大正元年	七五九、四八〇
同卅八年	八八五、三八八	同二年	六二四、六八〇
同卅九年	一、〇八九、二八〇	同三年	四一五、九九二
同四十年	一、一六一、六五三	同四年	四五〇、四七〇
同四十一年	一、〇六五、八四三	同五年	五七〇、三五三
同四十二年	七六九、八三三	同六年	六〇二、八〇〇
同四十三年	八〇五、七六七	同七年	五九五、一六三

▲各炭坑より重要市場迄の距離及運賃 (一噸當り)

所屬驛	炭坑名	門司	若松	戸畑
折尾	高尾	哩 一九、四	哩 六、六	哩 八、七
海老津	海老津	哩 二五、一	哩 二、三	哩 一四、四
第三章 運炭	第三章 陸運	八六〇	四六六	一四、四
			六三三	五三三

伊	香	室	八	新	海
田	春	木	尋	延	老
見奈同	芝不宮	三室	旭	富中針新泉新	德柳高
本				目	
立良坑	沖動尾	笠木		國里金尾水延	滿谷陽
四〇、五	三六、六	二八、九	二七、八	二六、四	二五、一
一、三〇	一、二八〇	一、二三〇	九七、二	八六、〇	八六、〇
二七、二	二五、三	二六、九	一五、〇	一三、六	一二、三
九七、七	八六、〇	八六、〇	五三、三	五三、三	四六、六
二九、三	二七、四	二九、〇	一八、二	一五、七	一四、四
九七、三	九七、七	九七、七	六五、五	六五、八	五三、三

六四

# 石炭(貸切扱)運賃表

大正七年九月一日以降實施

哩程	運賃					哩程	運賃				
	一噸ニ付 割	六噸車 円	七噸車 円	八噸車 円	九噸車 円		十噸車 円	十噸車 円	十噸車 円	十噸車 円	一噸ニ付 割
5	240					165	3,000				
6	296	177	207	236	266	170	3,060				
7	353	211	247	282	317	175	3,120				
8	409	245	286	327	368	180	3,180				
9	466	279	326	372	419	185	3,230				
10	522	313	365	417	469	190	3,290				
11	578	346	404	462	520	195	3,350				
12	635	381	444	508	571	200	3,410				
13	691	414	483	552	621	205	3,470				
14	748	448	523	598	673	210	3,530				
15	804	482	562	643	723	215	3,590				
16	860	516	601	688	775	220	3,650				
17	917	550	641	733	825	225	3,710				
18	973	583	681	778	875	230	3,770				
19	1,030	617	721	823	925	235	3,830				
20	1,080	650	761	868	975	240	3,890				
21	1,130	683	801	913	1,025	245	3,950				
22	1,180	717	841	958	1,075	250	4,010				
23	1,220	750	881	1,003	1,125	255	4,070				
24	1,270	783	921	1,048	1,175	260	4,130				
25	1,320	817	961	1,093	1,225	265	4,190				
26	1,370	850	1,001	1,138	1,275	270	4,250				
27	1,420	883	1,041	1,183	1,325	275	4,310				
28	1,470	917	1,081	1,228	1,375	280	4,370				
29	1,520	950	1,121	1,273	1,425	285	4,430				
30	1,570	983	1,161	1,318	1,475	290	4,490				
31	1,620	1,017	1,201	1,363	1,525	295	4,550				
32	1,670	1,050	1,241	1,408	1,575	300	4,610				
33	1,720	1,083	1,281	1,453	1,625	305	4,670				
34	1,770	1,117	1,321	1,498	1,675	310	4,730				
35	1,820	1,150	1,361	1,543	1,725	315	4,790				
36	1,870	1,183	1,401	1,588	1,775	320	4,850				
37	1,920	1,217	1,441	1,633	1,825	325	4,910				
38	1,970	1,250	1,481	1,678	1,875	330	4,970				
39	2,020	1,283	1,521	1,723	1,925	335	5,030				
40	2,070	1,317	1,561	1,768	1,975	340	5,090				
41	2,120	1,350	1,601	1,813	2,025	345	5,150				
42	2,170	1,383	1,641	1,858	2,075	350	5,210				
43	2,220	1,417	1,681	1,903	2,125	355	5,270				
44	2,270	1,450	1,721	1,948	2,175	360	5,330				
45	2,320	1,483	1,761	1,993	2,225	365	5,390				
46	2,370	1,517	1,801	2,038	2,275	370	5,450				
47	2,420	1,550	1,841	2,083	2,325	375	5,510				
48	2,470	1,583	1,881	2,128	2,375	380	5,570				
49	2,520	1,617	1,921	2,173	2,425	385	5,630				
50	2,570	1,650	1,961	2,218	2,475	390	5,690				
51	2,620	1,683	2,001	2,263	2,525	395	5,750				
52	2,670	1,717	2,041	2,308	2,575	400	5,810				
53	2,720	1,750	2,081	2,353	2,625	405	5,870				
54	2,770	1,783	2,121	2,398	2,675	410	5,930				
55	2,820	1,817	2,161	2,443	2,725	415	5,990				
56	2,870	1,850	2,201	2,488	2,775	420	6,050				
57	2,920	1,883	2,241	2,533	2,825	425	6,110				
58	2,970	1,917	2,281	2,578	2,875	430	6,170				
59	3,020	1,950	2,321	2,623	2,925	435	6,230				
60	3,070	1,983	2,361	2,668	2,975	440	6,290				
61	3,120	2,017	2,401	2,713	3,025	445	6,350				
62	3,170	2,050	2,441	2,758	3,075	450	6,410				
63	3,220	2,083	2,481	2,803	3,125	455	6,470				
64	3,270	2,117	2,521	2,848	3,175	460	6,530				
65	3,320	2,150	2,561	2,893	3,225	465	6,590				
66	3,370	2,183	2,601	2,938	3,275	470	6,650				
67	3,420	2,217	2,641	2,983	3,325	475	6,710				
68	3,470	2,250	2,681	3,028	3,375	480	6,770				
69	3,520	2,283	2,721	3,073	3,425	485	6,830				
70	3,570	2,317	2,761	3,118	3,475	490	6,890				
71	3,620	2,350	2,801	3,163	3,525	495	6,950				
72	3,670	2,383	2,841	3,208	3,575	500	7,010				
73	3,720	2,417	2,881	3,253	3,625	505	7,070				
74	3,770	2,450	2,921	3,298	3,675	510	7,130				
75	3,820	2,483	2,961	3,343	3,725	515	7,190				
76	3,870	2,517	3,001	3,388	3,775	520	7,250				
77	3,920	2,550	3,041	3,433	3,825	525	7,310				
78	3,970	2,583	3,081	3,478	3,875	530	7,370				
79	4,020	2,617	3,121	3,523	3,925	535	7,430				
80	4,070	2,650	3,161	3,568	3,975	540	7,490				
81	4,120	2,683	3,201	3,613	4,025	545	7,550				
82	4,170	2,717	3,241	3,658	4,075	550	7,610				
83	4,220	2,750	3,281	3,703	4,125	555	7,670				
84	4,270	2,783	3,321	3,748	4,175	560	7,730				
85	4,320	2,817	3,361	3,793	4,225	565	7,790				
86	4,370	2,850	3,401	3,838	4,275	570	7,850				
87	4,420	2,883	3,441	3,883	4,325	575	7,910				
88	4,470	2,917	3,481	3,928	4,375	580	7,970				
89	4,520	2,950	3,521	3,973	4,425	585	8,030				
90	4,570	2,983	3,561	4,018	4,475	590	8,090				
91	4,620	3,017	3,601	4,063	4,525	595	8,150				
92	4,670	3,050	3,641	4,108	4,575	600	8,210				
93	4,720	3,083	3,681	4,153	4,625	605	8,270				
94	4,770	3,117	3,721	4,198	4,675	610	8,330				
95	4,820	3,150	3,761	4,243	4,725	615	8,390				
96	4,870	3,183	3,801	4,288	4,775	620	8,450				
97	4,920	3,217	3,841	4,333	4,825	625	8,510				
98	4,970	3,250	3,881	4,378	4,875	630	8,570				
99	5,020	3,283	3,921	4,423	4,925	635	8,630				
100	5,070	3,317	3,961	4,468	4,975	640	8,690				

割合ニ付合ハキモノ總噸數ニ割合ヲ乗シ算出ス

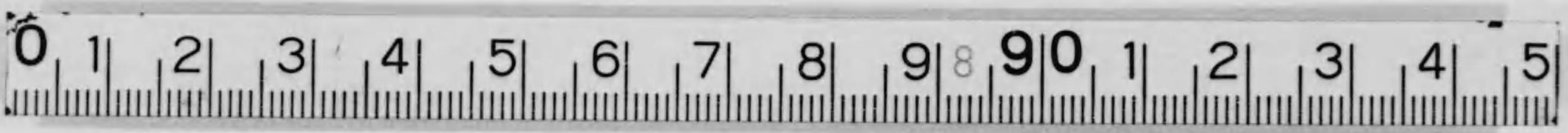
伊 香 室 八  
 田 三井田川伊田  
 見奈岡 本  
 立真城  
 春(芝不宮)  
 木(三室)  
 旭  
 伊 香 室 八  
 田 三井田川伊田  
 見奈岡 本  
 立真城  
 春(芝不宮)  
 木(三室)  
 旭  
 伊 香 室 八  
 田 三井田川伊田  
 見奈岡 本  
 立真城  
 春(芝不宮)  
 木(三室)  
 旭



# 石炭 (貸切扱) 運賃表

大正七年九月一日以降實施

哩程	運					賃					哩程	一噸 = 付合
	一噸 = 付合	六噸車	七噸車	八噸車	九噸車	十噸車	十噸車	十噸車	十噸車			
5	240	177	207	236	266	355	384	444	165	3	000	
7	296	211	247	282	317	423	458	529	170	3	060	
9	353	245	286	327	368	490	531	613	175	3	120	
11	409	279	326	372	419	559	605	699	180	3	180	
13	466	313	365	417	469	626	678	783	185	3	230	
15	522	346	404	462	520	693	751	867	190	3	290	
17	578	381	444	508	571	762	825	952	195	3	350	
19	635	414	483	552	621	829	898	1036	200	3	410	
21	691	448	523	598	673	897	972	1122	205	3	440	
23	748	482	562	643	723	964	1045	1206	210	3	490	
25	804	517	601	684	768	1031	1114	1299	215	3	530	
27	860	550	641	733	825	1100	1192	1375	220	3	560	
29	917	583	681	778	875	1167	1264	1459	225	3	600	
31	973								230	3	650	
33	1030	割合 = 厘位ナキモノノ總噸數 = 割合ヲ乗シ算出ス										
35	1080								235	3	680	
37	1130								240	3	720	
39	1180								245	3	760	
41	1220								250	3	800	
43	1270								255	3	850	
45	1320								260	3	890	
47	1370								265	3	940	
49	1420								270	3	990	
51	1470								275	3	1040	
53	1520								280	3	1090	
55	1570								285	3	1140	
57	1620								290	3	1190	
59	1670								295	3	1240	
61	1720								300	3	1290	
63	1770								305	3	1340	
65	1820								310	3	1390	
67	1870								315	3	1440	
69	1920								320	3	1490	
71	1970								325	3	1540	
73	2020								330	3	1590	
75	2070								335	3	1640	
77	2120								340	3	1690	
79	2170								345	3	1740	
81	2220								350	3	1790	
83	2270								355	3	1840	
85	2320								360	3	1890	
87	2370								365	3	1940	
89	2420								370	3	1990	
91	2470								375	3	2040	
93	2520								380	3	2090	
95	2570								385	3	2140	
97	2620								390	3	2190	
99	2670								395	3	2240	
101	2720								400	3	2290	
103	2770								405	3	2340	
105	2820								410	3	2390	
107	2870								415	3	2440	
109	2920								420	3	2490	
111	2970								425	3	2540	
113	3020								430	3	2590	
115	3070								435	3	2640	
117	3120								440	3	2690	
119	3170								445	3	2740	
121	3220								450	3	2790	
123	3270								455	3	2840	
125	3320								460	3	2890	
127	3370								465	3	2940	
129	3420								470	3	2990	
131	3470								475	3	3040	
133	3520								480	3	3090	
135	3570								485	3	3140	
137	3620								490	3	3190	
139	3670								495	3	3240	
141	3720								500	3	3290	
143	3770								505	3	3340	
145	3820								510	3	3390	
147	3870								515	3	3440	
149	3920								520	3	3490	
151	3970								525	3	3540	
153	4020								530	3	3590	
155	4070								535	3	3640	
157	4120								540	3	3690	
159	4170								545	3	3740	
161	4220								550	3	3790	
163	4270								555	3	3840	
165	4320								560	3	3890	



伊 香 室 八  
 田 三井田伊田 春 木 旭  
 立真坑 本 芝不宮 三室 三  
 沖動尾 釜木  
 見奈向 本  
 伊田 三井田伊田  
 春 芝不宮  
 木 三室  
 旭

第三章 運炭 第三款 陸運

川	池	後藤寺
<p>崎</p> <p>東 鴻 川 中 大 大 三 極 輝 川 米 眞 大</p> <p>崎 峰 井 東 川 崎 峰</p> <p>廻 一 島 正 一 谷 一 龍 二 田 崎 二</p>	<p>尻</p> <p>豐 式 極 緒 平</p> <p>東 川 崎</p> <p>州 部 二 方 和</p>	<p>岩 川 柿 起 行 小 松</p> <p>崎 後 藤 寺 宮 谷</p>
<p>ククククク 四、四</p> <p>ククク 四、二</p> <p>クク 四、七</p>	<p>クククク 四、六</p>	<p>ククク 四〇、六</p>
<p>クククククククククククク 一、三〇</p>	<p>クククク 一、七〇</p>	<p>クククク</p>
<p>ククククク 三、一</p> <p>クククク 三、九</p> <p>クク 三、四</p>	<p>クククク 二、三</p>	<p>ククク 二七、三</p>
<p>ククククク 一、〇〇</p> <p>ククククククク 九、三</p>	<p>クククク 九、七</p>	<p>クククク</p>
<p>ククククク 三、二</p> <p>クククク 三、〇</p> <p>ククク 三、五</p>	<p>クククク 三、四</p>	<p>ククク 二九、四</p>
<p>ククククク 一、〇〇</p> <p>ククククククク 一、三〇</p>	<p>クククク 九、三</p>	<p>クククク</p>

六五



勝野	直方	筑前植木	野面(同)	木屋瀨(鞍手軌道)	香月	岩崎
御赤地	新入	同新入	木屋ノ瀨	線	大高江	岩崎
鴻之巢	三井本洞	同六				
三、五	二、七	二、六	二、六	二、七	二、二	二、七
一、〇	九、七	九、七	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇
二、七	一、九	一、五	一、八	一、九	一、四	一、九
六、二	五、三	四、六	五、三	四、六	四、六	四、九
三、八	一、〇	一、六	一、九	一、〇	一、五	一、〇
七、八	六、五	五、三	五、八	五、三	五、三	四、六

新	中	宮	夏	添
手	間	床	吉	田
新	新	豐小宮	利宮勝	中野峰岩佐同峰
手	手	國本坑	田尾田	元地々地
三、八	三、〇	四、三	三、五	四、四
七、八	七、八	一、七	一、八	一、七
一、〇	九、二	二、〇	二、四	三、一
四、九	四、九	九、七	九、七	一、〇
二、一	二、三	三、一	三、五	三、二
四、六	四、六	一、〇	九、七	一、〇

下山田	大隈	白井	飯塚
猪多下 位多山 金三四田 坑	漆谷白日大 生倉井出谷 坑	三笹吉實平 吉原隈満山	岡飯神忠 浦塚浦隈
ククク 四、九	クククククク 三、二	クククク 四、五	三、二 三、五 三、八 三、五
ククク 一、三〇	クククククク 一、三〇	クククク 一、七〇	ククク 一、八〇
ククク 三、一	クククククク 三、四	クククク 二、七	二、四 二、五 二、四 二、七
ククク 一、〇〇	クククククク 九、三	クククク 九、七	八、四 八、六 八、四
ククク 三、二	クククククク 三、五	クククク 三、八	二、六 二、七 二、五 二、八
ククク 一、〇〇	クククククク 一、〇〇	クククク 九、三	八、六 九、七 八、六

芳雄	鮎田	小竹
錦三赤三三赤網司芳 井井井井上雄 漆鴨山三三山 生松生野阪分緒内	石樹額勢吉白本鮎 谷谷谷谷谷大 丸田田田原上城田	第上目勝七山小 二目目山山山山 尾尾尾尾尾尾尾尾 尾尾尾尾尾尾尾尾
四、六 四、〇 三、三 三、〇 三、〇 三、四	三、三 三、三 三、三 三、三 三、三 三、三	三、五 三、七 三、七 三、七 三、七 三、七
一、三〇 一、三〇 一、三〇 一、三〇 一、三〇 一、三〇	クククククククク クククククククク クククククククク クククククククク クククククククク	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇
二、八 二、七 二、五 二、二 二、二 二、六	三、五 三、五 三、五 三、五 三、五 三、五	二、七 二、七 二、七 二、七 二、七 二、七
ククク 九、七 八、〇 八、〇 八、〇 八、〇 八、〇	クククククククク クククククククク クククククククク クククククククク クククククククク	七、八 七、八 七、八 七、八 七、八 七、八
三、〇 三、九 三、六 三、七 三、七 三、六	三、六 三、六 三、六 三、六 三、六 三、六	三、八 三、八 三、八 三、八 三、八 三、八
ククク 九、三 九、七 八、六 八、六 八、六 八、六	クククククククク クククククククク クククククククク クククククククク クククククククク	七、八 七、八 七、八 七、八 七、八 七、八

第三章 運炭 第三款 陸運

桐野	楠	金田
新菅 田	豐國 二坑	平田 四芳石神梅西平大淵吉神津金方 ノツ 金 野 二 林口高廣切武林田床城上谷崎旭谷城
三、九	三、一	三、七 三、九
三、〇	一、一〇	三、〇 一、〇
二、九	三、三	二、九 三、一
六、二	八、〇	六、二
三、三	三、四	三、〇 二、二
七、六	八、〇	七、六

七一

中泉	大上山田
金新赤 田池池	福西大新朝山大大大生筑熊大上 清 山 山 豐川和藤倉田昇熊喜神紫田定田
三、二	三、一 四、一
一、〇	一、〇 一、七
三、四	三、三
七、八	一、〇 〇
二、五	三、五 二、一
八、四	七、六 一、一〇

七〇

◎小倉鐵道に依り現に送炭する炭坑名及各炭坑より東小倉驛迄の哩程並に一噸當り運賃を示せば左の如し。

炭坑名	哩程	運賃
高雄一	三、四	一、二〇〇
同二	三、八	一、二〇〇
相田	四、〇	一、二〇〇
上田	四、一	一、二〇〇
上高	四、二	一、二〇〇
城山	四、三	一、二〇〇
上高	四、四	一、二〇〇
鎮西	四、五	一、二〇〇
庄司	四、六	一、二〇〇
第一上目尾	四、七	一、二〇〇
幸袋	四、八	一、二〇〇
幸野	四、九	一、二〇〇
潤野	五、〇	一、二〇〇
中野	五、一	一、二〇〇
天	五、二	一、二〇〇
第二賣滿	五、三	一、二〇〇
長尾	五、四	一、二〇〇
豆平	五、五	一、二〇〇
小神田	五、六	一、二〇〇
大平	五、七	一、二〇〇

所屬驛	炭坑名	哩程	運賃
東小倉	東邦小倉	一	一、〇〇〇
東小倉	第三驚嶺	一	一、〇〇〇
上香春	宮尾	三	七、八
梅田	成光	三	九、七
伊原	岩瀨	三	一、〇三
伊原	添城	三	一、〇三
伊原	上添田	三	一、〇三
伊原	峰地本坑	三	一、〇三
伊原	伊原	三	一、〇三
伊原	本添田	三	一、〇三

●筑豊炭の各驛送出 大正八年中筑豊炭の鐵道各驛送出數量は(若松、門司、宇島、東小倉を除く)百四十三萬九千七百三十一噸なり、今最近八ヶ年間に於ける各驛別送出數量を示せば左の如し。

驛名	大正八年	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	大正元年
大里	九、七六	八、七三	八、七三	七、七六	八、四五	七、四六	八、一五	八、八七
石田	五、五八	五、一九	一、二四	六、九	四、三	一、	一、	一、
石原町	四、四四	八、〇〇	六、四	三、四二	七、五	一、	一、	一、
呼野	三、二六	三、一三	二、五六七	六、三	一、九	一、	一、	一、
探銅所	二、四九	一、六四	一、四〇〇	六、七	四、九	一、	一、	一、

古	福	東	赤	海	八	新	遠	折	黑	八	枝	小	伊	梅	今	上
賀	間	郷	同	津	尋	延	川	尾	崎	幡	光	倉	原	田	任	香
三 四	九 九	五 八	九 三	七 三	三 三	三 五	四 九	五 、 五 〇 三	二 、 二 四 二	五 九 三 、 七 九 五	六 三 、 八 七 一	一 八 六 、 四 一 九	四 三	七 七	二 七 七	
二 六 九	一 、 一 〇 〇	三 三	九	三	九	四 、 〇 九 八	三 四 八	一 、 三 三 四	一 一 、 七 五 六	四 八 四 、 七 三 四	五 九 、 四 七 一	一 八 五 、 〇 八 五			三 〇 五	
一 〇 四	一 、 九 六 四	三	七	九		二 、 八 五 七	三 三	三 四 七	二 六 、 四 〇 一	四 三 五 、 三 五 八	八 八 、 三 九 八	一 三 九 、 三 三 五	九	一 〇 七	六 四 九	
四 三	一 、 九 三 二	三	二 、 三				二 五 三	七 四 四	七 、 〇 四 五	三 七 、 二 〇 六	三 、 八 六 〇	八 四 、 〇 一 九			三 四 五	
二 三	一 、 九 六 七	一 三 八	一 五 三	八			一 七 五	四 四 〇	一 、 八 〇 四	二 三 四 、 九 四 七	三 、 九 三 三	六 三 、 三 六			一 六 一	
九 五	一 、 六 九 四	三	四	八			二	八 六	六 、 〇 六 四	一 八 八 、 三 三 九	六 四 、 五 五 四	九 三 、 八 五 六				
一 二 二	一 、 七 八 二	四	四	一			一	一 、 九 〇 三	六 、 〇 五 八	一 〇 〇 、 八 三 九	四 、 三 三 三	六 七 、 三 四 七				
一 〇 九	二 、 〇 一 九	一	一				一	一 、 九 五 六	三 、 〇 九 六	一 〇 四 、 七 二 二	八 一 、 八 二 九	三 九 、 六 七 〇				

原	二	雜	博	新	上	篠	原	吉	箱	四	奈	和	酒	伊	土	香
日	市	限	多	免	山	野	町	塚	崎	崎	多	白	殿	賀	井	椎
七 五	四 、 三 五	六	五 、 八 四	七	七	九	一 五	二 七 、 三 三				七	一 七	一 九	五	
八 六	三 、 四 〇 〇	二 八 二	五 、 三 四 二				六	三 、 五 六	八		七	九	九	一 四	五	
三	二 、 七 〇	九	三 、 四 三 四				六	一 五 、 五 八						五	六	
九	九 三		二 、 三 七				七	一 六 、 五 九							〇	
三 七	一 、 八 〇 三	八	二 、 三 六				七	一 五 、 二 七							元	
九	二 、 〇 九	二	八 、 三 〇				八	二 六 、 九 五							一 〇 三	
三	二 、 八 七		一 一 、 二 五				六	二 四 、 五 九							元	
四 三	一 、 八 〇 八		三 、 五 六 五				七	一 四 、 〇 五							五	

第三章 運炭 第三款 陸運 七五

宮	肥後	山本	長浦	植木	木葉	高瀬	長洲	萬田	大田	渡瀬	矢部	羽塚	荒木	久留米	鳥栖	田代
原	田	橋	浦	木	葉	瀬	洲	田	田	瀬	川	塚	木	米	栖	代
九二〇	一九六三	四七	三三	四六	二、二六八	二、二六〇	四〇七	二九	一六〇、五九〇	四八四	五一	一、二六九	一、二六四	四、五四〇	五、四三	二、五八
	七〇六			一、三九	二、九六九	七五三	二九	六九	一五四、二九	三三	九三	二六一	三三〇	五、三三七	六、九	五九
				一、二六	三、二〇	六七	六	六	一七三、九三九		三八三	三六一	三六	六、九〇六	三、九	一九五
				一、二五	二、七二	七〇四	七	七	一四五、六六	七	八〇〇	六六	二〇八	三、七三	九、九	二、八
				一、〇〇	二、六九	六六	一〇	三	一二一、七四六	二	七七八	一、四九三	三三	二、九三	一、〇	三、〇
				八八五	二、八九五	七四八	六	三	九三、〇九一	三	一、〇六八	三、三九	九、六	三、九〇〇	二、四〇	三、三
				一、〇三	二、六四〇	九五六	三	三	八五、〇七〇	六	八五一	二、八四〇	四、三	二、八二	三、〇	三、〇
				二、〇	二、四八	九六一	三	三	三〇、九七三	七	三〇一	二、二七	六、〇	二、三九	七、〇	一、六

上熊本	熊本	春竹	御船	肥後大津	宮地	川尻	宇土	網田	三角	松橋	小川	有佐	八代	球磨川	坂本	白石
六、九二	一、六九〇	五、〇九	二、三五	七	三六	一五五	五七		四、九九七	四二〇	四、五五	四、九七五	一、五四〇	七	一九、六八四	一九
一、八〇一	一、七、七九八	一、一〇一	七	九	三一	二五三	四九六		二、七七七	二九五	四〇〇	三、〇五六	一、〇〇〇	八九	二八、〇三一	二六
二、八八二	一八、三三三	七六六	一四	八		四四六	七五三		一五、五七九	四二六	七〇二	二、一六四	三九〇		二四、五九五	七〇
一、六六五	一六、七五二	一一〇	一九	二五		三四五	八六八		九、一〇四	六三四	五六五	三〇一	二五五		一七、五六三	一五九
二、〇六八	一七、三三八	七八		四五		五四九	三六		六、二五二	九八六	六〇五	三三	二八九	四五	一五、九二五	
二、九四七	三、八八九			三三		七八六	二二九		二、四六九	六三六	四一八	三六〇	一三七		一五、七〇八	
三、五〇七	三〇、五三三					九三六	五七〇		六、四六〇	九六	六五七	三三	七七	一一三	一八、四四三	二二
九〇三	二四、七六〇					一、〇八五	六三三		一三、〇五	九四九	六六八	二三八	一九九	七	一五、二九九	六五

第三章 運炭 第二款 陸運

廣瀨	花島	宮崎	大淀	山之口	三股	都城	谷頭	高崎新田	小林町	飯野町	京町	吉松	矢嶽	人吉	一勝地
一三五	一七六	一四一	一七	一三五	一五	一五六	一四	一三	一〇	一七	一〇四	一	一	三〇三	一
一	一	一〇五	一〇〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二、五七	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七五三	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二八三	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三〇一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四七五	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四八二	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三九九	一

福島町	佐土原	妻野	栗野	横川	牧園	國分	加治木	重富	鹿兒島	武島	伊集院	日置	吉利	加世田	大崎町	東市木
一五二	八三	一七	一七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一九七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一四一	六〇	九	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第三章 運炭 第三款 陸運

上	有	伊	早	佐	大	長	二	中	新	香	木	筑	直	本	勝
田	田	里	岐	保	村	崎	島	間	手	月	屋	前	方	洞	野
一、〇〇〇	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九	一、三九九
一、七二五	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八	一、六七八
一、二二三	七七五	七七五	七七五	七七五	七七五	七七五	七七五	七七五	七七五	七七五	七七五	七七五	七七五	七七五	七七五
一、〇六九	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
六五五	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六	五〇六
一、四二二	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八
一、〇七七	二九七	二九七	二九七	二九七	二九七	二九七	二九七	二九七	二九七	二九七	二九七	二九七	二九七	二九七	二九七
五二七	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五

第三章 運炭 第三款 陸運

武	北	肥	牛	大	西	唐	鬼	嚴	小	久	佐	神	中	川	串	西
雄	方	前	津	島	津	津	塚	木	城	田	賀	崎	原	町	木	市
九〇	九六四	二、八二〇	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一、九七	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六	一、八六
一、二九八	三三	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四
一、三三六	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇
三、七九	八五	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
二、四六	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
一、九	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八



下	大	白	長	天	芳	平	飯	総	二	幸	埴	新	小	桐	菅	磯
山	限	井	尾	道	雄	恒	塚	田	瀬	袋	頭	多	竹	野	田	光
		九	二	六	一、六五九	一、三三〇	七五六		二	一、四三九	一六〇	九二		九	一五	
					八九四		一九一	八	九	二、三〇九		九	九〇	三	一六	
	一六		九		三、五五三		一五	二五	三	二、五七九			二	一〇		
	三	一五	六	七	四、五四五		六〇	八	三	一、八二七				三	五九	
		八	〇		一、六九八		六三		三	二、七五四				一〇、五〇	二、〇一九	
	七				三、九九九		五二	七		三、四九三				二七		四四五
	一五				七、〇二四		四五			二、八六八			七			
	七	一六	元	七	二、九〇七		四、七二二			二、四九八			二五			

曾	城	夏	香	添	川	池	南	起	宮	後	伊	楠	堀	金	中	上
根	野	吉	春	田	崎	尻	行	床	寺	田	川	田	泉	田	山	田
九七二	五、七三九	八七五	三六三	五〇	三、七八〇	八二一	七、〇九三	一、四〇二	五九一	一、七五四	八四	一四八	二、八八九	二四七	一六一	
六六二	五、四三一	六八〇	四〇〇	八五	二、三三七	一、〇四七	三一一	二二七	二六一	二、五二七	一三九		四二八	三八二		
七〇九	八、七七五	一、八七一	二七二	一〇九	四、四〇三	六三三	四三		七五	一、七三五	二二			一六五	五四	
一、〇八三	八、九〇四	一、九四七	五七四	六七	一、九三六	五七四	二二		九二	九三	一四二		二六三	一七		
一、〇九八	八、二八五	一、三三〇	二四四	四一	五二五	二八七			二九	五四六	五六		一、三三八	一〇九		
一、二五三	九、一六六	七、九四〇	六三三	五	一、四四九	三六七			五六	三四七	一〇五		一六八	一四		
二、二四六	二、五四九	九〇九	三三九		一八二	五三〇			二六	一、三二九	九九〇		九〇	四五		
二、四九三	七、九二二	四九二	六八	九	二七五	三三三				五、一八五	二、九四〇		一、四八二	九		

第三章 運炭 第三款 陸運

荻田	四、五五八	五、五三五	四、二二三	五、四二六	四、八〇四	四、九九五	六、〇七	四、七八一
行橋	四、五二二	三、八六一	三、六八四	二、九三三	三、六五四	五、二二七	四、八五七	四、一五七
豐津	四二	二八	一八〇	一七九	二五三	三二	一七〇	一四五
庫川	三九	二〇六	三四一	四四八	四二	四一九	四八五	三六七
油須原	—	—	—	三三	—	二〇	二六	一八
新田原	六六八	四七二	二〇三	一六〇	二七九	二八〇	三三二	二九二
椎田	八二六	八二九	八七七	七四一	八四四	八五九	八九八	七〇九
松江	三三一	二八二	二四	三二四	一六五	二〇五	一八三	一六七
中津	一五、四七〇	一三、五八二	一一、五四一	一〇、九八一	一〇、三三六	一一、五三九	一三、二四二	一〇、七八六
大津	二、〇五二	九四三	一、六五九	二、〇四七	一、九三三	一、九三二	二、〇五九	一、九七二
今津	一、八〇四	一、八三三	二、一〇六	二、二二	一、九〇一	二、二二九	二、二五三	一、八三八
豐前善光寺	二、七四四	一、三六九	二、四九二	二、四五二	二、〇四九	一、八五一	二、三三〇	一、六二六
柳ヶ浦	五、八八一	五、六三七	四、六八二	六、六〇〇	四、三九八	四、二五三	三、九五	二、七七八
豐前長洲	一、四一五	一、六四一	一、九三二	一、九九三	一、六三三	一、一八二	五四九	八九〇
宇佐	一、二八五	八二〇	一、五三〇	一、一四六	一、〇八二	七八四	五五三	五七九
豐後高田	二、五七二	二、二七五	二、六五七	四八八	—	—	—	—
橋津	三三	四二	三三	七〇	—	—	—	—

宇佐八幡	六四	四五二	八	—	—	—	—	—
立石	九、四九一	一〇、四三三	九、八九九	六、二六六	五、一九二	三、九九五	三、〇一六	一、一九九
中山香	二九八	四六二	七六五	八四八	—	八四	二	一一九
杵築	三三四	二九八	三二九	二五三	三五四	四八九	三三三	二九五
日出	一、三二二	八六二	一、五二五	一、二〇七	七八二	六八	一、四〇一	一、五三二
龜川	四二	一七	五四	三二	六七	六九	九五	一一四
別府	一、七八三	二、六三三	三、四五二	二、二八六	二、〇二〇	一、八四六	一、七五〇	一、二八
四大分	二、九七二	一九、〇一一	一八、四九五	七、八〇三	五、〇一一	五、七〇二	四、三五四	二、七三六
大分	二、二八	八、六二六	一〇、三四二	四、八三二	三、五七四	三、四七一	三、八八三	二、五四九
瀧尾	一四一	九二	二〇九	三三	一七七	四三	—	—
中田	三三七	三八一	四四六	三五五	三八九	四三九	—	—
竹中	—	—	四八	—	—	—	—	—
犬飼	一、六四三	八〇五	二〇二	—	—	—	—	—
高城	二六六	五五	一四四	八一	—	—	—	—
鶴崎	四九〇	五四	六一	—	—	—	—	—
坂市	五四七	三三	三四六	四三	四三七	三三三	—	—
幸崎	二六	一六	八	—	—	—	—	—

第三章 運炭 第三款 陸運

三島岩田岩橫廣海三金三福生和江上揖  
田 布 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田  
尻田施國川島市原石崎山野原井屋

第三章  
運炭  
第三款  
陸運

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |  
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |  
七 三 八 八 八 八 四 九 八 八 二 九 八 九 九 九 九 九 九  
三 六 三 八 五 三 八 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

八七

白津淺佐川幡長伊大野小嘉目小德  
久井見伯關棚生府佐嶺田出川郡口谷佐  
杵見井伯關棚生府佐嶺田出川郡郡口谷佐

一、一四〇 五、一五 四八二 七 五、一五  
一、一七 二、三〇〇 七六 五 一、一七  
一、六四 一、二七 三五 二〇〇 一〇六 七 二、三六 八、五  
一、四八 九 八 一、三 七 八二 三 一、五九 四、五  
三六 一、三六 九 八 一、三六 九 一、三六 九 一、三六 九  
八六 一、三六 九 八 一、三六 九 一、三六 九 一、三六 九  
一、三六 九 八 一、三六 九 一、三六 九 一、三六 九 一、三六 九  
一、三六 九 八 一、三六 九 一、三六 九 一、三六 九 一、三六 九

高青魚東富金福大岐尾萩名桑武津龜伏  
岩 古 山見  
田海津瀨山澤井垣阜宮原屋名豐山見

第三章  
運炭  
第三款  
陸運

| | 七 | | | | | | | | | | | | 〇  
| | 七 | | | | | | | | | | | | |  
八 三 五 九 二 | 三 五 六 七 七 四 七 九  
			五												
八 九															
				六											
				六											

二園和山新海綾石福池神天天大尼神兵  
舞舞 知 王 ケ  
條部知家鶴鶴部原山田崎寺滿阪崎戸庫

| | | | | | | | | | | | | | | | | |  
| | | | | 五 | | | | | | | | | | | | |  
聖 | | | | 三 | | | | | 九 七 八 | 三 | | |  
| | | | 三 三 四 | 六 六 | | | 四 | | | |  
八 | | | | | 五 | | | | | | | | | | | 五 |  
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |  
| 四 三 八 | | 八 三 | | | | | | | | | | 八  
| | | 元 | | 〇 | | | | | | | | | 七 | | |



同 卅八年	四、五七二、一四〇	八、三八	同	二年	八、七五、三四二	九、二〇
同 卅九年	四、九四七、六八一	八、二〇	同	三年	八、八五、二八五	九、三四
同 四十年	五、三〇〇、八〇〇	八、二二	同	四年	七、五七、一三〇	九、四八
同 四十一年	五、八三六、七九四	八、四六	同	五年	八、五六、四五八	九、五〇
同 四十二年	六、〇九九、七七七	八、八八	同	六年	九、六一、三七六	九、四四
同 四十三年	六、二六四、〇四九	八、八六	同	七年	九、七四、九四六	九、四二
同 四十四年	七、一六八、三七七	九、〇四	同	八年	一〇、七一、四四二	九、四七
同 四十五年	七、九六六、五三〇	九、一九				
大正元						

第四款 總送出高内譯類別

筑豊炭の水陸總送出高は組合創立の翌年、即明治十九年に於て三十萬九千八百九十九噸に過ぎざりしもの、三十年を経たる大正六年には千〇二十三萬千七百二十九噸となり、一〇〇に對する、三三・〇二の割合を以て増加せり、即ち三十三倍の増率なり、今此送出高を各郡別、送出先別、送出炭種別の三種に區分し、順次之を表示すれば左の如し。

▲郡別累年比較 筑豊五郡總送出炭を郡別にして累年比較を試むれば左の如く、最近統計に就ては嘉穂郡第一位を占め、田川、鞍手、遠賀、企救の各郡順次之に次ぎ、其十九年以後送出高の合計は、田川、嘉穂の二郡稍相同じく、鞍手、遠賀之に次ぎ、企救郡最も少額なり。

組合炭山郡別送出炭高累年比較表 (半季統計表に依る)

年次	遠賀	鞍手	嘉穂	田川	企救	合計
明治十九年	四三、七二〇	一四三、七二二	八三、六三六	三九、八五九	—	三〇九、八九九
同二十年	四四、六八〇	一八九、三五一	二四、七七六	六一、三七五	—	四一〇、〇八二
同廿一年	八七、四三三	二二、九四九	一五六、九九六	九五、二六〇	—	五五一、六七七
同廿二年	一三一、九六七	二二、〇六五	二九、八二一	九五、一三三	—	六六九、九五六
同廿三年	一八八、八五七	二五六、〇一九	二七九、七七九	二二、九六六	—	七八七、五九一
廿四年筑豊興業及九州鐵道石炭運搬開始						
同廿四年	一五七、七四九	二六二、四六三	三三三、七四三	一八六、四五六	—	九二〇、四一一
同廿五年	一三三、七四四	三三七、三〇五	三三九、九四九	三九、七七九	—	一、〇三九、七七七
同廿六年	一四〇、三七四	四二四、二六一	三七三、二五九	一九七、一八四	—	一、二三四、〇七八
同廿七年	一七五、七二五	五八二、四三五	五四二、五〇二	四一〇、三五五	—	一、七二〇、八八七
同廿八年	二二二、〇六二	七九六、〇四〇	六八一、六六一	四四五、八七三	—	二、一三六、六二六
廿八年豊州鐵道石炭運搬開始						
同廿九年	二八、三三〇	八三、三三三	六六六、六六五	六四、二四五	—	二、三四二、五六三
同三十年	三〇〇、三〇〇	八九五、〇一八	六三六、一六五	八九五、二一九	—	二、七六六、三四三

第三章 運炭 第四款 總送出高内譯類別

同 卅一年	五三〇、三六	九九八、一二	七九八、五〇一	一、〇八三、九四六	九四	三、四〇〇、七九四
企救郡各坑組合に加入						
同 卅二年	五二一、三三	一、〇一七、九〇一	九六一、六七八	一、〇一八、〇八三	二四、三七八	三、五三三、三五〇
同 卅三年	五二一、五一	九九三、八四六	一、〇六〇、五一七	一、四五〇、八八〇	六〇、四四〇	四、〇八七、二五四
同 卅四年	六二八、五四一	一、二九一、四三四	一、二五八、三三三	一、五四〇、六四七	五二、七〇七	四、七六一、六三二
同 卅五年	六二〇、六九九	一、四五九、一一一	一、三六六、八八六	一、五三三、一一九	六四、一六三	五、〇四三、五四八
同 卅六年	五九八、五三三	一、五七六、五三四	一、四九七、八二〇	一、四八四、二五三	七、五六五	五、一六四、六八四
同 卅七年	五三三、八八二	一、七二三、五三八	一、四六四、五四七	一、六三八、五七五	四三、九七七	五、三八六、五一九
同 卅八年	五五五、〇三九	一、六三九、〇八四	一、四六四、六四三	一、七七五、二二三	六三、六四九	五、四七七、五二八
同 卅九年	六九五、四九九	一、四六八、三五七	一、八七九、三七九	一、九五四、〇七六	三九、七三〇	六、〇三六、九六一
同 四十一年	七七〇、七三八	一、六四一、〇九一	二、一三三、五八五	一、八九六、九七七	二二、〇七二	六、四六二、四六三
同 四十二年	八五四、〇二八	一、六七〇、九五四	二、三三二、四七七	二、〇三〇、八八五	一五、三三三	六、九〇三、六三六
同 四十三年	八七一、五四四	一、五九〇、一九一	二、三七七、八〇三	二、二二〇、四七一	—	六、八六九、六一九
同 四十四年	九八七、三〇四	一、七九三、四四五	二、六六〇、八五〇	二、四七〇、七八五	一四、三九八	七、〇六九、八一六
同 四十五年	一、〇八〇、二六三	一、九三七、七三六	二、七四七、四五二	二、八九一、六九六	一四、七六八	七、九二六、七八二
同 大正元	一、三七一、五八一	二、〇九八、二〇五	二、九四一、六二五	三、一一〇、三四三	一三、〇六八	八、六七一、九〇四
同 大正二年	—	—	—	—	—	九、五三四、八三二

同 三年 一、六八、八九二 二、〇九八、七三七 三、〇〇二、五九〇 三、〇六一、九七六 一七、七七〇 九、四四九、九六五

同 四年 一、〇三六、〇二二 一、七八三、〇三六 二、〇六一、八七〇 二、五五四、〇四七 二八、一五八 八、〇〇三、一三三

同 五年 一、二三五、〇六一 一、八九三、三〇二 三、〇四七、七二〇 二、八七五、一五五 一九、七〇〇 九、〇三六、九二八

同 六年 一、五五四、八八四 二、〇〇八、八〇六 三、四六二、一四二 三、二〇八、五八〇 二七、三二七 一〇、三二一、七三九

同 七年 一、五八六、三四六 一、八七二、〇四九 三、七三六、六四四 三、二一九、六五四 五三、〇〇三 一〇、三七七、七四六

同 八年 一、六三三、四一五 一、九八九、四六五 四、一一〇、八三二 三、五二七、六〇七 五一、二八七 一一、三〇六、六〇五

計 二二、〇三二、五六一 四一、二四四、五九九 五三、五八七、三〇三 五二、〇六五、〇二六 六三七、九一六 一六九、五五六、二三五

▲送出炭着地別累年比較 筑豊送炭を着地別に之を見れば、最近統計は若松港其大部分を占め鐵道各驛、門司、小倉、鐵道用、宇島、芦屋之に次ぐ、尙其十九年以後の合計と、着地別累年増減の數量とを熟覽せば、自から市場の大勢を窺ふべきものあるべし。

組合炭山送出炭着地別累年比較

年次	若松	門司	宇島	芦屋	小倉	鐵道各驛	鐵道用	合計
同 卅九年	三〇〇、七七七	—	—	九、一九二	—	—	—	三〇九、八九九
同 四十年	三九六、七七七	—	—	一三、三六五	—	—	—	四一〇、〇八二
同 四一年	五三三、九六七	—	—	一七、六六〇	—	—	—	五五一、六三七

第三章 運炭 第四款 總送出高内譯類別 九五





運送炭中止に付東小倉送炭のみを掲ぐ。

▲炭種別累年比較 筑豊送炭を、塊炭、粉炭、切込炭、硬炭、燧石、無煙炭、骸炭、石殻の八種に類別すれば左の如し、累年各種別の増減を、十九年以後の合計を熟覽せば、又以て斯業の内容を見るの資たるものあるべきを信す。

組合炭山送炭炭種別累年比較表

年次	塊炭	粉炭	切込炭	硬炭	燧石	無煙炭	骸炭	石殻	合計
明治十九年	一七五、三三四	九五、六二九			三八、九三六				三〇九、八九九
同二十年	二二二、六三三	一三三、五四一			五四、六四七				四一〇、〇八二
同廿一年	三七一、七六九	一九九、八七六			五八、七二二				五五一、六二七
同廿二年	五二七、一五二	九九、〇六五			四三、七一一				六六九、九五六
同廿三年	五八二、〇〇三	八八、四四五			四八、九六二				七八七、五九一
同廿四年	六五五、四九七	一三六、八三八			六、五六七				八〇〇、四一〇
同廿五年	六六七、四四四	二二八、六九〇			四三、四三一				九三〇、四一〇
同廿六年	六九二、七〇五	二七三、三七四			五一、六四七				一、〇二九、五三三
同廿七年	九三四、三四九	三三三、〇四一			五二、八二三				一、三〇四、〇七八
同廿八年	一、〇二二、五四七	三五三、〇四一			五〇、〇四六				一、四五一、七二〇
		五二八、七三七			四三〇、九九二				一、三九〇、二一六
					一一、二六三				六、八一九

同廿九年	一、三二〇、九四六	五八一、三四四	三六九、六八二	一〇、五九三	五五、二二八	二、四三六	一一、三七五	一、〇六八、二三四〇、五六二
同三十年	一、二九二、八三一	五七七、五五五	七二〇、七三五	三八、〇四二	八〇、二六九	一〇、六三七	一四、五四六	一、七三七、二七六、三四二
同卅一年	一、六四六、四二五	六三八、八七六	一、〇四四、二六九	五、六八一	五一、四八二	八、七七七	四、四三八	八四六、三、四〇〇、七九四
同卅二年	一、七四四、五五六	七八九、〇五一	九五五、七九五	六、六八〇	五三、一四三	七、一九三	五、九三三	一、〇二九、三、五三三、三五〇
同卅三年	二、二五、九二八	八三六、九四一	九七四、八二四	一五、三八二	二五、八二四	四六九	六、八七三	一、〇三三、四、〇八七、二五四
同卅四年	二、三四九、八八八	一、〇二六、〇八四	一、二八五、八九一	二〇、六六五	七二、六〇七	五、八	五、四四四	一、〇六五、四、七六一、六三三
同卅五年	二、二七九、一九六	一、〇五七、五四四	一、五八八、四二〇	一八、〇四三	九二、三三五	五、七七	六、四七二	一、二二一、五、〇四三、五四八
同卅六年	二、〇〇〇、〇三一	一、三五二、一四四	一、六三三、七七二	四三、〇三三	一一四、七九九	一、六五一	八、四三六	八四〇、五、一六四、六八四
同卅七年	二、〇四五、七一九	一、三九五、五五一	一、七三二、八九六	七、七四一	一一六、四四七	一〇、一五四	七、三四四	六六七、五、三八六、五一九
同卅八年	一、八八三、九一三	一、三二八、三九六	二、〇一六、九八〇	六二、二八九	一一六、九四四	二八、四五〇	一九、七六〇	七九六、五、四七七、五二八
同卅九年	一、八五一、四三三	一、四二五、三四四	二、五六六、三二五	三〇、六三八	一一二、四三三	三七、二二七	一三、一九一	三九二、六、〇三六、九六一
同四十年	二、〇二四、九五〇	一、六四〇、六八八	二、六三三、七三二	四二、七二六	七七、七四一	三四、一八二	一八、七七七	六七七、六、四六三、四六三
同四十一年	二、〇六四、七〇八	一、八〇三、二八八	二、八四八、三三三	五三、六七二	七〇、三八五	四五、五九四	一五、八四〇	八三七、六、九〇二、六三六
同四十二年	一、八七三、八二四	一、九八三、〇六八	二、八三六、九〇二	三二、九二五	六九、七〇九	五五、〇一九	一八、二九四	八八八、六、八六九、六一九
同四十三年	一、九五六、六四九	二、一九〇、七八〇	二、七二七、二九〇	三三、三九九	八六、八三三	六六、九四八	一六、七九〇	一、一三一、七、〇六九、八一六
同四十四年	二、二七七、七三〇	二、五七三、五五一	二、八九〇、七九一	六五、二二〇	一二五、七四四	七四、三四七	一八、二四五	一、一六四、七、九六六、七八二
同四十五年	二、四〇三、四九九	三、〇三七、一四七	二、八七六、四五二	一六三、八四九	九九、〇一九	七八、九七七	一五、六八三	一、三三八、八、六七二、九〇四

第三章 運炭

第四款 總送出高内譯類別

同二年	二、八四〇、三二	二、九六三、〇八九	三、二八三、八〇九	二、三〇〇、四七五	一、三、四三九	八五、三九五	一六、八二四	一、六七〇	九、五三四、八三三
同三年	二、六六三、八〇九	二、八七六、七三三	三、五三二、五五二	二、〇一、七四五	八〇、五八〇	八一、九四九	一五、三〇五	二、三〇三	九、四四九、九六五
同四年	二、七七八、五三三	二、五九一、三三三	二、八〇六、四二七	一、三六、〇一一	九四、一五五	八〇、五三四	一三、八三五	三、三三四	八、〇〇三、一三三
同五年	二、五六九、五五五	二、九七九、八九〇	三、〇三二、九五二	二、九七、七六	一〇五、二二五	九一、二四一	一八、〇五九	三、三〇一	九、〇三六、九二八
同六年	二、七二二、五二六	三、一三九、〇五八	三、七九五、八四五	三、八七、三〇	九七、五三三	八〇、七六六	一六、二二九	二、四七三	一〇、三三二、七二九
同七年	二、六三七、五三九	三、一三五、八〇五	四、〇三三、二二〇	三、六五、三九三	一一二、七二四	八二、三八九	九、八五九	一、八四七	一〇、三七七、七四六
同八年	二、八四一、〇四八	三、五八一、三〇〇	四、四七七、一〇八	三、三四、六三九	九八、三二六	八一、七六五	一、〇六二	一、三六七	一一、三〇六、〇五五
計	五七、四四六、六五四	四七、五八、七七五	五七、八六三、五九五	二、五九〇、二二五	二、七三六、四七五	一〇、四九三、三四	三、五、四〇四	四、五、八八三	一、六九、一、三三三

第五款 炭坑別總送出高 (最近八ヶ年間比較)

大正元年以後八ヶ年間、組合各炭坑別の送出高を比較すれば左の如し。

炭坑名	大正八年	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	明治四十五年	大正元年
大之浦	七九六、八五七	七五〇、五五五	九二一、一〇三	七五〇、二七九	六三五、四八四	七四七、五九九	七六五、二七八	七〇七、一〇一	七〇七、一〇一
三井田川	七四三、八四六	七〇八、三三六	八〇七、六六七	八一九、三四	七七六、五六一	八三九、八二七	八三八、八三九	七八九、一三六	七八九、一三六
峯地岩瀬	六四三、〇五二	五二六、六〇一	六二二、〇四七	五五八、七二九	四七四、三〇七	六三二、〇九四	五九六、九三七	五三七、四三〇	五三七、四三〇

飯塚	四八四、一〇一	一、三〇〇、三〇〇	一、五三、八一八	一、〇六、一〇七	三三、八三五	一六、九七六	二、六三三	—	—
鯉田	四〇四、七六二	四二〇、一七四	三九四、三六五	三九〇、一三三	三五二、二四八	四二二、六六一	四二四、二二〇	四一五、四六九	—
豊國	三七七、五七八	四二一、八七〇	四七七、七九二	四六四、八八六	四四七、五四九	四五六、三三四	四〇七、〇九三	三九六、三九三	—
三井山	三四六、五八一	三四一、三八六	三四〇、九九八	二九九、九六一	二七五、六〇三	三二二、四九二	三二五、二五三	三〇二、五〇五	—
平山	三四〇、四三〇	一六八、〇七四	一〇四、二九五	一〇〇、二五〇	九〇、五二八	九一、九七一	五二、九九七	二二、四四四	—
新入	三三七、〇三九	二八六、九〇七	三三三、八二〇	三五二、六五三	三五五、二五八	三五四、二六四	三五二、一七四	三九八、九三九	—
大辻	三三六、七一九	三〇七、〇八八	三三一、五九一	二六一、八四四	二四五、二六	二五五、五四一	二六九、四八〇	二二四、三四六	—
目尾	三二二、六五一	三二一、八三〇	三七八、九〇四	三四七、九八二	二九九、八四二	三〇九、四〇四	二五八、五二一	一九六、一六〇	—
大峰(元大任)	三〇六、四四七	二二四、〇八六	一六九、九九五	一五五、九二九	一〇三、九四八	一三八、九五〇	一五一、四九五	一三一、一八六	—
明治治	二八〇、九四〇	三七二、〇九八	四一七、一四五	四三五、〇四〇	三九四、八七五	四四一、〇九七	四七四、八二八	五四一、七〇一	—
明隈	二四五、三七〇	二四九、六五七	三二二、四七四	三三三、六六一	三四六、三〇八	三七三、五八二	三六九、五七六	三七九、七〇四	—
忠隈	二二七、三六一	二四三、二二二	二六五、八九九	二九九、六三一	二〇六、四〇七	二三四、六七九	二六〇、〇六五	二二四、六三七	—
芳城	二〇三、九八二	一九〇、三〇七	二〇三、六九四	二〇〇、六〇五	九九、四一七	二二一、九九二	二二九、三六九	二〇三、三三三	—
方城	一八四、三〇六	一九五、〇五二	一三四、五六五	八、〇八二	一一、六三六	一五、八九〇	—	—	—
高尾三坑(元大君)	一七二、二六六	一四六、二四〇	一四三、六三九	一三四、七二四	六九、二九四	九四、五三五	一三八、八九二	一〇九、三六六	—
中鶴	一六九、五四六	一九五、九〇四	一三七、七三二	一三九、五五〇	二四二、二九七	二九八、八二〇	三三六、四二六	三五八、四〇一	—
金山	一六四、五六九	一八、三四六	一四二、七二五	一六一、八七一	一五三、八〇五	一三九、〇一三	一二四、八七六	一二四、七〇七	—

第三章 運炭 第五款 炭坑別總送出高

大隈	一四四、三五〇	一四〇、〇〇〇	一四六、三三二	九六、〇九六	七一、一八六	七五、九八二	八五、一三三	六九、一八五
豆田	一四一、〇一三	一六七、三三八	一六五、三八八	一三一、七九五	八八、二二九	一三九、八二八	一四六、三七八	一三三、二〇六
綠	一三一、〇七二	九一、三四八	八五、一三一	六九、四八九	六〇、六六九	七二、六三九	八二、三三三	八一、六一一
三好(高松を含む)	一六六、六六二	一六九、五九八	一九九、一七八	二二〇、二九二	二二七、四〇三	三二〇、七八五	三三一、一七九	二八四、九九四
三井本洞	一三六、三四二	一三九、七五〇	一五五、三二五	一七七、六九五	一五五、九八二	一六三、六二〇	一七八、九七二	一七三、八八一
赤池	一三三、五四〇	一〇二、四七一	一一〇、一七〇	一〇一、五二五	八四、〇九〇	一三五、一〇六	二〇一、五七九	一八一、五四七
中嶋(在大任)	一一九、一九〇	九〇、八九八	七五、三五六	三六、五六五	一三、七九六	—	—	—
木屋ノ瀬(木屋瀬高谷)	一一七、五三七	一一七、二八二	七二、二三四	九三、六九九	八五、四四四	七二、五八七	七七、四二六	九六、一〇二
岩崎	一〇八、六一一	一一三、一三六	九五、二〇四	九一、二八七	一〇二、四五七	一一九、〇五〇	一四〇、四八二	一〇三、二七七
川崎	一〇八、一九二	七五、三〇四	六五、六九三	一八、六八三	一一、六八七	八、一七五	一、五七八	三、六八九
新山	一〇三、三四四	一一二、三三五	一一七、一七	一四四、八二六	一五一、二四五	一六〇、一四四	一五八、三三三	一四八、八二三
下田	一〇一、七七八	八八、七〇三	八七、九〇四	一〇三、九二五	九七、六五一	一一、九八七	一一〇、五八四	一四四、〇四六
吉隈(元下白井)	一〇〇、八九〇	八三、一六一	九五、八四一	八〇、〇三二	三七、〇二六	一三、七五四	一、四〇四	九
宮尾仲津原	一〇〇、七七九	九一、二五五	七五、三四三	五〇、七三六	五〇、四〇五	一五、七五七	—	—
神之浦	九八、九二〇	一五一、八九二	九五、一七五	一六、九七五	—	—	—	—
新目尾	九六、九〇〇	七四、四七九	四七、七五四	三九、六四五	五五、〇一六	六三、三三六	五一、九一〇	三二、三六九
旭(元西川旭)	九二、七三三	七五、二三三	一〇一、七四二	一〇四、九〇二	八四、九二七	一〇六、三六四	九五、七九五	五八、七三五

赤阪	八九、一五六	九〇、一六九	八三、三五九	四五、三四一	—	—	—	—
起行小松	八五、七四二	一四、一四二	五、九八二	一、五七八	六五	二、九八七	五、八四四	六〇四
海老津	八一、一七三	五二、六二九	三四、五四四	八	七五九	一、三七七	七	四六三
泉江	六九、四六三	七八、六八一	六四、一六一	六五、三三一	五七、二七四	六九、七九五	六〇、六七五	三三、三七
高江	六九、一九六	一一〇、三九七	一三三、三六八	一一七、八二九	六七、五七〇	二四、〇七六	一五三、〇七一	一一三、九四一
漆生	六五、五七五	一三、四四六	三、四三九	—	—	—	—	—
島廻	六五、一三四	六三、二七六	六七、六五二	七七、四五三	七一、九三六	七二、九〇二	八二、七七九	六七、三六三
第二旭	五八、三九六	三三、五五六	一六、八〇三	四、二五二	—	—	—	—
御徳(元御徳海軍)	五四、六九九	六〇、九五三	七二、六六二	八四、四四八	九九、八九六	一三一、二〇九	一三三、六七一	一四五、三一一
樹谷	五四、二五四	四一、一五五	九、八五〇	—	—	—	—	—
三笠	五三、六八七	五六、一〇七	五五、二〇二	六三、七五八	八七、九三二	一一九、六六〇	一〇〇、二四八	五八、八三三
相田	五一、五九八	五二、四三二	四四、四八六	四〇、一七四	二〇、五〇三	四八、四九四	五七、四四九	五八、四九〇
新手二坑	五一、一三六	五三、七二五	五二、〇八二	五九、四八五	四七、二〇五	七四、五二〇	八四、九一九	一四、九七九
岩崎後藤寺	四七、九〇八	四、五八四	—	—	—	—	—	—
室木	四七、三七七	四五、六八四	一七、〇七三	一三、六八八	二三、四二五	二九、〇一五	三四、六一三	五三、〇一一
鴻之巢	四〇、八七八	一一、五三五	六、七五六	—	一五〇	四三八	七六二	五九
綱分	三七、七八六	四一、九〇三	三〇、七〇〇	二九、五〇五	三八、三九八	四三、四〇五	四三、四五二	三八、四〇五

第三章 運炭

第五款 炭坑別總送出高

鎮西	三六、四〇七	三六、七七九	二八、五三一	一〇四
若松 (元東郷)	三五、二二七	二九、〇三三	二五、五四九	二八、八九六
繁 牟田	三二、五八七	二二、四三〇	七、〇五三	二八、七三九
上 山ノ谷	三〇、八三七	三八、三二七	三五、八七七	一〇、〇一〇
横 島	三〇、五四五	二二、五八八	四〇、二〇三	八、三三一
極 東川崎二坑	二八、六〇二	九七六	一六、六七四	三五、〇〇五
極 東川崎一坑	二七、九七四	四〇、八四七	二五、五三三	四一、八〇四
東 邦小倉	二七、〇六〇	三一、一四〇	三一、〇三三	二〇、二八七
鳳 (元吉田)	二六、九八四	一、八六三	一七、九四九	一〇、二七六
日之出 (元貴船二坑)	二六、五〇二	四〇、五〇五	五九、四三四	六、四六二
熊 田	二五、八八〇	一、六七三	一四、〇三六	五二、八七四
本 添田	二四、六一一	四四、七三九	一一、五五七	一一、九九三
平 和	二四、五七八	二五、四三七	一三、九五〇	一一、九九三
上 目尾	二四、三九六	二四、六七六	二七、七八七	二〇、七二〇
大 定 (元赤地)	二三、九五六	三一、八六二	二五、一八六	二〇、七二〇
起 行	二三、三三三	一一、一五六	一、七九四	九、〇九〇
第三 鷲嶺				七、九六二

緒 方	二三、〇四四	一四、一九七	三、四〇九	四、二三四	五三四	三〇
高 陽	二三、九四九	一六、三六二	八、二〇〇			
赤 松	二二、六六七	七、三六一	四、三七八			
笹 原	二二、三三六	二〇、七九五	六、六七八	三、三三四	三、三〇〇	一、〇九四
庄 司 (元寺島)	一九、五六〇	二二、一〇九	九、〇二五	五、三七六	一、〇二六	二、七七三
七 福	一七、三三一	二、四八八	一、八三六			三、八七四
黒 川	一七、二八二	一五、四四八	一六、一八九	一一、八四二	五、三三四	二、四九九
額 田	一七、二六二	一三、二六六				
福 豊 (元爲朝)	一六、八四〇	一七、三三三	一四、四五三	七九	九五	一五、四九〇
筑 紫	一六、一七九	一五、八五九	一九、四三一	一九、一九六	五、九三三	二二、七〇七
山 谷	一六、〇三四	一〇、七三五	七、〇七三	八、九七五	一六、六六六	三七、一〇五
新 延	一五、七四七	二八、〇一八	三〇、〇七八	四、九八〇	三、一〇六	三七、一〇五
貴 船一坑	一四、八九九	一四、三五九	九、八二七			三七、三二七
新 清藤	一四、六九三	一、六七八				三七、三二七
中 里	一四、二七五	五、二三三				八、二九七
大 谷	一三、九五六	一三、七七三	一三、五六六	一一、三五〇	九、四三三	六、五二五
奈 坂	一三、八二三	一、八六八				一〇五
第三章 運炭						
第五款 炭坑別總送出高						



谷	大喜 (元大石)	白井	輝龍	山田 (元百谷)	小谷	三吉 (元椎ノ木)	上寺ノ谷	伊原 (元岩ヶ鼻)	天城	平林	清田上大隈 (元上大隈)	不動	成光	井浦	今任	李多田三四坑
頭	三、一六八	三、四三九	三、五二二	三、六一〇	三、八四六	三、九二〇	四、〇四四	四、〇七四	四、一五三	四、二二七	四、三三八	四、四六二	四、八七三	四、九一九	五、〇四四	五、一八〇
	三、二〇八	三、七二四	一〇、五三二	三、七九九	四、二〇六	六、一七四	三、七二〇	五、二二四	七、六六六	五、八三四	一、四三九	一、	四、四六四	五、八三五	七、二七一	二、七五五
	一、八八三	一、五二四	一、	一、三四	四、二九六	三、四七六	三、七二〇	九、二五	七、七六	五、五七	一、	一、	八、三八二	六、四三三	三、〇四〇	一、
	一、	一、	一、	一、	一、五五二	九、三	一、	四、七	三、七	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、
	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、
	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一〇八
	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一〇八
	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一〇八
	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一〇八
	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一〇八
	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一〇八
	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一〇八
	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一〇八
	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一〇八
	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一〇八

佐々木 (在岩瀬) (元添城)	勢田	柳谷	富國	谷倉	大平	大正 (元一ノ谷)	見立	田口	第二横島	櫻木	小神	中屋	生神	眞崎	奈良	神崎
三、一六	三、一〇七	二、九〇三	二、八六四	二、八四三	二、七三三	二、七三三	二、五九〇	二、五八八	二、五三七	二、五三八	二、五〇六	二、四六九	二、三八八	二、三三七	二、二九七	二、二一五
二、四五三	一、九一〇	二、二六四	一、三三四	一、三三四	五、五〇一	五、五〇一	二、三三五	八、一九四	七、〇四九	四、八八二	四、八八二	四、八八二	九二九	九二九	二、九八六	二、九八六
三、二九六	一、五五四	九二四	三、八三〇	三、八三〇	九二〇	九二〇	四三五	六五八	四三五	六五八	四三五	六五八	四三五	六五八	四三五	六五八
三、二五一	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一〇九
三、〇七〇	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一〇九
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二
二、〇三六	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	一、〇〇三	二、七三二

第三章 運炭

第五款 炭坑別總送出高

一〇九

二、七三二

米田 (元川崎)	淵上	梅林	本入	神武	第一寺ノ	第四ッ	平高	前床	大畑	新相	石切	四上 (元宮野)	第一目	吉野	眞木
一、三三三	一、三三九	一、三六四	一、二九五	一、三六四	一、三六六	一、四一四	一、四三三	一、四八八	一、五五一	一、七二四	一、七七一	一、九二九	一、九八六	二、〇八七	二、〇九四
一、七八五	一、四七〇	九九四	一、〇三九	七四八	一、二二二	二、四六四	二、二五五	四、九九六	四、〇〇〇	二、七三三	一、二二九	二、〇二一	一、一五七	四、七四一	三、六五六
一、二〇九	一、七三三		一、四七六			二、八八六		一、二三〇				一、五四六	三八	三三〇	三、六五六
六三三						一、五〇七							一五八		
三六一						七							五七七	五九	
一、三三九						一、九九三							一、五三三	七四八	一一〇
一、七六一						一、八三三							二三四	〇	
五二〇						二〇七									

永道	下長	井上 (在上山田)	利德	大熊	小松 (元平岡小松)	吉田	大任	幸崎	吉原	西尾	東目 (元八木)	西田	千手
六五八	六九九	七三八	七八六	八三五	八七四	八八八	九元	一、〇〇五	一、〇四〇	一、〇九〇	一、一七〇	一、一九四	一、二九三
一、七六四		八、六七七		一、七六三		一、二二八			二、七三	二、〇八一	一、五三〇	一、八五一	一、九三七
		一〇、五四二				一、二三八				一、二八四	六八八	一、六〇九	七二五
		三、二〇九				五二					五四	一、六〇九	
		一、三三七				四六					四八九		
一一一		一、四三四				二、〇一九					七六八		
						一九三六					五五六		
						一、一〇一							
						四六五					五八八		

第三章 運炭

第五款

炭坑別總送出高





第三章 運炭	梶原小松	江頭小松	猪頭	角銅	大平	三谷	大熊分坑	峰山	下畑	岸本小松	眞鶴	伊方	吉北	新野	大正谷	勢田大谷	大原
第五款 炭坑別總送出高	七	八	三	五	一五	一六	一七	一八	一八	三七	四九	四九	五三	五八	六八	七二	九二
	一四	一	一	一	四、一五	三二	一六	一八	一八	二二	一九	二二	二二	二二	一三	一三	九六
	一七	二	一	一	一四	二五	一四	一四	一四	三	六	三	二	二	六	一	一七
	三、一八	一、八六	一	一	一	三七	五、五七	二、二二	二、二二	四〇	二、六〇	七〇	二、四三	一、一〇	一、一〇	一、四二	一、四二
一一五	六、六一	八、九	一	一	七	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇三	一、〇三
	三、四八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二、五二	二、五二

佐々木(在池尻)	爲朝二坑	宮前	山本	高尾	手浦	都	猪	矢之	松尾	爲朝分坑	新朝	宮ノ前(元飯塚)	長田	井上	中島(在後藤寺)
九六	七四	七六	七五	五六	四五	三五	二七	一九	二〇	七	一	一	一	一	一
一、〇八一	二六四	一	五三	一	二、六七	一	一	一六	一、一七	一、一七	一、一七	三、三〇	二、三〇	一、六〇	一、五九
一七	一	一	一	一	一	一	一	一、三五	二、六八	二、六八	一、二六	一、二六	一、二六	一	一
一、二三	一	一	一	一	一	一	一	三	一、二七	一、二七	一、二七	四、六六	一、三〇	一	一
二〇九	一	一	一	一	一	一	一	七、五八	二、〇七	二、〇七	二、〇七	一三、〇九	二、二七	二、二七	二、二七
二、五七	一	一	一	一	一	一	一	二、五	二、〇五	二、〇五	二、〇五	二〇、〇七	一、五六一	一、五六一	一、五六一
一、七	一	一	一	一	一	一	一	一	二、〇五	二、〇五	二、〇五	一、二、五〇	二、九	二、九	二、九





期合

計

一、三〇六、六〇五

一〇、四七、七、七四六

七、三九

九、〇三六

八、〇〇三

一、三三

九、四四九

九、五三三

八、六七一、九〇四

一一〇

備考

第二旭は大正七年より糸田金谷及糸田合併改稱

御徳は大正七年より堀御徳の改稱

若松は大正七年より東郷の改稱

極東川崎一坑は大正九年九月より極東川崎の改稱にして元中島川崎と唱へたり

極東川崎二坑は大正九年九月より極東副田の改稱にして元中島副田と唱へたり

福豊は大正七年より爲朝の改稱

貴船一坑は大正八年より貴船の改稱

錦は大正八年より眞上昇の改稱

白土は大正七年より金の木の改稱

若江は大正八年より中春の改稱

勝山は大正七年より金井の改稱にして元勝山と唱へたり

式部は大正八年より新豊州の改稱

御徳武谷は大正八年より武谷の改稱にして元明神と唱へたり

幸袋は大正八年より白島の改稱にして元松風大谷と唱へたり

伊原は大正七年より岩ヶ鼻の改稱

三吉は大正八年より椎ノ木の改稱

山田は大正八年より百谷の改稱

大喜は大正八年より大石の改稱

大正は大正七年より一ノ谷の改稱

宮隈は大正八年より宮野の改稱

西金田は大正七年より武田金田の改稱

東は大正八年より門松副田の改稱にして元八木と唱へたり

小松は大正八年より平岡小松の改稱

〇〇〇

## 第四章 貯炭、船積及販賣店

今筑豊炭の最大市場たる、若松、門司兩港に於ける貯炭及船積に關する概況を左に略記し、併せて兩港の石炭商組合に屬する販賣店を附記することとすべし。

### 第一款 貯炭

▲月末貯炭累年比較 若松、門司兩港貯炭の増減を熟覽せば、自から市場の大勢を窺知するを得、

第四章 貯炭、積船及販賣店 第一款 貯炭

從ふて本邦及東洋方面に於ける斯界の盛衰をも看るの資たるものあるべきを信す。

若松港月末貯炭累年比較表

月	大正八年	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	明治四十五年	明治四十四年	明治四十三年
一月	二〇、八六九	一三、〇六〇	一七、〇三六	二五、九二四	四〇、二九一	七七、四六三	八七、五三二	一一九、四四八	七六、二〇九	一三六、四七一
二月	二五、一八四	一九、九八二	二二、七四九	三三、〇二四	四四、五七七	七三、〇七五	七八、二五四	一四六、二八七	六一、二五四	一三四、七九一
三月	一四、一四八	一〇、九八三	九五、二〇三	二五、五三三	四七、四六一	一五六、九九〇	五五、五三九	一五六、四七一	六八、二〇〇	一一三、八六五
四月	一九、〇三五	一三、九四五	一七、〇九六	一八、七四四	四四、五五五	四八、四二九	九七、四九六	一八四、四二九	一〇一、九三二	一〇八、四九三
五月	二二、二六八	一八、四二〇	一七、六三五	一六、六〇二	四二、六一六	二五九、三六八	七一、六六三	一六六、三六一	一一四、九九二	一三〇、九七五
六月	二七、三六三	二二、〇五四	二七、四八一	一七、四六四	四四、五五八	三三、五六八	七四、四三三	一五二、四〇六	一四六、二五三	一一七、二六五
七月	三〇、八二〇	二五、三三三	二五、三三三	三三、八六一	一七一、七七四	四四、五〇〇	四四、五九三	五五、六七〇	一六九、七六七	一七九、四四〇
八月	三三、六八五	二八、五八〇	一八、八二五	一五、七四〇	四一、八五二	二八三、七一	六八、〇五九	一五九、〇五一	一七三、一五五	九二、四四九
九月	三七、九一六	二五、九四八	一五、八五一	一五、九六四	四〇、八二七	二九五、三二八	五五、二〇三	一四五、〇三三	一七三、〇一一	九九、九〇五
十月	三六、四七三	二七、六〇五	一四、九一〇	一五、四一〇	三五、八三九	三三九、二八三	五九、〇一一	一四一、二八九	一七六、九五	八九、五八六
十一月	三七、八五九	二四、〇六二	一一、七五五	一六、八三三	三〇、三九四	四〇、一九八	五二、〇六二	一一四、六九四	一四四、四〇七	九四、八九四
十二月	三七、四九五	一一、三六六	一〇、三六一	一八、五七〇	二七、四二九	四六、〇四四	九七、八九八	九六、五六五	一三七、二九九	九五、三二〇

門司港月末貯炭累年比較表

月	大正八年	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	明治四十五年	明治四十四年	明治四十三年
一月	五七、九一三	四九、五九六	六三、九七〇	一五、五九三	三三、四四三	七四、八五八	九九、七八三	一九三、九一〇	一一五、〇九九	三七八、九二四
二月	四四、五九八	六〇、六七三	四二、九〇七	一一、八七六	三三、四四三	九五、二八九	一〇二、二九六	一八四、五七八	一一七、〇三六	三二一、一四七
三月	六六、七八五	六七、六四六	四四、八四一	一一、一六五	三三、五三三	一一五、五〇八	八五、五二六	一七六、二九四	一一七、六六一	二五九、四三六
四月	八六、五七四	七六、七三四	四三、六〇六	八九、六六七	三三、四〇五	一八五、一四四	八六、六八九	一四九、五八九	一五七、四四〇	二二七、四六六
五月	一〇四、四九〇	七二、四〇五	五三、二二九	九一、七七三	三二、〇二一	二二六、二二四	一〇四、七九一	一六七、六八二	一九八、一六四	三三四、四六七
六月	一一三、五三一	七三、四八〇	五九、四七四	七九、六〇一	二九、三二〇	二五三、三七二	一一五、六四八	一五一、〇四四	二二五、一七五	二二二、七三二
七月	一一三、四八一	七七、五四七	六三、八三八	七六、五六〇	二七、八七二	二七七、七二二	七四、四五二	一七六、六四五	二二〇、八五七	一九一、九〇八
八月	一〇九、九六二	七六、六一二	六七、二七六	六三、五〇五	二七、三五二	二六二、七五二	八九、五〇八	一四九、九二九	二二〇、五五九	一七六、四五三
九月	一一二、三三〇	六八、七八二	五二、三三五	五五、三四二	二四、八〇二	二四〇、八四二	八四、五五〇	一四〇、三三二	二二〇、三五一	一八八、三一九
十月	一一三、三三〇	八二、七三二	五五、八六六	六四、八六二	二二、一〇三	二五五、六四二	九四、三三四	一四二、四一〇	二二七、〇八七	一九五、一七四
十一月	一〇一、五〇〇	四三、四六七	五〇、二〇四	六〇、三五六	二九、〇三九	三三〇、七二二	一〇三、六〇三	九四、一三五	二二二、二二二	一七五、五二〇
十二月	九四、一六四	四五、八九六	三八、七三九	七五、一九一	三四、三六〇	三四八、〇四八	九四、八九二	一〇〇、三九七	二〇四、三八四	一六二、六三八

若松、門司兩港月末貯炭累年比較表

第四章 貯炭、積船及販賣店 第一款 貯炭

一月	一七六、七八二	一八三、九一六	二三四、三四四	三九五、八五九	八〇四、七二四	一五三、三二一	一八七、三二五	三三三、三五八	二〇三、三〇八	一五七、三九五
二月	一五九、七八二	一八〇、六五五	一六二、六五六	三五二、九〇〇	七八九、三七二	一六八、三六四	一八〇、五五〇	三三〇、八六五	一八八、二九〇	四四五、九三八
三月	二〇八、九三三	一七四、六二九	一四〇、〇四四	三六四、六九八	八二二、六九四	二八三、四九八	一四一、〇六五	三三二、七六五	一九五、八六一	三七三、三〇一
四月	二七七、五九九	二二五、九七九	一七〇、七〇二	二七五、四三一	七八九、五四〇	三九九、八六二	一八四、一八五	三三四、〇一八	二五九、三七二	三三五、九五九
五月	三三五、七五八	二六一、八二五	二二九、五七九	二六〇、三三九	七四三、三七七	四九五、五八二	一七六、四五四	三三四、〇四三	三二二、一五六	三五九、四四二
六月	三八七、一五四	二九六、五三四	二七六、九五五	二五四、二五五	七三六、七六四	五七四、九四〇	一九〇、〇七〇	三〇三、四五〇	三七一、四〇八	三三九、九九七
七月	四三〇、六八二	三三〇、九三〇	二九七、三四四	二四八、三四七	七九一、一八〇	五九一、二九一	一三〇、一三一	三四六、四二二	四〇〇、二九七	三〇七、九四〇
八月	四三三、六四七	三二一、一九二	二五五、四〇一	二二〇、九二五	六九一、一一一	五四六、四六三	一五七、五六七	三〇四、九八〇	三九三、七二四	二六八、九〇二
九月	四九一、三六六	二八四、七三〇	二〇、九一六	二二四、九三六	六五二、九一九	五三六、一七一	一三九、七五三	二八五、三六五	四〇三、三六三	二八八、一三四
十月	四七八、八〇三	二六二、三三六	三〇三、七八六	二二九、四三三	五八九、八四二	五九四、九二五	一五三、三三三	二八三、六九九	四一四、〇三八	二八四、七六〇
十一月	四七九、六五九	一七七、五三九	一六三、九七九	二二八、六四四	五三三、九八八	七三三、六八九	一五五、六六五	二〇八、八三九	三五七、六三〇	二七二、四一四
十二月	四六七、六五九	一五七、六八二	一四三、三五〇	二六〇、八一九	四六五、四二五	七七七、〇九二	一九二、七八〇	一九六、九六二	三四一、六二二	二五七、九五八

第二款 貯炭場の面積及使用料

▲若松之部

貯炭場位置	面積	使用料(一ヶ月)	貯炭場位置	面積	使用料(一ヶ月)
牧山	七五五坪	自用	中島	二、二五七坪	自用
葛島	一〇、〇〇〇	自用	若松驛構内	一八、二九一	自〇五〇至二〇〇
一文字	一、五四六	自〇八五至二二〇	藤木	五二、一八二	自〇八五至二二〇
戸畑驛構内	一六、五五七	自〇八〇至二五〇	同	五〇〇	自用
築港濱	四、一〇〇	自用	一文字	二〇〇	自用

▲門司之部

廣石、白木崎	一三、七一九	六五〇	江ノ浦(彦島)	七、六七一	自二五〇至三〇〇
葛葉、小森江	一八、五二六	二五〇	弟子待(同)	一一、四二三	自三五〇至四〇〇

▲東小倉之部

東小倉驛高濱海岸貯炭場面積は一萬〇六百三十四坪にして使用料一ヶ月一坪に付金拾貳錢乃至貳拾五錢也

第四章 貯炭、積船及販賣店 第二款 貯炭場の面積及使用料 一二五

(備考) 水運事情

派出所 通船の差配、取締、及組合費(現徴収を要するもの)徴収等の事を處理する爲め、堀川筋は折尾町折尾に、江川筋は島郷村淺川に、鑛業兩組合の共同派出所を設置せり。

遠賀川 水深淺く、且砂土の流出烈しく、自然の流水に任するときは、通航し能はざるを以て、常に浚渫及水寄工事を施し、航路を作り、通船を便する爲め、現時十六名の浚砂夫、監督一名を常設せるも、夏期湯水甚しき場合は、積荷額を減じ、又全く通船し能はざることもあり。

堀川 川幅平均約四五間に過ぎざる處、上下の通船頻繁輻輳し、動もすれば航路を塞ぎ、混雜するこもあり、且井堰の閉閉等を爲すの要あるを以て、之れを便する爲め、船捌人六名を設置し、常に従事處辨せしむ。

本川は郡營の河川にして、毎年春秋二回、定期に修繕工事を施す爲め毎回五日、乃至七日間閉鎖し、其間は全く通船を停止す、又夏期田方用水期中は、三ヶ所の用水堰ありて、任意通船し能はず、爲めに同川通過に、約二日乃至四日を費すこもあり。

遠賀川筋所屬船の上り船は、古來堀川通航を許さざる慣行ありしも、大正二年四月十日より、此舊慣を解放せり。

江川 晝夜の満潮を利用し、通船を便し、大旱魃の外、井堰築設等のこなき。

船積載量 石炭積載は、河水の模様により、増減ありて一定せざるも、平均一艘一航廻、約八噸半を積載せり。

船運賃 里程の遠近のみに依らず、通航河川の難易等を斟酌し、古來協定したる賃率を基礎として定めたるものにして、時に依り高低あり、最近協定のもの別掲の如し。

第三款 船積設備及手數料

若松港沿岸若松驛内に新舊二臺、同じく戸畑牧山沿岸に、三臺の石炭積込機械を裝置する外、何れも仲仕の手を以て船積するを例せり、今門司若松兩港に區別し、其の取扱にかゝる手數料を列記すれば左の如し。

若松港	に於ける一噸當り諸手數料は左の如し。但し特約あるものは例外なり。
若松、戸畑兩驛着炭後	着驛後六時間を経過せしも 一噸に付 金拾五錢
停滯料	其の未滿毎に科する金額 但し瀧船積は 一噸に付 金五錢
石炭商同業組合經費	着炭、積出炭とも各別に 一ヶ月 金壹圓四拾錢
	着炭、積出炭とも各別に 一ヶ月 金參毛

解船運賃表 (大正九年九月一日より實施)

區別	單位	賃金	日待	滯船料
自若松	石炭	六二〇	着船二日用拾三日より五日目迄金六錢六日目より金八錢八日目より金九錢	
至門司	一噸に付	六二〇	但し門司行は廻船三日用拾積切迄港内日待を支拂ふ	

第四章 貯炭、積船及販賣店 第三款 船積設備及手數料 一二七

自若下	汽船燃料 一噸に付	六三〇	同
自若小	石炭	六〇〇	同
至延福	命寺	一噸に付	
自皇	司崎	六七〇	同
港内取廻	同	二九〇	{日待廻船三日用捨四日目より六日迄金參錢八厘七日目より金六錢九日目より金七錢十五日目より金八錢
自若	木松	三一〇	同
至(番河以西を云ふ)	同	三八〇	同
自若	二子島東方	三二五	同
自若	光松	四一五	同
自若	崎松	四一五	同
自若	崎松	四一五	同
自若	崎松	四一五	同

自若	鐵下	同	四四〇	同
自若	司松	コルクス	七二	日待二日用捨三日目より金九厘八日目より金壹錢壹厘
至門	同	一俵に付	三五	日待二日用捨掛日三日目より金五厘八日目より金八厘
港内取廻	同	同		

但し荷主の都合による端數には「下ダメ」を支拂ふ事  
備考 特約あるものは本表に依る限りに非ず。

若松港石炭仲仕賃金最高標準表 (大正九年十月一日より實施)

作業別	單位	賃金
汽船荷物積込賃(穴繰賃共)	壹屯	五三八
同 燃料積込賃(穴繰賃共)	同	六二一
舢舨より舢舨又は帆船瀬取賃	同	二九四
雇日	役	壹人
舢舨陸上	賃	壹屯
舢舨陸下	賃	二五二
貯炭場より汽船直下(穴繰賃共)	同	二一一
操替	賃	三七八
第四章 貯炭船積及販賣店	同	二一三
第三款 船積設備及手數料		一二九



棧橋より汽船積穴繰賃

新棧橋西部

同 中部

同 東部

同 棧橋

同 棧橋

同 戸畑棧橋

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

棧橋より汽船積穴繰賃	同	四八
新棧橋西部	同	四六
同 中部	同	三八
同 東部	同	三五
同 棧橋	同	三五
同 棧橋	同	三五
同 戸畑棧橋	同	三八
同	同	三五
同	同	二七九
同	同	二二六
同	同	九四
同	同	一〇五
同	同	二一六
同	同	四五
同	同	三五

汽船荷物夜業、燃料夜業、燃料片サイド持越増は各當該賃金の四割増とす  
 陸仲仕夜業増は當該賃金の三割増とす  
 貯炭場は貳拾五間(新棧橋下は海岸より貳拾五間)を以て壹肩とす

塊粉篩分賃は解陸上賃解陸下賃の合計に金參錢を加ふるものとす  
 補助機關付の帆船積込賃(穴繰賃共)は汽船積込賃より二割五分引きの事  
 鐵道省より指定されたる棧橋荷卸場所着炭屯數が壹ヶ月參萬五千屯に充たざる場合は特に賃金の割増を要する事

◎特約あるものは本表に依る限りに非ず

附記 若松港内戸畑沿岸字牧山下の石炭積込機中二臺は、米國「クリブランド」、「アラオン」會社の製造にかゝり、卅八年三月中据付工事に着手し、同年十二月竣工、卅九年三月中始めて試験的積込を爲し爾來今日に至りしもの、他の一臺は最近の設置に屬するものなり而して其の積込能率は、十噸積炭車三十臺を一時間に取扱ひ得べく、即ち一時間三百噸の割にして、假に此割合を以て算すれば、三臺にて一時間九百噸、十時間九千噸一晝夜間全力を費せば二萬千六百噸となるべき勘定なり。

門司港 に於ける一噸當り諸手数料は左の如し、但し特約あるものは此限りにあらず

門司驛着炭停滯料 (若松の記事に同じ)

石炭商同業組合經費	人別課金	一ヶ月に付	金貳
取扱炭	炭	一噸に付	金壹

門司港石炭解船最高標準賃金表

作業別	単位	賃金
港内舁運賃	一噸	三三〇
滞船料	同	五五

但滞船料は二日用捨(荷役不能の日を除く)三日目より一日に付  
右大正九年九月十六日より實施す

門司港石炭仲仕賃金最高標準表

作業別	単位	賃金
陸上	一噸	四五九
陸下	同	三六〇
同夜業	同	三割増
高架棧橋撤除	同	二八五
汽車卸	同	三九九
舁瀨取	同	四四三
繰替	同	三一〇
精撰	同	五七二
硬撰	百斤	一七六

吹	百斤入八十斤	五九
本船焚料積	入一噸に付	八一三

但水面より「テツキ」迄廿四呎以上の船舶にして積込に依り同呎迄降下するまでは船舶の高低及荷役の難易に依り一割乃至四割の増賃を支拂ふ事あるべし。

荷物賃々使用積	一噸	八一三
同 無賃々積	同	七三二

但水面より「テツキ」迄廿四呎以上の船舶に一部少量の積荷を爲す場合は便宜増賃を支拂ふ事あるべし。

同 夜業	五割増	
穴 繰	一時間	一九九

右大正九年十月十六日より實施す

第四款 販賣店

筑豊炭の販賣店は其送出先毎にあれど、其主要市場たる門司、若松兩港別に、石炭商同業組合人名を擧ぐれば左の如し。

▲若松石炭商同業組合員 (大正九年十月一日現在)

(商號)麻生商店 麻生米吉  
 (商號)東 商店 東 伍助  
 (商號)安部川商店 安部川房一  
 (商店)今西商店 今西林三郎  
 (商號)飯田商店 飯田幹璋  
 (商號)今井商店 今井棟一郎  
 (商號)井手商店 井手宗次郎  
 (商號)石元商店 石元直太郎  
 (商號)日本商會 今井多三郎  
 飯野商事株式會社  
 (商號)宇都宮商店 宇都宮幸次郎  
 (商號)瓜生又藏商店 瓜生又藏  
 (商號)海老名商店 海老名信一  
 大阪商船株式會社  
 株式會社大藤商店  
 (商號)尾崎商店 尾崎寅之助  
 (商號)三和商店 小川清太郎  
 (商號)尾崎商店 尾崎寅之助  
 (商號)尼崎瀛船部 尼崎伊三郎  
 合名會社安藝商店  
 (商號)池田商店 池田伊三郎  
 井上續業合資會社  
 (商號)今泉商店 今泉藤三郎  
 (商號)岩田商店 岩田熊吉  
 (商號)伊勢田商店 伊勢田捨三郎  
 (商號)西村商店 稻永繁太郎  
 (商號)五十嵐商會 五十嵐勝芝  
 (商號)會石炭部 瓜生德藏  
 (商號)瓜生商店 瓜生德藏  
 (商號)長谷川商店 占部茂吉郎  
 海老津炭礦株式會社  
 (商號)大島商店 大島虎吉  
 (商號)因島同盟石炭商店 岡野禎藏  
 (商號)大森商店 大森程藏  
 大倉商事株式會社  
 (商號)安部商店 安部永太郎  
 (商號)死牧商店 死牧金世  
 (商號)朝倉商店 朝倉近  
 (商號)伊藤商店 伊藤健輔  
 (商號)岩崎炭坑 岩崎久米吉  
 (商號)石田商店 石田與吉  
 (商號)今田商店 今田靜江  
 伊藤商事株式會社  
 (商號)入江石炭商店 入江契次  
 合名會社池田炭礦  
 (商號)池永商店 笛吹次松  
 (商號)植谷商店 植谷忠吉  
 (商號)大庭商店 大庭岡之助  
 (商號)小田國商店 小田國太郎  
 株式會社太田商店  
 株式會社岡田商店

一三四

(商號)小田善商店 小田善夫  
 (商號)岡崎商店 岡崎増太郎  
 (商號)三和商店 奥村久吉  
 (商號)大田商會 大田庄松  
 (商號)河野商店 河野伊之助  
 (商號)安村炭坑 垣内吉松  
 (商號)柿田石炭商店 柿田清  
 共同曳船合資會社  
 (商號)北川商店 北川潔  
 九州炭業株式會社  
 (商號)菊永商店 菊永秋豐  
 (商號)黒上商店 黒瀬隆三  
 (商號)桑野商店 桑野平九郎  
 (商號)兒島商店 兒島卯太郎  
 五本松炭礦合資會社  
 (商號)是枝商店 是枝綱吉  
 合資會社佐藤國石炭商店  
 第四章 貯炭船積及販賣  
 (商號)尾島商店 尾島月太郎  
 (商號)三英石炭商會 荻田清  
 (商號)小神炭坑 小島治平  
 (商號)小田商店 小田修一  
 貝島商業株式會社  
 (商號)加藤商店 加藤乙秀  
 (商號)三盟社 河崎薰二  
 (商號)木下石炭商會 木下龜  
 株式會社丸一商會  
 極東續業株式會社  
 (商號)國本商店 國本勝太郎  
 (商號)窪田商店 窪田貞吉  
 合資會社熊谷石炭商店  
 (商號)小林商店 小林策郎  
 (商號)小林商店 小林禎三  
 株式會社佐藤商店  
 山九運輸株式會社  
 (商號)小野田商店 小野田福平  
 (商號)森崎組 尾高大治  
 (商號)山ノ谷炭坑 小川右作  
 (商號)川本商店 川本房吉  
 神戸棧橋株式會社  
 唐津岩城商會  
 (商號)來島商店 來島吉太郎  
 (商號)岸本商店 岸本喜太郎  
 (商號)菊本商店 菊本德次郎  
 九州石炭株式會社  
 (商號)倉田商店 倉田嘉平  
 (商號)倉成商店 倉成庫次郎  
 (商號)古賀商店 古賀忠護  
 (商號)小泉商會 小泉早彌太  
 小倉續業株式會社  
 (商號)坂本商店 坂本敬一  
 合名會社佐藤商店

一三五

合資會社榊原商店  
 (商號)柴 商店 柴 茂三郎  
 福岡鐵業株式會社  
 (商號)柴田商店 柴田博愛  
 (商號)住友若松 男爵  
 (商號)炭業所 住友吉左衛門  
 (商號)須田商店 須田壯一郎  
 (商號)關 商店 關 東次郎  
 (商號)副田商店 副田 萬吉  
 (商號)高橋商店 高橋 恒太郎  
 (商號)高野商店 高野 勝三  
 (商號)寶邊岩次 寶邊 岩次郎  
 (商號)郎商店 郎 商店  
 (商號)田中榮商店 田中榮次郎  
 (商號)竹內齊商店 竹內 齊  
 合資會社中外洋行  
 株式會社都留商店  
 合資會社 巴 組  
 (商號)繩手商店 繩手 山吉  
 (商號)白井商店 白井 祖一  
 合資會社自念組  
 松風工業株式會社  
 (商號)柴田商店 柴田 村吉  
 株式會社末松商店  
 (商號)菅原商店 菅原 又治  
 合名會社成東商會  
 (商號)旭 組 園 田 庄 助  
 (商號)田口商店 田口 環  
 (商號)竹內商店 竹內 一男  
 株式會社高島商店  
 (商號)高取商店 高取 乙平  
 (商號)內海帆船同盟禮上常三郎  
 中國帆船株式會社  
 帝國炭業株式會社  
 (商號)鎮西炭坑 友枝 梅次郎  
 (商號)中野商店 中野 昇  
 (商號)島津商店 島津 勇太郎  
 (商號)篠原商店 篠原 坂次郎  
 (商號)清水商店 清水 勝彪  
 (商號)柴田泰藏商店 柴田 泰藏  
 (商號)隅谷商店 隅谷 房吉  
 (商號)關 商店 關 市作  
 合名會社妹尾石炭商店  
 (商號)寶邊商店 寶邊 直之  
 (商號)田中商店 田中 勇太郎  
 (商號)峠 商店 峠 國松  
 (商號)田中實治商店 田中 實治  
 (商號)谷 商店 谷 三平  
 (商號)高木商店 高木 長三郎  
 (商號)丸千商會 千坂 春之助  
 榊木商事株式會社  
 豐國鐵業株式會社  
 (商號)中里商店 中里 忠治

中平石炭株式會社

(商號)中村商店 中村 岩太郎  
 (商號)廣運社 中田 好太郎  
 日本運輸株式會社  
 (商號)野口商店 野口 爲太郎  
 (商號)範多商店 範多 竜太郎  
 (商號)平井商店 平井 萬次郎

久恒鐵業株式會社

古河商事株式會社  
 (商號)福田商店 福田 茂平  
 (商號)二輪商店 堀田 源次郎  
 (商號)松川商店 松川 駒次郎  
 (商號)松尾商店 松尾 龜次郎  
 (商號)喜久屋商店 松岡 二郎

株式會社三笠商會

合資會社水之江商會  
 (商號)水之江清商店 水之江 清

第四章 貯炭船積及販賣店

中島鐵業株式會社

(商號)永見商店 永見 治郎  
 (商號)永松商店 永松 實  
 (商號)中村照商店 中村 照  
 (商號)森本商店 野口 才之助  
 (商號)三海商會 能美 一治  
 (商號)林 商店 林 孫市  
 (商號)江口商店 平井 菊次郎

合名會社古河鐵業會社

(商號)藤本商店 藤本 駒吉  
 (商號)古川商店 古川 又四郎  
 (商號)眞鍋商店 眞鍋 道彦  
 (商號)松浦商店 松浦 松太郎  
 (商號)松尾商店 松尾 謙吉  
 (商號)松本商店 松本 吾市  
 (商號)水町商店 水町 一介

三菱鐵業株式會社

(商號)三吉商店 三吉 與一

第四款 販賣店

中島鐵業株式會社

(商號)中幸商店 中 幸七  
 日本郵船株式會社  
 (商號)野村商店 野村 作太郎  
 (商號)端野商店 端野 米吉  
 (商號)平野商店 平野 勝之助  
 (商號)樋田商店 樋田 健  
 (商號)藤田商店 藤田 歡治

株式會社福松商會

(商號)藤田商會 藤田 實造  
 (商號)正木商店 正木 辨次郎  
 (商號)松江商店 松江 金太郎  
 (商號)萬俣商店 萬俣 兵太郎

三井物產株式會社

(商號)三好商店 三好 靜夫

(商號)宮川商店 宮川鍋吉 (商號)宗像商會 宗像半之助 (商號)村田商店 村田忠之助  
 (商號)野見山商店 野見山孫八 (商號)廣島商會 旨森格雄 (商號)森商店 森 幾三郎  
 (商號)安川商店 安川敬一郎 (商號)守田商店 守田喜代松 (商號)森山商店 森山信通  
 (商號)松本商店 男爵 安川敬一郎 (商號)山久商店 山本久吉 (商號)柳川商店 柳川精四郎  
 (商號)野田商店 安增新太郎 (商號)山崎商店 山崎宗太郎 (商號)矢田商店 矢田友三郎  
 (商號)彌登商店 彌登善六 (商號)山下商店 山下鐵業株式會社 (商號)安高商店 安高松次郎  
 (商號)八木商店 八木金三郎 (商號)鳳炭坑 山本豐吉 (商號)八隅商店 八隅清太郎  
 (商號)山崎榮商店 山崎榮 (商號)山田商店 山田久太郎 (商號)吉原商店 吉原伊太郎  
 山本九市 (商號)山二石炭商店 山本たか (商號)橫山商店 橫山誠之  
 吉田信太郎 (商號)財間商店 橫田善市 (商號)和田商店 和田實之助  
 小田謙三 (商號)和田商店 和田象太郎 (商號)大七組 和田芳郎  
 若松炭礦株式會社 若松海運株式會社 (商號)大七組 和田芳郎  
 若松帆船運輸株式會社 (商號)諸井商店 諸井千三郎 清田炭礦株式會社  
 (商號)野見山商店 野見山孫八 合名會社丸三商店 株式會社南昌洋行  
 (商號)岩下商店 岩下方正 問谷和吉 (商號)仲石炭商店 仲 保太郎  
 大谷清秀 (商號)清家商店 清家貫三郎 (商號)藤井商店 藤井榮太郎  
 (商號)白川石英商店 白川藏六

▲門司石炭商同業組合員 (大正九年十月一日現在)

三菱商事株式會社 支店長 三男 三井物產株式會社 支店長 二神駿吉  
 門司支店 門司支店  
 宮崎商店 宮崎 勇 安川松本商店門司支店 支店長 安川清三郎  
 合資會社大橋商會 代表社員 藤波重雄 山九運輸株式會社 事務取締役 窪山直吉  
 瓜生商會 支配人 內藤七郎 田上商店 田上敏雄  
 合名會社古河鐵業 支店長 大藏藤作 寶邊支店 寶邊岩次郎  
 會社門司支店 森本鐵三郎 清友商店 清友文造  
 森本商店 森本鐵三郎 清友商店  
 內藤商店 內藤清太郎 大阪商船株式會社 支店長 諏訪禮次郎  
 門司支店 門司支店  
 柳川商店門司出張所 柳川精四郎 松川門司支店 中村德次  
 若松佐藤石炭商店出張所 佐藤慶太郎 宗像商會出張所 宗像半之助  
 合資會社渡邊商店 代表社員 渡邊源吉 有部商店 有部龜太郎  
 池永石炭商店 笛吹次松 合名會社鈴木商店 支配人 西岡貞太郎  
 永和商行 永木石藏 合資會社巴組 代表社員 中野金次郎  
 田川組 田川千太郎 星野商店 星野榮治

是木商店	是木三次郎	日本商事株式會社門司出張所	岡田久太郎
古川商店	古川又四郎	古河商事株式會社門司支店	支店長 大藏藤作
中平石炭株式會社門司出張所	中平竹三郎	森松商店	森松仁七郎
岡枝石炭部	岡枝英一	田中實治商店門司支店	田中實治
藏内鑛業株式會社販賣部	藏内次郎兵衛	小原田石炭商店	小原田徳一
關 商店	關 東次郎	山下鑛業株式會社門司支店	支店長 折田新六
中島鑛業株式會社若松支店門司出張所	湯畑俊二	柴田商店	柴田三三郎
小林組高濱出張所	小林徳一郎	松昌洋行門司出張所	藤田義信
小林石炭商店	小林禎三	植山石炭商店	植山直造
永住商店	永住甚太郎	合資會社三星商會門司支店	倉賀野莊治
松井回漕店安達合資會社	安達茂七	二葉商店	中山惣一
小島商店	小島全助	九州炭業株式會社	末松辰三郎
計 五拾名			

### 第五章 内外仕向高

筑豊炭の需要地は之を内外二途に區別して説明するを便利とす、尤も需要地に對する仕向高の外、門司若松兩港にて内外瀛船焚料として直接供給せしものは、其瀛船の所屬により、之を内外二途に分轄して、前記仕向高に合計し、以て内外別の需要總高を見るの便に供することとせり。

#### 第一款 内地輸送高

▲輸送類別累年比較 筑豊炭の産額より、其坑所に於ける焚料又は販賣高を控除し、(一)各炭坑より鐵道により直に各驛(門司、若松、宇ノ島を除く)に送出せしもの、(二)鐵道の焚料として供給せしもの、(三)水運によりて小倉及芦屋に送出せしもの、(四)門司、若松、宇ノ島三港より海路内國各地に輸送せしものを合し、(五)尙門司、若松兩港に於て内國瀛船焚料に供給せし數量を總計し、最近二十二年間の統計を比較すれば左の如し。(別表参照)

▲全國消費炭總額に對する筑豊炭内地輸送高 前表の示す處に依り、筑豊炭の内地輸送高を以て、全國消費炭の總額に對比すれば實に左の如し。但し左表中全國消費炭の總額は農商務統計に據り、其の船舶、鐵道、工業、製鹽の四途を合計せしものにして、其の他の雜用炭を脱したる缺點あるのみならず筑豊炭の統計に於ても、門司、若松、宇ノ島等にて、地元の工場其他雜用に消費せしもの、及各炭坑に



武藏	尾張	安藝	播磨	長門	備前	伊豫	和泉	紀伊	備中	備後	朝鮮	周防	伊勢	阿波	土佐	讃岐
五五八、九〇八	四四〇、八四九	四三三、三六七	三三四、一三五	二五三、六八八	三三六、七〇一	二二一、〇二九	一九二、〇二八	一七二、三四九	四三、九六五	一三〇、二七五	二〇六、五三三	七五、五六三	六四、二三〇	六四、二六八	五九、五六八	五四、一九一
五六一、一五三	四〇〇、四五〇	三四〇、九二七	三二六、三六九	三四三、八三一	二四六、二七五	一九八、六〇六	一九八、四五三	一五四、四三九	八六、五八二	一一九、二〇四	一一七、四四六	六一、七一一	六七、六七四	五七、七四二	五八、六七七	四六、三七三
五七六、二一一	四三九、三二一	三五二、一七	二九〇、一〇四	二七〇、九九七	二五二、四四七	二三四、九四三	一八九、五三二	一五五、二八〇	一一六、九三三	一〇四、三五七	七三、五七六	七〇、〇六六	六四、九八四	五九、三四九	五七、二九八	五五、八九〇
四九三、〇六八	四四四、二七二	三〇六、八三五	二二六、六三五	二二二、五四四	二〇八、八八〇	二〇〇、四五二	一五〇、六四三	一三九、六六三	一四四、三四	八〇、二七四	六八、五八三	六二、〇三六	八七、二〇七	七二、〇八二	五四、四五七	六六、三四七
五二四、四三〇	四一〇、四五三	二八三、三五九	一四八、〇七六	二二〇、四七〇	一六四、二二五	二〇三、二六〇	一三五、二七二	一〇五、五一六	九二、三八	五一、二七〇	八三、〇一〇	五二、二四七	一〇七、三三〇	五四、二〇〇	四〇、八二五	六〇、五九五
五〇〇、九六九	四二七、二七二	二七九、九六七	一一四、〇三四	二〇三、六七八	一四九、四八九	一九〇、二二九	一一四、三四六	一一三、七七八	四三、九八〇	五一、七二六	九四、七三三	四二、二四四	一〇〇、九五六	三七、六八四	四三、六七一	四九、五二二
七〇六、〇九三	四九六、七八九	三七、一八一	一一四、五八二	一八七、九三二	一四八、七〇九	一八五、六四三	一〇四、八〇八	一二五、四八〇	三八、七六二	六〇、五九三	九五、八一五	四二、六三三	一三五、七三六	四一、六三五	五一、一九七	四五、六六二
六三三、九二九	四四九、四一四	二八九、七八九	一一五、〇六一	一八二、四三七	二四、九〇四	一六二、〇三〇	九五、三六七	一〇七、七七六	二五、四七七	五四、九六一	一五〇、七四八	四〇、五九一	一四六、七六〇	二七、七〇四	五四、〇九六	四三、四九一





石見	志摩	若狹	豐前	日向	琉球	能登	筑前	丹後	越中	淡路	越前	三河	駿河	伯耆	越後	豐後
一、五八五	一、〇七〇	三、二一六	三三、八〇〇	二、七三六	三、七三五	三八、四二七	二五、一四五	七、九一〇	一七、二二四	三八、五九二	二〇、九〇六	四八、四〇五	三三、九一六	四四、九三五	三九、一二二	三四、六二三
二、四八七	三、三五五	六、〇六二	一〇、六二二	二、七三〇	五、二八三	二九、三四九	一六、七〇五	一三、三二八	二二、二八二	二五、二九一	三三、二四五	三三、八一七	三八、一四六	四三、八一五	八七、八〇二	二九、六九一
三、四四九	四、〇五一	四、二二三	五、九五九	六、三四二	六、九〇四	六、九〇八	六、九七四	七、二六七	一五、七三二	二二、九〇三	二五、六七七	三一、五七五	三三、六四四	三四、八四八	三九、七一一	四一、一八八
二、九八八	六、九九八	二、三七三	六、一八七	九、三七二	四、八一〇	一〇、九八一	一、四二四	一八、六七八	二二、一三一	一九、四四九	一九、三四九	一三、三二八	二九、六〇三	二二、八七六	二二、四五七	二四、〇四七
二、四八八	二、一三〇	三、一七四	九、六〇六	二、〇七一	八〇〇	二、六八五	二五七	二五、〇四九	三三、三三〇	一九、八三六	二二、一六〇	二二、七六五	一七、五四四	一五、六七三	一一、四七七	二二、〇五四
二、四五二	一、四六二	四、〇五五	一八、七〇五	一一、四六八	—	二〇、三五〇	二五六	一七、六二九	二八、五六四	二八、五〇〇	二四、二八三	一三二	一六、三三一	二二、二二九	三三、一八四	二〇、四四二
一四五	二、三七〇	四、六一七	一八、九一六	九、五六三	—	三三、三九一	六五九	二四、四八三	三一、三四七	三三、七〇九	四〇、六八〇	一四六	二五、八一〇	二二、三五四	五〇、八四八	二六、一九四
二、八二〇	四、八八三	五、五三四	一五、一一八	八、二九五	一、九八九	三三、七七四	五三四	四〇、〇八七	二五、一三八	三〇、六五一	三三、九六四	一〇九五	二二、〇八一	一四、八九六	八四、一六六	二五、二六九

第五章 内外仕向先

第一款 内地輸送高

陸中	四五三	三五〇三	三、五七五	四、二二一	九一九	三、一八三	九、三五三
肥前	三八六三	一、九三四	三、〇六七	三、三六五	六、五九八	八、四二四	三五、二三三
因幡	二、七三二	三、二七〇	三、〇五〇	一、九八六	二、二〇〇	一、三二一	三九、六四四
出雲	二、五二一	三、九二五	二、九九〇	三、七二八	一、八四三	四、三六三	二、七六五
羽後	二、五四六	二、六七四	二、二八〇	四、七二二	一、三六三	三、一五〇	二、七六一
對馬	六四四	六二〇	一、一四四	一、六七二	七八	六二七	七、八〇一
佐渡	七三五	一、五六一	七九三	二、九九三	四、一八四	六、九八三	五〇七
陸奥	—	九五	四九三	二、八九四	—	三、九二六	七、九九三
大隅	二〇〇	九五	二八〇	—	三三三	一、二五四	三、二七
筑後	九〇	二八五	—	—	—	—	五〇六
壱岐	四、四四四	三四七	二〇八	—	—	—	—
伊豆	—	—	—	—	—	—	—
千島	—	—	—	—	—	—	—
常陸	—	—	—	—	—	—	—
薩摩	—	—	—	—	—	—	—
近江	—	—	—	—	—	—	—
壹岐	—	—	—	—	—	—	—

一四六

勝振	—	—	—	—	—	—	—
波島	—	—	—	—	—	—	—
遠江	—	—	—	—	—	—	—
加賀	—	—	—	—	—	—	—
但馬	—	—	—	—	—	—	—
相模	—	—	—	—	—	—	—
肥後	—	—	—	—	—	—	—
隱岐	—	—	—	—	—	—	—
羽前	—	—	—	—	—	—	—
後志	—	—	—	—	—	—	—
陸前	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—
小計	—	—	—	—	—	—	—
內船	—	—	—	—	—	—	—
焚料	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—

內國海路輸送先主要地別最近八ヶ年間比較

第五章 内外仕向先 第一款 内地輸送高

地名	大正八年	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	明治十五年
輪送先	二、三六二、二四〇	二、三四九、〇三六	二、二六六、五二一	一、七五〇、〇六五	一、二六八、〇五七	一、二六七、二四五	一、四八四、八九一	一、三九三、九九六
大阪	六八四、七四七	六八一、〇三三	六六九、一九四	五五九、一九七	四七六、三六〇	四七二、四九二	四七七、四三八	三七四、九三八
神戸	五二六、八九六	五二二、四四七	五四七、九七六	四八八、一三一	四八四、六五七	四四八、六三六	六〇四、〇四一	四八三、一三八
横濱	二四二、三六七	一九七、九一六	二五八、五二八	二七六、一五五	二三五、九五六	二三六、四四三	二九〇、六七二	二二六、七七二
熱田	三〇七、一九三	二三八、一五五	三三一、五七〇	一九八、二八三	一八一、〇三三	一九五、四四七	一三五、二六三	二〇四、一七一
吳	一四六、三〇一	一三七、三〇九	一三八、二三八	一二五、八〇五	九四、八八九	九四、五〇七	一〇七、三三一	九三、七二八
和歌山	一四二、三三七	一三九、七七三	一三三、四五二	一三〇、四四六	一五六、二八九	一四八、四七五	一三三、二九三	一四一、二八九
下關	一三〇、九九六	一三〇、八五五	一〇九、八七六	八四、二七一	四二、九四九	三二、一九〇	三七、三八一	三八、四九九
飾磨	九四、五七〇	一〇〇、六四四	一〇五、四〇七	八三、八一	七六、六七	六七、五四二	六六、八六一	六三、九四二
岡山	八七、三七七	九四、六八五	一〇三、七四四	一五〇、五五五	一六七、二三	一七六、九五六	一七七、七〇四	一六九、四一五
半田	一一三、三五八	一一三、七〇一	一〇〇、四三二	八一、八七五	八五、九一〇	七六、六四〇	八一、八九三	六七、六四九
尼崎	一〇四、三三九	九九、二九九	九六、五八九	七五、九三一	六二、〇六七	五六、八八七	四六、六三七	三四、八九六
岸和田	九、一三一	五二、七六四	八六、九四八	一〇六、一三二	五九、九六五	八、九五三	八、一七八	—
神島	七九、一九九	八八、五二八	八五、二七七	七五、六五二	四八、五八九	四三、三一七	三六、二五	三四、五五
高砂	五八、六八七	八三、〇七六	八〇、九〇〇	六二、六三九	六二、九一五	五八、二九三	四五、七九〇	五〇、四五〇

地名	大正八年	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	明治十五年
宇野	七八、〇〇九	八一、六一七	七二、八〇五	六一、三三三	四一、〇六九	三五、九二九	二七、四八二	一八、六三九
名古屋	一〇八、六四六	九九、三四八	六七、五七四	一三、二七七	六、〇六六	一一、〇四八	三、三六九	二、三三九
彦島	六八、四五三	一一五、六二九	六五、二五四	二二、五三四	八、〇六八	四、九三五	二、六六六	七六八
四阪島	六一、三六四	五八、六九八	六一、一七七	五七、五五一	四九、八三九	三三、三三九	二六、八三二	一七、六四五
四日市	五七、七六五	六〇、四七七	六〇、三五五	八〇、二八八	一〇一、八八四	九五、八八三	一一四、四七七	一四三、五五九
小野田	三五、〇五三	七三、〇五五	五三、一三〇	五八、六九〇	五二、九〇四	四〇、七九二	三六、四六一	二八、九五四
糸崎	七二、一七二	六〇、五八一	四七、五二七	三八、一八〇	一三、五七六	一五、二一九	三二、三九〇	三二、二六
宇品	三三、七七六	四二、四八九	三八、七九〇	二八、三二七	一六、五二八	一七、二二六	一八、二六〇	二二、〇八九
高知	四二、〇八三	三七、四三二	三八、一四七	三六、八八三	二七、一六二	三一、〇六八	三三、六六七	三七、二七一
家島	二、三二一	一四、四二六	三七、〇七六	七、二五五	(以下播磨に含む)			
徳島	三三、九八六	二九、七六三	三五、〇六五	三七、二八〇	二二、五八五	三二、七七六	二七、五三六	一六、二〇〇
廣島	二八、〇二八	二二、九六五	三〇、九六〇	三二、二九三	三一、五三二	二八、三〇五	三一、二六九	三五、九五七
新潟	八、七二二	三七、六五七	三〇、六〇〇	一六、九八一	一〇、一九四	二五、七六四	三八、八〇四	三四、三九六
東京	三三、〇二二	四八、七〇六	二八、一三五	三四、九三七	三八、二八七	五二、三三三	一〇三、〇五二	一三〇、七九一
徳山	二七、五四三	二四、四八四	二七、八四二	一四、三六八	七、六八二	三、七二三	八、三七五	一〇、三三四
宇和島	二七、〇八二	二四、六一一	二六、八七六	二二、四四九	二二、一八〇	二二、三二四	二二、二五六	一九、四九二
佐賀關	一三、三七七	一三、八〇三	一六、四六六	四、二六二	三、〇四二	四、七七九	五、四二五	三、七四二

第五章 内外仕向先 第一款 内地輸送高

一四九

高濱	三三、三〇六	二二、三九二	二六、四三七	三〇、八八二	三五、五二二	三二、五二九	三〇、五三二	三〇、七二〇
西ノ宮	二二、五六九	二二、九九一	二五、五四八	二二、二五〇	一九、九八二	一五、九六九	一四、三〇九	一三、四八七
境	四一、九三二	三四、八七五	二五、五一九	一七、九四三	一五、二四八	二〇、七六七	二〇、九四四	一四、五四一
今治	二二、七二八	一七、〇〇七	二五、〇三三	二六、三五二	一八、七八六	一八、八四六	一七、五四二	一二、〇九五
清水	一四、四八二	二五、三三九	二四、二五八	一四、一六九	四、四九五	三、一二六	四、〇一六	三、七七七
釜山	一六、五九六	三八、二二三	二二、二九一	二二、六九四	二二、四三三	三四、五三〇	二七、六二九	三五、三〇七
敦賀	一七、四三七	二〇、二一九	二二、六四八	一七、五三三	二〇、四三六	二〇、三三六	三五、九四八	二二、四三七
三谷	四三、一〇四	三二、三六四	二二、三二二	五、二〇二	一五、七	二〇、三三六	—	—
高松	二八、一五三	三三、三六二	二二、二〇五	二四、四五五	二二、一八三	二五、七八五	—	二四、〇六八
因ノ島	三三、二四六	三〇、二六五	一九、〇五〇	一一、〇八〇	六、二九六	七、五〇八	六、六三〇	四、九一一
尾ノ道	一一、七一九	一三、五三一	一七、三六六	一三、七七三	一五、四六七	一三、三三三	一〇、七九九	九、一四〇
片上	九、五六五	一四、三五〇	一六、四三三	一一、一五〇	六、九六四	五、二二八	四、四五四	五、五六〇
福山	一〇、九九〇	一一、四〇五	一六、〇六三	一一、〇九二	一〇、一七〇	九、六六八	六、六三三	五、三五四
撫養	一七、五四七	一三、〇六三	一五、九〇三	二七、〇〇六	二四、九七三	一〇、三八六	九、二一一	六、七六九
阪出	九、九一五	九、四〇一	一五、三三九	一七、六三一	一六、八八四	四、七七七	二、五九三	二、四四六
洲本	三三、四一〇	一三、七四六	一四、〇〇七	一四、八七二	一四、六四九	一七、六四二	一八、〇五二	一五、八四四
明石	二二、八二七	一八、六八六	一三、六三〇	二〇、六九九	一一、一五六	六、九〇三	五、七八六	九、六四二

網干	二〇、七六一	二二、〇八八	一三、五四一	二八、三四六	二四、一五五	一一、二六三	一一、五七八	一六、一〇九
伏木	二二、九三八	一七、六三三	一三、四三三	一八、二〇五	一九、三七六	二四、六二二	二七、四七九	一九、九七二
玉島	一一、五三二	一〇、九三五	一三、四〇七	一〇、九七六	一〇、四六〇	一六、四七四	一七、一一一	一五、三七〇
萩	二、七六九	六、四七〇	一三、二五五	一一、八五九	五、八〇一	四、二一九	四、二〇一	三、二六七
御影	二、五九六	八、二七六	二二、五六一	九、六〇四	二〇、八六二	六、五八五	八、六七	七、六六六
川ノ石	一一、六四〇	一一、〇六七	一一、二四〇	一一、八八八	一〇、五九六	九、九七一	八、九二二	七、二九五
契島	一、六七六	八、二八一	一一、〇四二	(以下安藝に含む)	—	—	—	—
三津ヶ濱	六、九三三	九、六三三	一一、九八四	一〇、九九三	九、九六一	一一、四一三	八、九七〇	八、三三二
元山	八、一三四	四、九四二	一一、八八六	五、八四五	六、八五一	七、六三一	三、四九三	九、三六〇
四大寺	一一、二五八	一三、八六八	一一、八三〇	一三、三〇八	六、九七九	五、〇三三	八、五六四	六、二四二
佐島	六、二五九	九、四九〇	一一、四二九	(以下伊豫に含む)	—	—	—	—
兼二浦	五、一四一	五、一〇七	一一、一四九	—	—	—	—	—
笠岡	七、八九四	八、五三二	一〇、一九五	一〇、七三四	八、〇九五	六、二〇五	六、八八九	五、四八一
仁川	四五、五四三	三、三六一	九、七四二	二四、八六九	三三、八八九	三三、八七一	四九、八八六	八四、四二五
由良	一〇、六二六	六、五八二	—	—	—	—	—	—
若松	二五、〇〇四	一六、六一六	六、九六八	一、三八三	六四	—	三〇四	一〇〇
加古川	二九、〇六七	六、九〇七	—	—	—	—	—	—

第五章 内外仕向先 第一款 内地輸送高



赤穂	三、八八一	二、四三五	一、八八七	三、一四九	三、三二二	二、六二四	一、七二二	二、七四九
蒲葎島	三九九	八〇七	一、七四七	三、八二六	二、九二一	一、四三〇	一、六四九	一、二三四
土崎	一〇五	二、四三三	二、二八〇	四、三三三	五二七	二六二	—	二、九九八
小倉	一六、五五九	五、五九九	二、七二六	四、二六〇	三、三〇六	四、一〇三	二、三二七	三、四一四
室蘭	—	—	—	四、五七二	一〇、二五九	一三、八二六	—	—
宇多津	八〇六	七九二	一、八九六	四、六六六	七、九八七	三、七二五	一、七〇一	一、三〇六
和田濱	九〇九	一、二五三	二、〇〇一	三、〇七七	一、九四五	一、六三三	二、二二七	一、九八〇
丸龜	四五六	一、一六七	二、一四七	三、二一八	一、四四八	一、六四五	一、三三九	七八九
觀音寺	一、六七五	二、五九九	二、八九三	四、五六三	三、六三四	二、三九四	三、六八六	二、四三三
釜石	四五三	三、五〇三	三、三七五	四、三二一	九一九	三、一八三	—	九、三五三
小郡	一、三三七	二、一六三	三、三七八	三、〇三二	一、八三八	二、七六九	三、〇九三	五、九〇三
鹽津	三、九一〇	三、五一〇	三、九五二	六、〇七三	二、二八七	二、八六四	二、二七〇	一、九一九
鳥羽	一、〇七〇	三、三五五	四、〇五一	六、九九八	二、一三〇	一、四六二	二、三七〇	四、八八三
小松島	七、〇五六	六、五七七	—	—	—	—	—	—
吉見	六、五三七	二、〇八〇	—	—	—	—	—	—
兵庫	三、三五八	四、六三五	四、〇七五	四、四〇三	五、九八七	五、九八五	一〇、〇八一	二、二六九
味野	四、九三三	五、〇五六	四、三五六	五、七五一	六、三九二	五、五四三	二、一六四	三、五五五
合計	—	—	—	—	—	—	—	—

以下略す。

第二款 海外輸出高 (附外國船燃料供給高)

▲累年比較 門司、若松兩港より筑豊炭の海外に輸出せられし數量、及外國船燃料として供給せし數量に就き、明治三十一年以後の累計比較を表示すれば左の如し。

海外輸出高及外國船燃料供給高累年比較

年 別	海外輸出高		外船燃料供給高		合 計
	門司より	若松より	門司	若松	
明治三十一年	七三四、〇六四	—	二七一、六八〇	—	一、〇〇五、七四四
同 三十二年	九七八、一六四	—	二六七、二二四	—	一、二四五、三七八
同 三十三年	一、一四六、三七三	—	四三〇、四九九	—	一、五七六、八七二
同 三十四年	一、八五〇、一三八	—	五二七、八三三	—	二、三七七、九七一
同 三十五年	一、六八三、四八二	—	四八五、二九六	—	二、一六八、七七八
同 三十六年	一、九〇四、二七一	—	五六六、六九五	—	二、四七〇、九六六
同 三十七年	一、五五一、七八八	九〇、七八八	六六三、八三二	五、六五二	一、三〇二、〇六〇
同 三十八年	一、一五二、六三二	二〇六、〇八二	七三五、四八五	一四、〇六八	二、一〇八、二五七
第五章 内外仕向先	第二款 海外輸出高		—		一五五











同	三十七年	二、七四一、三八六	二、三〇二、〇六〇	五、〇四三、四四六
同	三十八年	三、三〇五、五三三	二、一〇八、二五七	五、四一三、七八九
同	三十九年	三、六五一、五九六	一、九六八、四八五	五、六二〇、〇八一
同	四十年	三、七五六、〇二五	二、三〇九、四二七	六、〇六五、四五二
同	四十一年	三、九九三、九〇六	二、三六四、〇三六	六、三五七、九三二
同	四十二年	四、一六二、六一九	二、〇三二、三八三	六、一九五、〇〇二
同	四十三年	五、一六〇、九九六	二、一三二、六四五	七、二九三、六四一
同	四十四年	五、八五九、七五五	一、九五〇、六五三	七、八一〇、四〇八
同	四十五年	六、五九二、〇八五	二、一七六、四六八	八、七六八、五五三
大正	元年	七、一九〇、〇九一	二、四九六、二四九	九、六八六、三四〇
同	二年	六、八〇九、四六三	二、〇九〇、二〇五	八、八九九、六六八
同	三年	六、九三二、三五三	一、四四三、九六二	八、三七六、三二五
同	四年	七、九三五、五九五	一、三八〇、三三七	九、三二五、九三二
同	五年	九、一五二、五四五	一、二〇一、九二二	一〇、三五四、四五七
同	六年	九、五二九、一九三	八六九、五二六	一〇、三九八、七二九
同	七年	一〇、二四二、五八八	七三二、二三五	一一、〇四一、八二五
同	八年			

▲前表中船用炭の總額、並に全國船用炭に對する比較を見るが爲め、更に左に一表を附す。

年次

明治三十一年	七九一、一五八	—	七九一、一五八	—	七九一、一五八
同 三十二年	一、二四四、七九一	—	一、二四四、七九一	—	一、二四四、七九一
同 三十三年	一、四六三、八一二	—	一、四六三、八一二	—	一、四六三、八一二
同 三十四年	一、三九六、七四五	—	一、三九六、七四五	—	一、三九六、七四五
同 三十五年	一、五三四、二七二	—	一、五三四、二七二	—	一、五三四、二七二
同 三十六年	一、七四四、三四二	—	一、七四四、三四二	—	一、七四四、三四二
同 三十七年	二、三三八、一七二	—	二、三三八、一七二	—	二、三三八、一七二
同 三十八年	一、九九七、〇六九	—	一、九九七、〇六九	—	一、九九七、〇六九
同 三十九年	一、八〇四、七八七	—	一、八〇四、七八七	—	一、八〇四、七八七
同 四十年	二、三三三、〇四五	二、一六六、四七四	四、六一九、五九九	四、六一、六五二	六七一、三五三
同 四十一年	二、三三三、五一〇	一、五三三、一八六	三、八六六、六九六	三、三〇、七三五	六二〇、一九七
同 四十二年	二、四〇八、四二二	一、三五八、八五四	三、七六七、二六六	三五四、〇八六	四七四、〇四四
同 四十三年	二、三五八、〇六九	一、三八一、九四七	三、七四〇、〇一六	八九一、六三二	五四〇、三三一
同 四十四年	二、六〇七、一七六	一、二九六、五四五	三、九〇三、七二一	九一〇、八八五	五〇四、三〇一

第五章 内外仕向高 第三款 内外仕向高總額

門司若松兩港に於ける  
筑豐炭船用供給高

同四十五年	三、二七、八〇七	一、三八一、七七六	四、四九、五八三	九六六、〇一七	一六六	一、四九一、五二三
大正元年	三、一六〇、〇三三	一、五六六、五二六	四、七二六、五四八	一、一四六、四四四	五七九、五四九	一、七二五、九九三
同二年	三、九四三、四六四	一、一九一、八五七	五、一三四、三二一	一、一六七、八二四	四四四、〇三四	一、六一一、八四八
同三年	四、五七五、九六一	八〇九、二五四	五、三八五、二二五	一、一七三、五二四	三三二、一七〇	一、四〇四、六八四
同四年	四、三八、三三九	九三二、八八一	五、三三一、二〇〇	一、一〇三、三九九	三〇八、八九六	一、四一一、二五五
同五年	四、四七九、七五一	八三三、二五六	五、三〇三、〇〇七	一、〇九二、二七七	一七四、四七四	一、二六六、六五一
同六年	四、七七五、五七三	四九九、九二二	五、二七五、四九四	一、二九、五七一	一二四、四五五	一、二五四、〇三六
同七年	—	—	—	—	—	—
同八年	—	—	—	一、四五八、八七六	一四八、七六〇	一、六六七、六三六

## 第六章 筑豊石炭鑛業組合

### 第一款 組合事業の成績

筑豊石炭鑛業組合は、明治十八年四月福岡縣布達第三十四號同業組合準則に據り、組織せられしものにして、其の初め筑前の遠賀、鞍手、嘉麻、穂波四郡、及び豊前田川郡にて、各別の組合を設けしもの、同年十一月中、更に各郡組合聯合の必要を感じ、鞍手郡直方町に其の聯合會を開き、縣官及び有志者の幹旋により、互に主張を抛棄して五郡一致の團體とし、其の翌一月より遠賀郡若松港に筑豊五郡坑業

組合取締所并に石炭一括販賣所を設立することとし、福岡縣屬官石野寛平氏を推して組合總長とし、稻垣徹之進、安達仁造、安川敬一郎、麻生大吉の諸氏を経て松本健次郎氏現任たり、其間幾多の年月を共に組合事務を改善し二十八年十一月中今の組合事務所を新築して益諸般の設備を改め本邦實業團體中最も有力なるもの、一として世に知らるゝに至れり。

當初組合の常務は、唯一の運炭機關たりし遠賀川、及堀川筋の浚渫と、川筋に對する取締を主とし、兼て組合員の懇親を結び、相携て斯業の發達を圖るにありしを以て、先づ鑛業振興の機運に投じ、筑豊興業鐵道の敷設を促し、若松築港會社の發企を助け、各種の困難を排して其の成立を容易ならしめ、以て海陸運輸の大改善を遂けたるは、實に組合の公共的事業として第一に盡力したる効果なり。後明治二十三年鑛業條例の發布及び廿七年、鑛業法の公布に先ち、屢組合員の意見を徴して、之を當局者の參考に供し、法律制定上其の便宜を圖るに努めしこと又幾何なるを知らず、其他九州鐵道の開通、門司若松の特別輸出開始等に依り、斯業俄に勃興して年々著しき進歩を見るに從ひ、組合の業務亦複雑となり、他の壓迫を排除して内部の改善を圖りしもの一々屈指に暇なく、縣郡町村に對する組合一般の關係は、常に其處理の任に當り、互に彼我の利益を計りて其の行政上の便宜に努め、公共事業に對しては遠賀川改修工事費として金貳拾八萬圓を寄附せしを始め、東筑嘉穂兩中學校の建築費として各參萬圓宛、福岡縣立工業學校採鑛科設置費として金參萬壹千圓、福岡工業博覽會に金壹萬圓、警察電話架設費に壹萬貳千圓、直方高等女學校建築費、及福岡縣協賛會費として各金六千圓宛、其他教育、衛生、土木等の費用として、各方面に寄附せし金額は、尙幾十筆の多きに及ぶも今一々列記せず、尙明治三十七年七月以後

「筑豊石炭鑛業組合月報」と題する石炭専門の雑誌を發刊して廣く新業上の研究に資し、四十五年七月よりは毎月數回救助器使用の練習を行ひて不時の變災に備へ、大正四年には農商務省と共同して石炭坑爆發豫防調査所を設闢して銳意鑛山保安に關する研究に従事し大正六年には地を鞍手郡頓野村西尾の高台に卜し三十二萬圓の巨資を投じて筑豊鑛山學校を設立して新界有用の人材養成に努むる等直接に間接に本邦文物の進歩を補翼しつゝあり。

斯くの如くにして組合設立後三十餘年間、一意石炭鑛業の發達に努め、其の面目を一新して、地方の文物を改善し、成立の當時狐穴狸渠の觀ありし筑豊二州の煤田をして、本邦有數の大富源たらしめ、門司、若松の兩港をして、東洋屈指の大市場たらしむるに至りしは、我組合の經營措置其の宜しきを得たるもの、實に多きに居るべきを信する也、今左に重なる事業の二三につき摘記すべし。若し夫れ此の間に於ける新業發達の度合に至りては、明治十九年の送出炭僅に三十餘萬噸に過ぎざりしもの、大正二年に至りては一千餘萬噸なるに徴しても明か也。其の内容に至りては、本書第二章以下第五章に涉り、一々統計表を掲げたれば、今亦茲に贅せざるべし。

一、筑豊鑛山學校

(イ) 沿革

一、大正六年六月本組合常議員會に於て時勢の進運に伴ひ各鑛山坑内作業及労働者監督の爲め從來の小頭資格の係員養成の必要を認め之に適應する特殊教育を授くべき簡易學校を設立せんとするの議起り

之れが設立に關する調査を爲す ○十二月十一日組合臨時總會に於て鑛業に關する學理を教授し特に

實習に重きを置き將來優良なる技術者を養成する目的を以て私立筑豊鑛山學校設立を決議す ○七年

三月本校敷地として鞍手郡頓野村字四尾に壹萬參千四百五拾坪を買收す ○五月本校設立の件認可せ

らる ○六月運動場敷地として同村字十堂に參千六百拾六坪を買收す ○八月校舍建築に着手 ○十

月敷地土工竣成 ○同月工學博士山田邦彦を本校校長に囑託の件認可せらる

一、大正八年四月一日、二日第一回入學試験を施行し五拾名を第一學年に入學を許可す ○五月三日本

校講堂に於て入學式を舉行す ○十二月十一日開校式を擧ぐ。大正九年 ○四月一、二日第二回入學

試験施行四拾參名に入學を許す ○九月二十九日第一回卒業式を擧ぐ卒業生四十二名。

(ロ) 位置及規模

位置、直方町を東方に距ること約半里、南面の丘陵に據り中央に講堂あり本館と寄宿舎とは其左右に兩翼を張れり。校地總面積壹萬七千六拾六坪にして北方背後に松林を控へ地均ななたる敷地約六千坪あり建物は本館階下貳百八拾坪階上貳百五坪、講堂六拾四坪五合、寄宿舎階下壹百參拾四坪、階上同坪、食堂及浴室洗面場等壹百拾參坪、其他附屬建物約七拾坪餘合計平坪壹千餘坪を有し廊下七拾餘間を以て之を連絡す。

(ハ) 學則大要

○本科

- 一、修業年限 一年六ヶ月にして毎年四月入學翌年九月卒業せしむ
- 一、科目 第一學年に在りては修身、英語、作文、地質學及礦物學、採礦學、測量學、機械工學、製圖及設計、電氣工學、土木工學、分析、鑛山法律、實習實驗及校外見學を課し第二學年に在りては組合所屬炭坑に委託して採炭作業を實習せしめ且つ特別講義を課す
- 一、定員 各學年五拾名宛とす
- 一、入學資格 滿十七年以上の男子にして品行方正、中學校工業學校の卒業者又は之に准する者を採用す
- 一、入學試験 中學校卒業の程度により國語、漢文、英語、英文和譯、數學(代數、平面幾何、三角)物理及化學に就き試験し體質薄弱、近視強度、其他卒業後勤務に故障なるべき疾病、駐疾を有する者は採らす
- 一、在學 (イ)凡て寄宿寮に入らしむ (ロ)第一學年に於て學術優等、品行方正他生の模範となるべき者は特待生として第二學年の授業料を免除す (ハ)二ヶ月以上事故の爲め出校する能はざる者は休學することを得 (ニ)第一學年中は學科講義を確實に知悉せしむる爲め屢々附近の炭坑に就き校外見學をなさしむ (ホ)第二學年は大體炭坑に在りて實習し學校に出席して特別講義を聽講するは凡そ一週一回とす

○別科

- 一、修業年限 六ヶ月とす、二ヶ年三回の割を以て隔年に一月、九月及四月の始めに入學を許可す(第一回募集期未定)
  - 一、科目 採礦に關する諸學科の大意を教授す
  - 一、定員 五拾名とす
  - 一、入學資格 尋常小學校卒業以上の學力を有し滿十七年以上の男子にして筑豊石炭鑛業組合所屬炭坑に従業し當該炭坑の推薦に係る者を採用す
  - 一、入學試験 尋常小學校卒業の程度とす
  - 一、在學 全部通學とし授業料を徴收せず
- 本科生の爲めに寄宿寮を設け寄宿寮専任生徒監ありて訓育を掌り寮務書記ありて寮務に従事す、自習室は寢室兼用にして一室の定員は六名とす、外に圖書閱覽室、休養室及面會室等の設備あり。

二、變災豫防に關する施設

(イ) 安全燈試験

炭坑瓦斯爆發の一因が不完全なる安全燈にあるは、明かなるを以て、組合炭山に於ては、銳意之れが改良を計りつゝあり。當組合亦福岡鑛務署と協同して、直方町御館山に安全燈試験場新設の計畫をなし、大正四年一月工事に着手し、同年四月完工、爾來専ら鑛務署員監督の下に器械の調節及準備試験を續行し、同年十一月より引續き實地試験を施行し、各坑當事者一般に觀覽研究せしむ。

大正三年七月井上東大教授、佐野明專教授に設計調査を委嘱し、大體に於て獨逸ビスマーク試驗所に  
做ふこととし、安全燈試驗場に接続して、

爆發試驗用「トンネル」

一 基

断面	面	楕圓形
断面積		約二平方メートル
長さ		約三二メートル

を設置せり。此設備たるや敢て完全なるものと云ふ能はされども、炭坑員一般をして、瓦斯炭塵爆發の  
如何に恐るべきものなるやを實見せしめ得るのみならず、爆發藥試驗井に瓦斯炭塵の爆發豫防に關し、  
相當の試験成績を挙げつゝあり。

右の外同所に於ては、測風機の檢定、石炭、瓦斯分析をも行ふ。

前記諸設備を完成するに至りて、農商務省の交渉により、大正六年三月より石炭坑爆發豫防調査所と  
改稱せり。

三、救助器の備付及練習

當組合は組合炭山不時の事變に備ふる爲め、明治四十三年以來左記各種の救助器を購入し、之れを直  
方會議所に備付け漸次増補して、明治四十五年七月より各炭山の練習に供し、今年十月に至る迄、會を

重ぬること百六十八回、之れに従事したる坑員延數四千八百二十三人に達し、各坑共多數の熟練者を出  
すに至れり。最近從來の木造練習室を廢して不燃燒質「トンネル」を造り坑内坑道の實狀に等しきものと  
なし練習しつゝあり。

品目	數量
千九百九年式ドレーゲル救助器	貳 組
千九百十一年式ドレーゲル救助器(電話付)	三 組
同 (電話なきもの)	三 組
ウエストフアリヤ式救助器(電話付)	二 組
フロイス式救助器 (電話付)	二 組
フロイス式救助器 (電話なきもの)	二 組
其他附屬品	一 式

第二款 組合規約及役員

筑豊石炭鑛業組合規約

第一章 總 則

第一條 本規約は明治十八年四月九日日本縣第三十四號布達組合準則に基き福岡縣下筑前國遠賀鞍手嘉穂  
の三郡及び豊前國田川企救二郡内に於て石炭鑛業を營む鑛業人の間に締結し本縣知事の認可を経て施

第六章 筑豊石炭鑛業組合

第二款 組合規約及役員



行するものとす

一七四

第二條 本組合は其事務所を遠賀郡若松港に置き筑豊石炭鑛業組合事務所と稱す

但し事務の都合に依り鞍手郡直方町に支部を置き其他必要の地に派出所を置くことあるへし

第三條 本組合の目的は左の事項を處理し専ら鑛業の改良擴張を圖るにあり

一 採炭事業に關する諸般の改良進歩を圖ること

二 石炭販賣に關し共同の利益を保護すること

三 石炭運搬の便法を圖り其取締方法を議定實施すること

四 雇人及坑夫の制御及び賃錢并に救恤法に關し協議すること

五 鑛業に關する諸種の統計表を調製すること

六 組合規約及會議の決議を實施すること

七 官衙の諮問に應答し組合の意見を陳述し又は鑛業に關し建議すること

八 鑛業に關する官衙の布達其他不時商況の變動に付組合員の注意を促すこと

九 組合經費收支に關すること

但し石炭運搬の便法の一として施すへき河川の土砂浚渫事業は利害を共にする坑主に於て部分會を置き部分會に於て其の方法及經費徵收法等を議し單に部分會の事業として施行すへきものとす

十 官衙並に組合員の報告に關すること

十一 組合員の出入並に名簿保存に關すること

十二 組合記録調製に關すること

## 第二章 役員選舉

第四條 本組合に總長壹名幹事壹名及び書記若干名を置き組合の事務を處理せしめ外に常議員十六名を置き重要な事務を評議せしむ

第五條 總長及常議員は名譽職とし組合員又は實際鑛業に關係ある其代理人に就き組合總會に於て之を推薦す

但し任期は各二ヶ年とし満期後再選することを得

第六條 幹事は常議員會の議決に依り書記は總長の指定を以て之を任用す

第七條 總長は縣知事の認可を経て就任するものとす

## 第三章 役員職務

第八條 總長は本組合を代表し組合諸般の事務を統轄す

第九條 總長は臨時常議員會を開き議案若くは諮問案を發し其議決に依り迅速を要する重要事務を處辨することを得

第十條 總長は常議員の協賛を経て組合臨時總會を開くことを得

第十一條 總長は監督上必要な場合に於ては坑所に臨檢し或は産出炭量に關する帳簿を檢閲することを得

第十二條 幹事は總長の職務に參與し諸般の事務を整理す

## 第六章 筑豊石炭鑛業組合 第二款 組合規約及役員

一七五

但し總長不在又は事故あるときは代理することを得

第十三條 書記は總長常議員及幹事の指揮を受け分擔の事務に従事す

第十四條 常議員は毎月定日に會合し又は總長或は常議員の請求に依り臨時に開會し組合事務に關し總長を補佐し總長と共に左の事項を議決することを得

一 至急を要する事務の處辨及びひ之に隨件する經費支出に關すること

二 豫算外に生ずる經費金參百圓以下の支出に關すること

三 總長に於て總會を要せず認めたる事項に關すること

四 部分會決議の認否に關すること

五 臨時又は定時會計帳簿の檢閱

六 總長の職務中重要として特に諮問する事項

七 規約及決議の違背者にして處分に應せざる者の處置並に違約金に關すること

八 組合經費收支豫算並に決算の審査

九 組合常務取扱及議事細則に關すること

#### 第四章 組合員

第十五條 本組合員は第一條に掲げたる五郡内に於て石炭鑛區を所有し實際採炭事業を營む鑛業人又は其代理者に限るものとす

第十六條 組合員は經費として總會及常議員會の決議に係る金員を組合事務所へ納付すへし

第十七條 石炭鑛業人にあらざるも該炭等石炭の製産物に關し五郡内に製造を營む者は組合の承諾を得て組合員と成ることを得

第十八條 組合員は本規約を遵守し之に違背する者は其の責に任す可き旨を誓ふへし

#### 第五章 會議

第十九條 組合の會議は之を總會及部分會の二種に區別す

第二十條 組合總會は組合方針變更經費徵收額の規定會計の豫算及決算其他組合一般の利害得失に就き開會し其決議は組合一般の規約として畫一に履行す可きものと隨時利害に關する事項に就き協議に止め一致共同するものに限り履行するものと二種に區分す

但し協議に止る事項と雖も縣知事の認可を経て本組合規約の制裁を受くべきものとす

第二十一條 總會は毎年三月に開會し時宜に依り臨時會を開くことあるへし

但し臨時會は官衙の諮問あるか總長若くは常議員の意見あるか又は組合員五分の一以上の請求に依り開會するものとす

第二十二條 組合員不得止事故に依り會議に出席し能はざる場合は必ず相當代人を差出すへし若し此の手續を爲さざるときは棄權者と見做すへし

第二十三條 組合員十名以上出席するにあらざれば會議を開くことを得ず

但し開會すへき出席員數は追て組合員數確定の上相當比例を以て増減することあるべし

第二十四條 本會の議長は總長之に任じ總長不在又は事故あるときは會員中互選を以て議長を定むるも

第六章 筑豊石炭鑛業組合 第二款 組合規約及役員

一七七

のこす

一七八

第二十五條 本會の議事は普通會則に基き多數決に依る其の可否相半するときは議長之を決す

第二十六條 部分會は利害相關する一部の組合員の會合にして其決議は部分會員の間に執行するものこす

第二十七條 部分會は其決議に依り會員共同の利益を保護と損害を豫防する爲め會員より部分會經費を徵收することを得又違約者處分法を設くることを得へし

第二十八條 部分會の決議は組合總長の承認を得たる上本縣知事の認可を経て組合規約の制裁を受く可きものこす

第二十九條 部分會の決議は組合一般に及すことを得す又組合以外の者其決議に參與することを許さず

第三十條 部分會の議長は會員より互選して之を定む

#### 第六章 經費

第三十一條 組合の經常費は毎年三月の總會に於て來期の支出豫算に基き出炭高に比例し其賦課額を規定し徵收するものこす

但し徵收法は別に常議員會に於て之を定む

第三十二條 豫算外に生ずる費途あるときは特に臨時總會を開き賦課法を定むるものこす

第三十三條 組合經常費の外部分會に要する經費は該會の決議に基き該會員より徵收するものこす

第三十四條 組合一般の會計は部分會の會計と區別して處辨するものこす

第三十五條 本組合役員の俸給旅費日常及賞與に関する規定は常議員會に於て之を定む

#### 第七章 違約者處分法

第三十六條 組合經費及部分會の經費を其の期日に納付せざるものは相當納付高の一割増を納付せしむ尙督促の後滞納二ヶ月に渉るときは二割増を納付せしむるの外違約金として金拾圓乃至五拾圓を納付せしむ

第三十七條 經費金意納滿三ヶ月に渉るときは相當違約金及其割増を納付せしめたる上其の旨新聞紙を以て廣告すへし

第三十八條 經費相當高を故意に減少して納付したるときは其の相當額二倍を納付せしむへし

第三十九條 前三條の義務を盡さざる者は其の者の送炭を一時預り置き水運の分は適宜の場所に陸揚げし陸運の分は停車場内に留置き其の旨を通知したる上尙一週間に其義務を盡さざるときは該送炭を賣却し其の代價を以て徵收金額に充て尙ほ不足したるときは追徴し過剩あるときは返附すへし

但し陸揚又は留置に関する諸入費、及損害は、該送炭主の負擔たるへし

第四十條 本章の場合に於て其納付者は代人たるも本人たるもに係らず組合員本人其責に任すへきものこす

#### 第八章 役員處分法

第四十一條 役員不正不實の所業あるときは常議員會に於て其處分法を議定すへし  
但し重大の事件は總會の意見により決行するものこす

#### 第六章 筑豊石炭鑛業組合 第二款 組合規約及役員

一七九

第四十二條 本組合役員中其職務に堪へざる者と認定したるときは常議員會の決定に依り旨を諭し辭任せしむ

但し前條及本條の手續は總長之を定む

附 役員 當組合の役員は總長、常議員の外、幹事及び書記を置き其の常務を取扱はしむること、前記規約中に示す處の如し。總長は、其の第一回に於て石野寛平氏、次に稻垣徹之進氏、安達仁造氏、安川敬一郎氏、麻生太吉氏を経て松本健次郎氏現任たり、常議員は組合成立以後幾多の更迭ありし末、目下左の十三氏が在任せり。

組合總長 (大正八年三月上任) 松本健次郎

常議員

明治三十七年就任	岩崎久米吉	大正二年就任	藏内保房
同 三十九年就任	吉田良春	同 二年就任	佐藤慶太郎
同 四十二年就任	伊藤傳右衛門	同 二年就任	植木平之允
同 四十三年就任	三好徳松	同 四年就任	田邊勝太郎

大正七年就任 松隈三郎 大正九年就任 貝島健次

同 七年就任 中島徳松 同 九年就任 西岡貞太郎

同 八年就任 麻生太吉 幹事 (四十年就任) 伊吹政次郎